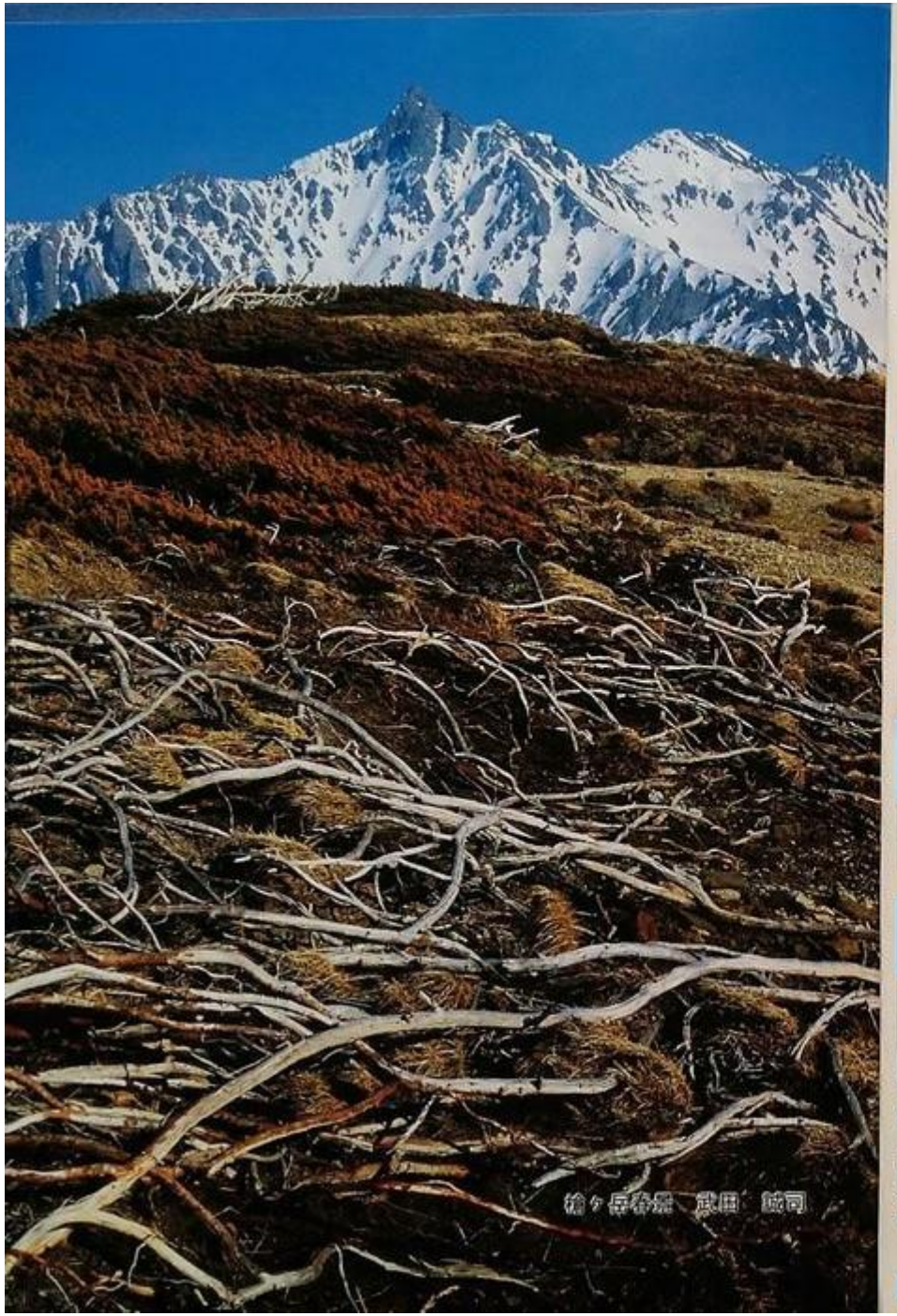


世界の山旅 辺境の旅

「一人では行けない、でも、行きたい。」
それにお応えするのが実体験に基づいた
アルパインツアーの旅づくりです。

35

……「新」総合カタログ完成……

ツアーカタログをご請求ください

〈A4変型88頁〉　〈A4変型28頁〉　〈A4変型32頁〉

青い空と白い村、雪をかぶったシェラ・ネバダの山々

南スペイン、アンダルシア 白い村をめぐるハイキング 9日間

出発地 大阪・東京

●5/7発……¥438,000

陽光あふれる南仏プロヴァンスを歩く

ハイキングでめぐる 南仏プロヴァンスの休日 9日間

出発地 大阪・東京

●5/19発……¥398,000
●6/9発……¥418,000

地中海有数の山岳景観

ギリシャ・フラワー ハイキング 10日間

出発地 大阪・東京

●5/13発……¥438,000

ロッキーのハイライト部分をハイキング三昧!

カナディアン・ロッキー ハイキング満喫〈初夏〉8日間

出発地 大阪・名古屋・東京

●6/8●6/15●6/22発……¥318,000
●6/29発……¥338,000

山上のホテルに泊まる

アルプス3大山群・たっぷり展望 ハイキング 9日間

出発地 大阪・名古屋・福岡

●6/21発……¥388,000
●7/14発……¥398,000
●8/20発……¥448,000

今年で35年目。アルプス・ツアーのロングセラー

アルプス・スカイライン ハイキング 12日間

出発地 大阪・名古屋・東京

●6/24発……¥468,000
●7/1発……¥476,000
●7/8発……¥496,000

アトラス山脈とモロッコ探訪

北アフリカ最高峰Mt.ツブカル登頂 とサハラ砂漠、モロッコ周遊 12日間

出発地 大阪・東京

●5/3発……¥480,000

最も身近な4,000m峰登頂

マレーシア最高峰 Mt.キナバル登頂 5日間

出発地 大阪・東京・名古屋

●5/11●5/25発……¥138,000

常夏のリゾートアイランドの高峰に登頂

マウナケアとマウナロア ハワイの4,000m峰登頂 6日間

出発地 大阪

●5/1発……¥378,000

チベット文化を伝える密教の聖域

秘境ラダック 8日間

出発地 大阪

●4/30発……¥328,000

韓国最高峰と神話の島

韓国・済州島 漢拏(ハンラ)山 3日間

出発地 大阪

●5/20発……¥123,000

中国、四川省の山旅

四姑娘山・山麓ハイキングと 九寨溝、黄龍 9日間

出発地 大阪

●5/31発……¥238,000
●7/16発……¥258,000

アルパインツアーのホームページをご覧ください。　http://www.alpine-tour.com

国土交通大臣登録旅行業第490号／(社)日本旅行業協会正会員 ⓐ ボンド保証加盟

アルパインツアーサービス株式会社

〒550-0003　大阪市西区京町堀1-4-3 肥後橋TCFビル2F

東　京／☎03(3503)1911　大　阪／☎06(6444)3033
名古屋／☎052(581)3211　福　岡／☎092(715)1557
札　幌／☎011(711)7106　仙　台／☎022(265)4611(転送)
(㈱)りんゆう観光)　広　島／☎082(542)1660(転送)

e-mail:osaka@alpine-tour.com

山仲間でオリジナルツアーを企画してみませんか。

山岳会、ハイキングクラブで
企画ツアーリーダーも同行し、安心の山旅

山岳会、ハイキングクラブなどで海外トレッキングやハイキングを企画したい、いつもの山仲間で海外の山歩きをしてみたい、というような場合には、アルパインツアーからツアーリーダーが同行し、ご案内をいたします。旅行プランについては、経験豊富なスタッフにご相談下さい。

出張説明会　山の仲間がお集まりのときに、当社社員が海外トレッキングのスライドを上映します。

Photo essay

瑞午

題字　中田蘭石
撮影　由井　収
文　松永恵一

緑陰の本堂（長谷寺）

「祭り」は葵祭　5月15日
すべてが葵の葉で飾られる
王朝風俗の伝統が残る優雅な祭
王朝絵巻を彷彿（ほうふつ）させる古典行列
勅使　検非違使　内蔵使　山城使
牛車　風流傘　斎王代
御所を出発する総勢五百余名
東山北山の峰々を眺望しながら
下鴨神社を経て上賀茂神社へ
下鴨神社境内の糺（ただす）の森
新緑の木もれびのなか
斎王代が一段と鮮やかに映える
松並木をぬって鴨川沿いを北上
勅使が御祭文を奏上し幣物を奉る
五穀豊穣　国家安泰

葵祭（下鴨神社・糺の森）

紫陽花（長谷寺・嵐の坂）

季節の実景

芦生の森

初夏

撮影　武市通治

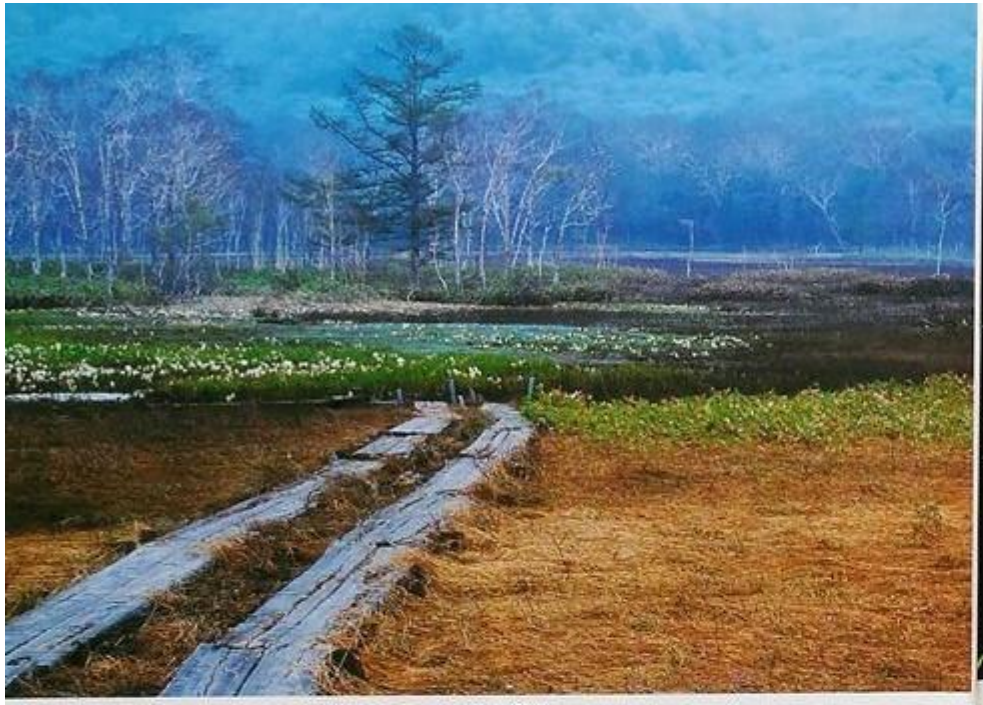
ミヤマカタバミ

苔むす岩

由良川源流

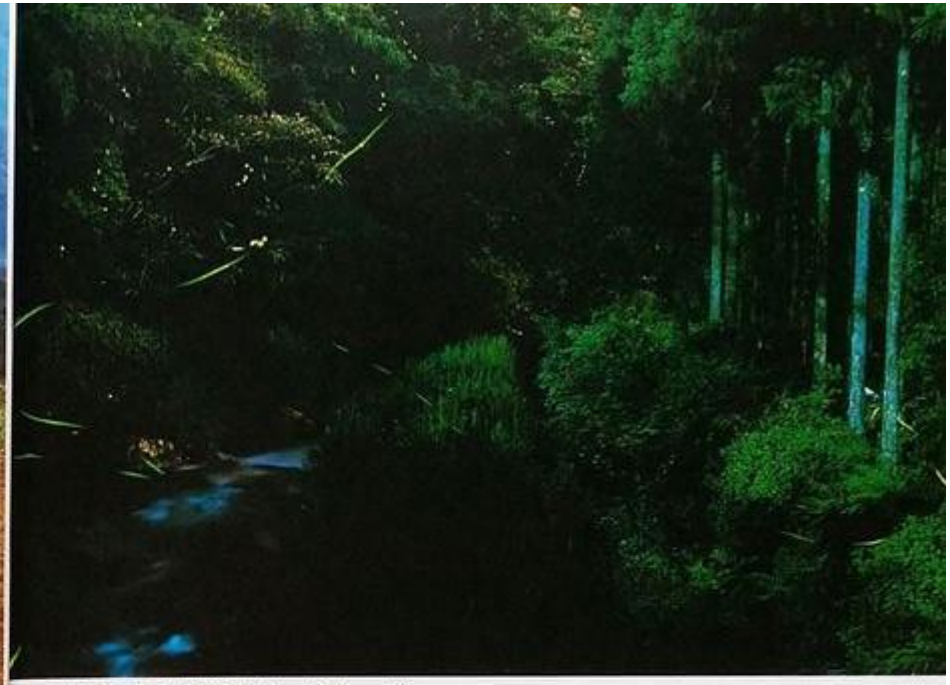
ブナの森

新緑のブナ



木道とミズバショウ群落（尾瀬ヶ原）　中川　節子

至仏山とミズバショウ（尾瀬ヶ原）　高岡　富美子



初夏の北山（京都北山）　山中　茂

正木ヶ原の日の出（大台ヶ原）　中川　光郎

新ハイキング 別冊 関西の山
'05年5・6月 初夏 第82号

●目次

表紙：松田敏男「雲海に浮かぶ南アルプス南部の山々」（東濃・富士見台）

●作者プロフィール●1949年、京都市生まれ。京都市立芸術大学卒。1987年より山岳版画、山岳画の発展多数開催。（京都平安画廊、南アルプス仙水小屋、東京ギャラリー百号、他）
京都山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員

●グラビア
端午……撮影 由井 収
季節の実景（初夏）「芦生の森」……武市 通治 4
（口絵）武田誠司 山中 茂 中川光郎 中川節子 高岡富美子 奥田英一郎 2
随想（山のエッセイ）
高山に登った花……鷲見 守康 10
そよかぜ……杉本 増生 11
私の一年……生駒 聳嶺 14

紀行
トムラウシ山〈北海道〉……北川 浩 16
尾瀬ヶ原から尾瀬沼〈尾瀬〉……田中 明 20
沢口山・天水・板取山・蕎麦粒山・大札山縦走〈静岡〉……鷲見 守康 24
大峰と白鳥山〈奥三河〉……山田 明男 28

連載 標高による山の紹介シリーズ 22 △△82ぶんの山
槇ヶ嶽・石鎚山・長堀山・権右衛門山……松田 敏男 30
紫香楽宮跡から飯道山〈湖東〉……木村 太郎 32
鵜川左股・右股出合から嘉嶺ヶ岳〈比良〉……小山 誠次 36
シャモニからグリンデルワルト〈ヨーロッパ〉……生駒 聳峰 40
連載 三角点を訪ねて㉞ 鉄鉢山〈丹波〉……礒部 純 56

●旗振り通信の資料Ⅳ……柴田 昭彦 48
●エリヤ別徹底研究 伊能ウォーク INやまと
⑤法隆寺～小泉庚申堂 ⑥小泉庚申堂～矢田寺
⑦近鉄郡山駅～秋篠寺～尼ヶ辻駅〈奈良〉……上田 倖弘 62
●文学歴史探訪ハイク㊸
高野山、徳川家霊台から苅萱堂へ〈高野〉……松永 恵一 66
●〈山のレポート〉山の地名を歩く㉑「霧山」……西尾 寿一 70
●〈山のレポート〉山とお金の話……生駒 聳峰 73

コースガイド
①朝日山〈鈴鹿北部〉〈湖北〉……長宗 清司 76
②雨乞岳〈鈴鹿〉……礒部 純 78

沿線ハイキングガイド……新ハイ関西山行計画 82
サービスチェーン……新ハイ関西山行報告 85
せせらぎ……編集後記・広告案内 86 101 112

巻頭言

ハイキングのキーワードは、歩くこと。テレビの人気番組「3年B組金八先生」のなかで、金八先生が、「歩の字は止と少からなっている。人生を歩むことは、少し止まって考えることです」と生徒に教訓を述べています。私は将棋が大好きで、暇さえあれば将棋チャンネルでプロ棋士の熱戦を観ます。将棋界では「歩の無い将棋は負け将棋」といわれ、プロは一歩を非常に大切にします。歩のつかい方いかんで優劣が決まります。飛車や角の大駒と違い、歩は前に一つしか進めません。まさに一歩一歩です。でもその一歩が王頭を攻め、相手を窮地に追い込むのです。

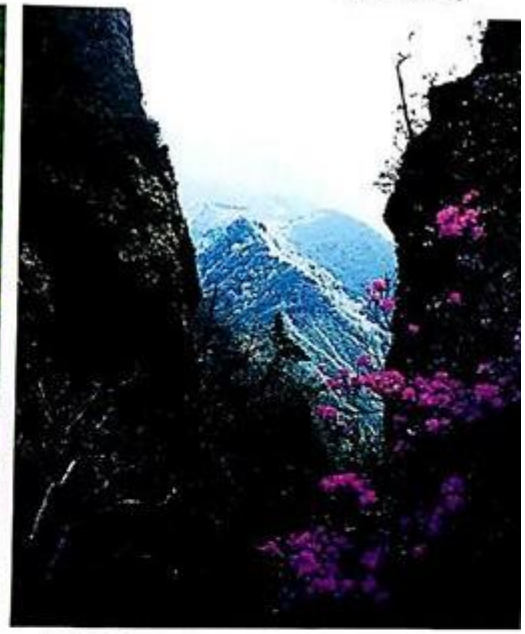
一方、私は「歩とは止まること少なし」と考えています。山を歩いていても、急ぎ足で速く行く人にかぎってすぐに休みをとり、やがてはバテ、ゆっくりと歩く人に追いつかれ抜かれてしまいます。まさにこのことは、山歩きの鉄則でしょう。登りでも下りでも時間に十分余裕のもてる計画を立て、将棋の歩のような歩きで山を楽しんで欲しいものです。前号でも触れましたが、お互い若くはないのですから。

新ハイキング関西（代表）村田 智俊

初夏を彩る －稲村ヶ岳にて（大峰）－

奥田 英一郎

クロモジ尾①



稲村ヶ岳キレット

クロモジ尾②

高山に登った花

鷲見　守康

短い夏に一斉に花を咲かせる高山植物は、本州中部では標高2500㍍以上、東北地方では2000㍍以上、北海道では1500㍍以上の山に登れば見ることができます。

高山植物の起源は大古、わが国が寒冷だった氷河期に北方の大陸からやってきて、やがて氷河期が終わり、気候が温暖になったため高山に取り残されたものだと説明されています。

一方、高山植物は、そうした北方系の遺存種だけではありません。なかには本来は低山に暮らしていたけれど、高山の気候に適応して進出した植物もあります。いわば「高山に登った花」たちも存在するのです。

お馴染みの花では、例えばキンポウゲ科のミヤマキンポウゲは、低山で見られるウマノアシガタの高山型といわれています。他に、タテヤマリンドウはハルリンドウの高山型、コイワカガミはイワカガミの高山型、ミヤマキスミレ（ミヤマスミレではありません。）はオオバキスミレの高山型です。さらに、タカネグンナイフウロの、タカネナデシコはカワラナデシコの、ミヤマバイケイソウ（コバイケイソウではありません）はバイケイソウの、タカネシュロソウはシュロソウの、各々高山型です。驚かされるのはタカネスイバです。低地で雑草の扱いを受けているスイバ（スカンポ）の高山型のようです。

これらの高山に登った花たちは、寒冷・乾燥・風雪といった厳しい気候環境に耐えるため、低山の仲間に比べると背丈を低くするとともに、数少ないチョウやハチなどの花粉媒介者をひきつける作戦として、花色があざやかになっています。異色なのはショウジョウバカマでしょうか。ショウジョウバカマは背丈を低くするなどの姿の変化はなく、低山の形のまま生きているように見えます。

高山に登った花たちの中には、現在も低山から高山の間に暮らし続けているものもあります。例えばキク科のミヤマアキノキリンソウ（アキノキリンソウの高山型）のように、高山に登るとき、登山口から山頂付近までずっと姿を見ることがあります。登山口ではアキノキリンソウですが、登るにつれ、だんだん背が低くなり、同時に花が茎の上部に集まってきます。そして、花付きが豪華になり色あざやかになれば、まさしく高山植物のミヤマアキノキリンソウです。コガネギクという別名をもっています。

このような花の場合、その形

随想（山のエッセイ）

態は連続的で中間型もありますから、違いをはっきり区別できないことも多いのです。歌で有名なエーデルワイスの親戚のミネウスユキソウはウスユキソウの高山型ですが、その違いは連続的で亜高山帯では区別が難しいといわれています。昨夏、新ハイ例会山行で美ヶ原を歩いたときには、ミネウスユキソウとウスユキソウの両方が見られました。

高山植物の宝庫といわれる北アルプスの八方尾根。観光客がひしめく八方池付近に花の解説板があります。その中に、キキョウ科のハクサンシャジン（ツリガネニンジンの高山型）の名札がありますが、私は以前から、どちらかといえばツリガネニンジンではないかとこだわっていました。そして今夏、新ハイ例会山行で南隣の遠見尾根を登ったとき「白馬五竜アルプス山野草園」の名札には「ツリガネニンジン」とありました。八方尾根のハクサンシャジンは、ツリガネニンジンとの中間型といえるのかもしれません。

そよかぜ

杉本　増生

伊那谷を走る気動車の窓から、甲斐駒ヶ岳の鋭峰が望見される。容赦なく照りつける陽光のため、車内はうだるような暑さである。酷暑にぐったりとなりながら、数日前に爽気のなかで踏み越えてきた甲斐駒の山麓を、はや懐郷の目で眺めていた。

浪人生活を脱して大学生になった私にとり、2年ぶりのアルプスの夏山であった。

「失礼します……」

耳もとにかすかな響きを捉えて振り返った。旅行鞄を抱えた若い女が遠慮がちに立っている。1人で占領している4人用の座席に掛けさせてくれというのだ。うなずいてみせると、女は鞄を網棚に乗せようとして無器用な動作で胸まで持ち上げた。が、鞄の先が網棚に触れるだけで容易に乗らない。背が低すぎるのだ。鞄を支え持つ細い両腕が震えている。あるかなきかの列車の振動にまで、爪先立った足もとがふらつく。

立ち上がって手を添えた。

「あ、……すみません」

戸惑いを含んだ声を無視して席に戻り、視線を窓外に漂わせた。続いて女も向かいの席に腰をおろした。

それとなく女を見た。盆休みが終わり、この伊那の郷里から勤め先へ戻るところなのだろう。まだ十代か、うつむいてスカートの襞に沿って指を滑らせている。

不意に女が顔を上げてこちらを凝視した。私はあわてて視線を逸らせた。しばらくして、も

う一度それとなく女を見た。先ほど凝視されたと感じたのは間違いであった。顔は正面を向いているのだが、どこを見ているのか、はなはだ心もとない目差をしているのだ。斜視であった。

小学生の時、同級に「そよかぜ」と渾名された少女がいた。国語の時間に朗読を命じられて起立し、けれども冒頭の「そよかぜ」という四文字しか読むことができず、何度もその言葉だけをか細く繰り返して突っ立っているばかりだったので、その渾名をもらった。教壇からいくら注意されても平然としていた。知能が遅れているのをいいことにして、学級の悪たれどもが遊び時間に少女を囃したてた。すると少女は頬を引きつらせ、拳を振り上げて逃げる相手をどこまでも追った。足払いを食わされて転んでも、すぐに起き上がってあとを追った。一度も泣いたことがなかった。私は、少女を囃したてる仲間に加わったことはない。だが、安全な傍観者の立場から、からかわれてむきになった少女を眺めて楽しんでいたのである。その少女が、斜視であった。

ことさらに窓に顔を向けて、流れいく風物を眺めた。はるか向こうの空の高みに甲斐駒がまだ峨嶺をのぞかせている。やはり自然はいい、とも思った。

「どちらへ行かれたんですの?」

思いがけぬ質問に窮していると、女はさらに言葉を続けた。

「あの、わたしも、もうすぐこの辺の山にくるものですから……」

「そうですか、どこの山です」

「北岳です。南アルプスの……」

それは、今朝方まで縦走していた山並の中の一峰だった。そのことを告げると、女の口調に親しさが増した。

名古屋で働いていて、小さな職場だけれど、そこの仲間で最近サークルをつくり、今度の山登りが初めての活動なのだという。

「北岳ってどんなところですの、日本アルプスのような高い山ははじめてだから、よくわからないけれど、まだお花畑は咲いてるかしら?……」

先刻荷物を網棚に上げるのを手伝ったことを後悔しながら、そんなたわいのない質問の一つ一つに、わかりやすく答えていった。女の言葉つきは軽薄なものでなく、ひかえめな物腰に聡明さがうかがえ、好感がもてた。が、しかし、私には女の斜視が耐えられなかった。話のさ中にふと視線が合うと、何か罪を犯しているような気持ちになってうろたえた。汗の滲んだ女の額にほつれ毛が、二本、三本、張りついているのが醜い。

機を見て口をつぐむと、車窓へと顔を背けた。既に甲斐駒の姿はなく、農家が点在するだけの殺風景な田園風景だったが、

随想

(山のエッセイ)

あくまで熱心に見入っているふうを装った。

……車内放送で目が覚めた。山旅の疲れで、いつの間にか眠りこんでいたらしい。前の座席を見ないようにして、窓に目をやった。すっかり家並に取り囲まれてしまっている。と思う間もなく、列車は駅に滑りこんだ。豊橋である。開け放った窓から構内の喧噪が襲った。旅は今、終わったようである。

売子が窓の外を通りかかった時、急に女が半身を乗りだして呼びとめた。やがて、茶の入った小さな容器を手にして着席すると、きちんと揃えた膝の上で蓋を開けはじめた。寄り添った丸い膝頭がスカートの裾から、わずかにのぞいている。

「これ、よろしかったら、どうぞ……」

目の前に、茶の入った蓋が差しだされた。

「いえ、けっこうです」

咄嗟に答えていた。

喉が渇いていなかったのではない。むしろ、寝起きの口腔は不快にねばついていた。しかし、茶を飲むための容器はこの蓋しかないのである。最初に自分が口をつければ、そのあと女はどうして飲むつもりなのか。

女は差しだした手をおずおずと口もとにもっていき、黙って茶を飲んだ。そうして幾杯かを飲んでしまうと、窓際の小さな棚の上に容器を置いた。その間、私はずっと顔を窓に向け続けていた。

気動車は濃尾平野を軽快に走った。女は、それからは話しかけてくる気配はなかった。

名古屋に着いた。女が席を立って網棚に手を伸ばした。私は素早く立ち上がると、棚から旅行鞄をおろしてやり、女に手渡した。

「あ、すみません……」

女が私の顔を見上げたまま言った。いっとき、目があった。

おや? と思った。なるほど斜視には違いない。だが、目が美しいのだ。黒く見開かれた双の瞳がきれいに澄んでいる。窓外の空を映して涼やかでさえある。どうして最初にこのことに気づかなかったのか。そのつもりで見れば、ほかに美しい部分はいくらもあった。反った睫も、やわらかく結ばれた唇も……。

女は私に向かってていねいに頭をさげた。それから、大きな鞄を抱えて出口へと歩いて行った。小柄な身体を弓なりに反らせて遠ざかっていく後ろ姿を、私は見えなくなるまで見送った。

着席して、しばらくのあいだ構内を眺めた。あの大きな鞄を提げた斜視の女が、もう一度視野に入ってこぬかと思ったからである。

騒々しい雑踏だけが目に映った。視線を車内に戻した時、ふ

と、窓辺の棚に残された茶の容器が目に留まった。プラスチックの容器を透かして見ると、褐色をしたお茶が、まだ半分残っていた。

私の一年

生駒　登峰

一年の計は元旦にあり。年が始まる元旦は気分も新たに、今年も頑張るぞとの思いが湧きあがる。

前年の結果を思い返し、果たせなかった山々を今年こそは登ってやろうと、思いを新たにする。

定年になり、山に取りつかれた頃から、日本百名山・三百名山、1等三角点の山と、10数年があっという間に過ぎ去った。今はそれらの山々が終了に近づき、やっと我に返って山を見直す。今までは山の数を追うことに夢中で、果して楽しんで山を登っていたのかどうかは自分でもわからない。

特に1等三角点の山登りでは苦労の連続で、とても登山を楽しむという境地ではなかった。妻に言わせると「働いていた時のほうが、もっと気楽ではなかったか」と。確かに、事業をしていた時以上に努力が必要であった。今はそれらの山も終わりに近づき、少しは落ち着いて登っている。温泉や観光を主体にし、山は付随と考えてのんびりと山を楽しみたいと思っている。

しかし、ここ数年を振り返ってみるに、やはり山を主体にした旅行ばかりで、春は早く暖かくなる四国・九州、夏はやはり涼しい北海道、秋は紅葉の東北地方から信州へと、季節に合わせた山旅を繰り返している。三角点の山登りと違って道標完備で道を探す必要もなく、気楽に登れる山ばかりである。

年金暮らしの現在では、お金は限られているが時間はたっぷりある。小さなキャンピングカーに寝泊まりし、宿に泊まることもなく、綿密な計画も立てず行き当たりばったり。一度出かけると、1ヶ月くらいは帰らない。観光を主体にするように心掛けているが、やはり山の地図は手放せず、無意識に登山口に向かってしまう。妻には「言ってることと違って山ばかりだ」と言われてしまう。

キャンピングカーといっても普通の四輪駆動車で、登山口の林道にも入れる。年間100日くらいは車で寝ている。車は三台目だが、今まで車泊した日数は1000日を超えているだろう。海外にもよく出かけるが、山に関連した所が多くて、1年の半分近くは自宅で寝ていない。車でのルンペン生活もよいところで、自宅を売り払って車で生活できないかと思うくらいであ

随想（山のエッセイ）

る。

ここ数年を振り返ってみるに、登った山は年間100山にも達し、どうしても山を切り離すことができない。

ここ数年、春は九州百名山を南の鹿児島県から北上し、次いで四国百山は香川・徳島から高知方面へ、夏は北海道百名山と残っている1等三角点の山に、秋は青森から岩手・秋田に向かって南下する。冬は寒くて車泊の旅は快適でないので、もっぱら山の温泉で雪見酒を楽しむか、海外旅行に出かけたりしている。

さて今年は、元旦恒例の飯盛山（生駒連峰）の登山から始まった。飯盛山は自宅から歩いて登れる低い山で、初登山の山にしている。日の出も見られるし、簡単に登れることもあり、大勢の人が登ってくる。なかにはテント泊まりで、初日の出を待つ人も見かける。今年は数年振りの降雪があり、新年早々雪山の感触が味わえた。しかし曇り空で日の出は見られなかった。冬は前述のごとく目ぼしい山登りはしてなく、ただ暖かくなる春を待つばかりだが、お水取りも過ぎ、サクラの花がほころびると、そろそろ虫が起き出し、まず暖かい南を目指すことになる。九州の1年目は鹿児島・屋久島、2年目は宮崎から大分に行ったので、今年は熊本・長崎あたりに行こうかと思っている。その後は釜山に渡り、韓国の山を調べるつもりである。5月は四国百山の高知県あたり、まだ半分の山が残っている。6月の前半は韓国の山登り。後半から7月にかけては10数年越しの北海道。暑い8月は野暮用（娘の里帰り・母の法事）で動けそうにない。9月の東北は青森・岩手に続いて秋田・山形あたり。10月に入ると再び韓国へ。その後は美濃・飛騨から甲信越の山々。11月には中国山地から鳥取の登り残しの2等三角点の山々。12月はぽちぽち寒くなるので、車での山行きはお休み。暖かい台湾の登り残しの1等三角点を一つ二つ。このようにして私の平成17年は、山に始まって山に終わることになる。

計画だけは立派。果してどれだけ実行できるかどうかはその時次第だが、ここ数年このような計画で九割は決行している。もっとも完遂できなくてもそれほど気にはならないし、残りは次の年に繰り越せばよい。山は逃げないから慌てる必要はない。

しかしながら、我が愛車は排ガス規制で後一年の寿命になり、また喜寿を迎えた身体の衰えは避けられず、山は逃げなくても、こちらが逃げてしまうのではと感じる今日この頃でもある。

トムラウシ温泉から

トムラウシ山

北川　浩

北海道

大雪山系縦走の途中で台風くずれの低気圧の再発達に遭い、ヒサゴ沼避難小屋に二晩停滞。結局トムラウシへ向かう時間がなくなってしまい、旭岳へ向かった。あの山行から9年も経ってしまった。

あの時あきらめたトムラウシへ、今回はトムラウシ温泉から登ることにした。

このルートはトムラウシへの最短路、とはいってもトムラウシ温泉からピストンでは10時間は十分かかる。テント泊しないなら、夜明け前から歩き出して帰着は夕暮れになる。結局、テント泊でゆっくりとピストンしようという結論になった。

新徳から十勝ダム横の道に来るまでにもずいぶん走ったのに、そこから人家も何もない道を1時間以上、ダートでほこりまみれになり、山中にぽつんとあるトムラウシ温泉「東大雪荘」に着く。

国民宿舎「東大雪荘」は森のなかの一軒宿。かなり大きな建物だが、周囲には何もない。あるのはうっそうたる木立と川の流れ、温泉の湯けむりくらいだ。それでもお客さんは満員。我々夫婦が1泊を頼んだ6月の末にはもう空室はなかった。ただ、登山者用に大部屋ならあるというのでそこをお願いした。

翌朝、4時には行動開始。我々にしては早く動き出したほうだが、すでに皆さんは出られた後だった。登山道は宿の駐車場前からだが、さらに上へ林道を自動車で行ける。2時間以上の節約らしい。林道の突き当たりが広い駐車場になっている。バイオ処理をうたったトイレもある。ここまで車で15分ほどだ。

雲海の上に頭を出した十勝の山並

しばらく行くと尾根へ上がる道が出てきた。案内板があり、新しい登山道とある。以前のカムイサンケナイ沢へくだっていた道を、尾根上を行く道に付け替え、

約700㍍ほど旧道より長くなったとあるが、尾根歩きのほうが沢を渡り返して行く谷道の旧道より楽ではないだろうか。とはいうものの、この尾根はササの密生する尾根だった。気をつけないと刈られて密に横たわるササに足をとられ、滑り引っかかる。長大で単調であまり気分のよい尾根道とはいい難い登り道だった。

それでもツツドリがポンポンと鳴く。カンバの高木にいるのかなあと話しながら行く。1時間もササの道を歩いたろうか、まだまだ続くそのササの道で、我々の行く前に突然エゾ鹿が一頭現れた。若いメス鹿のようだった。まるで道案内をするかのように4〜5㍍前を行く。我々が休憩で立ち止まるまで5・6分もいっしょだったろうか。やがて彼女も谷に姿を消して、また我々2人だけの寂しい尾根歩きでササとの苦闘が続いた。

道が東に振られ、急にくだり始めた。10分もくだったろうか、沢に降り立った。沢沿いを5分も行かないうちにコマドリ雪渓の最下部に来た。

この雪渓を登ること40〜50分。スプーンカットのしっかりと締った雪面はアイゼンの必要もなく、中ほどに急斜面がひとつあったがこれもとくに問題なく、最上部まで登りつめた。最先端手前で右手、左岸に夏道が出ていてこれを登る。シャクナゲが咲いている。イチゲが咲いている。大きな花房だ。ヒメイソツツジも咲いている。

谷から広い岩場に出て、ゴロゴロ石の登りになる。岩の間にリンドウかキキョウのような紫の花が咲いている。何だろうと言いながら登って行くと平地に出た。前トム平だ。ここでくだってきた若者が紫の花を教えてくれた。イワブクロというそうだ。タルマイソウともいうとか。苫小牧の樽前山に多いのでその名があるとか。背は低くて地面に這うように咲いている。さらにコマクサに会う。9年前、大雪の縦走路で見たコマクサの大群落に比べれば小さな集まりだが、しっかり咲いている。開花には多少早いのか、まだ蕾も多い。

眺めも良い。向かう谷間はトムラウシ公園と呼ばれる所だ。緑におおわれた気持ちのよい湿地である。さらに向こうに目を移せば、トムラウシ本峰の山腹だ。こちらからは、9年前に見たようなクラウンの頂という形には見えない。三角形の頂に雲がかかっていた。今ひとつ、やって来たという感興がわかない。他の登山者はピストンで背中が軽い。そんな人達に次々と追い越され、テント荷を背負っているのでコマクサやイワブクロに喜んだわりに山頂は迫ってこない。でも、見下ろすトムラウシ公園の湿地は気持ちのよい緑のじゅうたんだ。所どころに赤黒い砂地、そして小岩の点在、小さな池塘……

ゴロゴロする大岩のなかを横切るようにくだってトムラウシ公園に降り立ち、その湿地帯を横断して再び岩のなかを登る。しばらくで南沼のテント場だった。思ったより大きな谷間で中ほどを豊かな水が流れている。そしてあたり一面お花

畑だ。分岐路を示す標柱が谷の中央にぽつんと立っている。テント場の中央になるだろうか。南へ向かう道がある。十勝岳の方への道のようだ。右手は北沼の方へ、さらに我々が立つ登路は本峰へ。

十勝へ向かう道の窪地にエゾコザクラの大群落がひっそりとある。大きな岩の陰だから見つけにくい所だがよく咲いている。チングルマやキンバイも風にふるえている。イソツツジもシャクナゲもいっぱいだ。

トムラウシ公園へくだる途中、岩場を登って来た若い男女に行き交った。昨夜は南沼でテントだったと言う。「きのうは10張ほどで賑やかでした」と言うが、さて今日は? 何せ今日は日曜日だから泊まる人はないだろう。「風が出るときついから岩陰がよいよ」とアドバイスを受ける。で、標柱の所へ荷を置いてウロウロ見て廻ったが、岩陰にお花畑はあってもテント場の空地はない。結局あきらめて適当な空地に張った。

アタックザックにカメラとおやつ、水筒にスケッチブック。クマのことを考えると荷物を全部持って上がらないとアカンとは思うものの、やっぱり重い。残りは置いていく。テント場は我々夫婦2人だけで誰もいない。山頂はすぐそこだが、山頂にも人影は見当たらない。トムラウシ公園までいっしょだった単独の男性は、時間切れだと山頂には行かず帰っていった。それっきり人はいない。テント泊も今日は我々だけと覚悟をきめて山頂へ。

「カッコウ　カッコウ」テントを張っている時も、トムラウシ公園を横切っている時も声が渡ってきていた。

山頂にはすぐ登り着いた。山頂も思っていたほどのゴロゴロの岩場ではなかった。前トム平からのトラバース道のほうが岩場だったように思う。

誰もいない山頂に2人だけで立つ。旭岳が見える。てっぺんにすこし雲をかけている。風があって向こうの旭岳も寒そうだ。9年前に閉じ込められたヒサゴ沼避難小屋は前に小山があるせいか見えない。それでも化雲岳の突起や広大な山並が目の前にずっと広がっている。

写真を撮ったりスケッチをしたりしていると、ヒサゴ沼からの道を上がってきた人影がひとつ。天人峡からやって来たのだというこの男性、ゆうゆうと山頂へ。そしてまだこれからオプタテシケ（十勝岳方向）へ向かうと言うではないか。もう16時前だというのに。いくら北海道の日暮れは遅いといってもと思うのだが。

この人、我々には一番いやな話をしだした。「その下でクマのごそごそするのを見てきた」と言うのだ。「南沼のテント場は大丈夫でしょうか」と言うと、やおら地図を開いて、「いやここも鞍部だからクマにしたら通り道でしょう」と、涼し気におっしゃる。とたんに我々は山頂でゆっくりしている気分がふっ飛んでしまった。

急いでくだる。途中でテント場が見える。おやテントが二張ある。一張増えているではないか。我々のほかにテントを張った人がいる。やれやれという気分になった。標柱の立つ中央の広場にゴアの1人用を張って標柱に衣類を干している。山頂で話した人も我々の後から降りて来て、ゴアのテントの人と話したり、あたりをウロウロしていたが、やがて「きょうはここにします」と声がかかった。これで三張。なんだかひと安心だった。

ここは南へ開けた谷だ。窪地状で南の方向も峠状の高みがあってから南沼へ切れ落ちている。その高みには大きな岩な

どがいくつかあって気分のよい見晴らしだが、残念ながら美瑛や十勝の山並は見えない。しかし、その峠へ向かって四方八方お花畑だ。なかでもエゾコザクラの群落は圧巻だった。

クマが心配でラジオをつけっぱなしで寝ることにした。食糧や残飯ゴミは幾重にも袋に入れ、臭いが出ないようにしたうえで、何もかもテント内に取り込んで眠った。19時になってもまだあたりは明るかったのだが、ガスが来て何もかも見通せなくなって就寝。

翌朝、まだ3時前というのに小鳥のさえずりで目が覚めた。もう明るいではないか。すばらしい雲海の夜明けだった。十勝への道を高みまで出てみると、目の前には雲海の大海原がひろがっていた。雲の上に頭を出した十勝の山並はだんだんと赤く染まりだし、手前の山影が一層向こうの輝きを引き立てた。左手、東方の然別の山々だろうか、こちらはことのほかたくさんの雲の中に山々が島のように浮かんでいる。足元の草地は向こうの大岩までの暗い陰のなかに、ピンクのコザクラが一面に咲き、夜露に光って広がっている。

トムラウシ山山頂にて

「5時45分下山開始」と手帖にある。くだる道の前方にまだまだ雲海の輝きが広がっていた。

前トム平では早朝から登って来た人達に出会う。何時に出発して来られたかと思案するくらい早いおいでだ。皆さんはピストンで背中も軽く足も速い。コマドリ雪渓までに次々に人々と行き交うが、それからはもうぷっつりと人気はなくなった。8時ごろに雪渓に来ていないとピストンするは大変なのだろう。

クマザサの尾根をウンウンとくだっていると、後方からガサガサ音がする。ビクッとして振り返ったら人が来て足早に我々を追い越して行った。ゴアのテントの人だったろうか。何しろ昨年、銅路湿原旧軌道でクマ出没注意の看板を見た直後、目の前のブッシュでガサガサ大きな音がして緊張、大きなエゾ鹿のオスが丘へ駆け上がるのを見た経験があり、ガサガサ音には神経質になっていた。

南沼での一泊は楽しい花のなかだった。トムラウシの山頂は遠くに見た9年前とはずいぶんイメージが違っていたし、クマで落ち着けなかったが、まあしかたない。ナキウサギには会えなかったけれど、うちの奥さんは声を何回か聞いたと言う。ツツドリやカッコウの声も聞いた。それに何よりの花・花。なかでもエゾノコザクラの大群落。

たくさんのいただきものをして山を後にした。（平成16年7月4～5日歩く）

《コースタイム》

林道終点駐車場（1時間40分）カムイ天上（30分）新道（1時間30分）コマドリ雪渓（1時間）前トム平（40分）トムラウシ公園（30分）南沼テント場（30分）トムラウシ山（20分）南沼テント場（1時間30分）前トム平（1時間）新道取付（1時間10分）カムイ天上（1時間30分）駐車場

＊年齢と荷物で余分な時間がかかっている（休憩時間含まず）。

《地図》

昭文社＝「大雪山・十勝岳・幌尻岳」

春浅き尾瀬の花巡り

尾瀬ヶ原から尾瀬沼

田中　明

尾瀬

尾瀬、何とやさしい響きだろう。まるで春風が女の眉を吹きぬけるような気がする。

年間、何10万人が訪ねるという尾瀬の魅力十分の景観に出会えた。5月というのにここではようやく雪が解け始め、まさに春の風が吹き抜ける尾瀬の景色を存分に堪能したのである。

長い間降り積もった雪の中から、ようやく顔を見せ始めた尾瀬のお花たちの、感動のページを綴ってみることにしよう。

京都から長旅で夜行の寝不足にもかかわらず、尾瀬に行くのだ！　との思いから元気そのもの。ジャンボタクシーに乗り込んだ8名はまず吹割の滝で大岩盤の上に立った。岩と岩の間から水が吸い込まれるように落ちるさまは恐怖感さえ覚えるほどである。ほどほどにしてタクシーを登山口である鳩待峠へ走らせた。

百名山の一つ至仏山の登山口でもあるが、山は6月末まで立入禁止。そそくさと川上川沿いのなだらかな谷筋をゆったりとくだる。友は樹間越しに至仏山を狙いながら、撮影モードのままで動こうともしない。山の写真の同好会に迷い込んでいるのは私1人。目的に大きな違いがあるのだ。

こちらは景色よりきれいなお花が撮れればよいのだから撮影時間はそんなに欲しくない。谷にはミズバショウ・コヨウラクツツジ・オオバキスミレなどが鮮やかな彩りで咲いている。

今回のリーダー役のNさんから「先に行ってもらっていいですよ」とのお言葉で、私はどんどん歩を進め、山の鼻へ先着した。

みんなが揃うまでに付近の植物見本園をぐるっと一周してみた。雪解け間もなくで、咲いているのはミズバショウ・リュウキンカ・タテヤマリンドウ・ショウジョウバカマ・ヒメイチゲなど数えるばかりである。

牛首から見る至仏山

ミズバショウ

ミズバショウやリュウキンカが競って咲いている。

枯れた湿地には霜をつけた小さな背丈のヤチヤナギが震えるように開花準備中だ。雪の下に埋もれていたお花たちにとっては雪解けこそが春の訪れであろう。遅い春から短い夏の間に咲き切るために精一杯のエネルギーを使うにちがいない。厳しい冬が来るまでに、なんと過酷な生命なんだろうなどと思いながら、次々に見る高山植物がますます愛惜しくなる。やさしく接してあげようとの気持ちから次第に前に進めなくなる。

さすがに尾瀬だ。多くの人が入ってくるにもかかわらず、ゴミひとつ見当たらない。国立公園として管理が行き届いているのには感心させられた。登山者のマナーもハイレベルに相違ない。

高層湿原の歴史は何千年ともいわれ、現在の尾瀬ヶ原の泥炭層は5㍍に近いようだが、これら自然の宝は末永く守られていかねばならない。

高層湿原は植物にとって栄養状態が思わしくないため、生き残れるのは限られた種となるようだ。春の顔といえるのがミズバショウとリュウキンカだろう。この時季、いたる所で群れ咲いているのが

ヨッピ吊り橋

何ともほほえましい。

「♪夏がくれば思い出す－　はるかな尾瀬……」と歌われるように尾瀬のミズバショウを知る人は多い。雪解けと同時に咲く潔さが、人の心を打つからであろうか。

尾瀬で一番早く咲くといわれているのがリュウキンカ。4月頃の雪の中でもう花びらを見せるようで、5月ともなれば黄金色の絨毯で敷きつめたように広がり、すばらしい景色をかもしだす。

上田代から牛首あたりを楽しみ、中田代の下の大堀まで来ると、数ある池塘のなかでも風景がまるで絵のような所となる。さらにいうなら地塘、ダケカンバ、ミズバショウなどを配して、後方には雪を頂く至仏山が坐っている。写真愛好家たちには垂涎の一等地に違いない。

お花がメインの私でさえも、しばし釘付けになってしまうほどお気に入りの所となった。

1泊目は名高い竜宮小屋だ。早速荷を解き、めいめい被写体探しに忙しい。私は少し戻り、四差路から長沢新道を南に富士見峠方向に行ける所まで散策してみることにした。

春浅き湿原の中を流れる川岸には山からの栄養豊かな土砂の堆積があり、林が発達している。尾瀬ではこれを奥水林といっているようだが、それらがまぶしいほどに夕日に輝くさまは言いようがないほど美しい。だが谷からの流水に木道が取られている。残念、これ以上は先へ進めそうもない。

心残りだが踵を返すこととして、矮小のショウジョウバカマを眺め、枯葉状のワタスゲにいつも見る白い綿毛果実を想像しながら、ぽんやり見つめていた。

そばにはヒメシャクナゲ。咲き出すにはまだ時を待たねばならないだろう。半月もすれば、薄ピンク色の釣鐘形の小さなお花が登山者の注目を集めることだろう。オオタチツボスミレやミツバオウレンなどもここで見れば感動の対象となるのはどうしてだろう。

止まったような時空のひとときとはまさにこのようであろう。木道そばのベンチに腰掛け、うつろな気分は雲の上を飛んでいるかのようでもあった。

仲間達は撮影に散らばって姿も見えない。しばらく放心状態でいると、やがて顔が揃った。大勢の登山客の竜宮小屋に戻って夕食となった。

夕餉を終えると、昨夜の睡眠不足のせいか、深い眠りのなかへ埋没していった。

朝、目覚めて周囲を見回すと、友は朝霧の立ち込める風景を撮りに出かけていったのだろうか。しばらくしてどやどやと顔が揃った。

さぁ、2日目のスタートである。今日のお目当てはヨッピ川とそこへ架かるヨッピ吊り橋だ。

なぜか私は尾瀬といえばヨッピ吊り橋を思い描いてきたのだ。どこまでも流れは清く、やさしい風にさざ波の立つ水面までも絵になるとはこのことだろうか。

その流れの、わずか15㍍もない吊り橋がヨッピ橋なのだ。板が敷き詰められているが、早い秋にはそれが外される。やがてくる雪の重みを少しでも減らそうと毎年敷いては外しての繰り返しという。その橋の上に立ち、これで積年の想いが果せたと胸がいっぱいになった。あたりに誰もいないのを知り、「バンザ～イ」と遠慮がちに小さな声を上げていた。

東電小屋あたりでひと息いれていると、同行のK夫妻が追いついて来られた。

今回のメンバーの中では比較的写真撮影の少ないこのご夫妻とは道連れになることが多かった。穏やかなKさんとユーモアがあり楽しくきれいな奥様には、長い道中で癒されることが多くあった。

可愛いスミレサイシンやウスバサイシンもここ尾瀬がよく似合う。温泉小屋から奥へ進んで平滑の滝、さらに北に三条の滝へはアップダウンの続くややハードな道で、岩場などもあり、木道歩きに慣れた足には少々堪えた。

途中、タムシバ・ムラサキヤシオ、ムシカリが大ぶりの花びらを広げていた。また足元にはエゾエンゴサクも鮮やかな紫色を見せてくれ、イワナシも硬い葉をまとってほのかに薄ピンク色の可愛さで楽しい。

見晴十字路の桧枝岐小屋で昼食をとった後は残雪の峠道を越え、尾瀬沼ヒュッテに向けて延々3時間の木道歩きが続いた。シラビソ・カラマツ・ブナの林床にミヤマエンレイソウ・タケシマラン・ヒメウスノキなどを見ながら、大江湿原を通って改装なった真新しい尾瀬沼ヒュッテで靴紐を解いた。2泊目ともなってメンバーとの賑やかな交流がますます楽しい。

明けた最終日は、名残惜しい大江湿原をゆっくり散策し、めいめいが写真撮影に尾瀬沼付近を歩き廻った。尾瀬といえば長蔵小屋にも顔を出さなければと昼食に立ち寄り、三平峠から大清水へ向けて最後の登りへと進んだ。

途中若干の残雪が木道をおおっていたが、難なくクリアして一ノ瀬へくだった。ツバメオモトがきれいに花弁を広げているのが印象的だった。長蔵小屋から大清水まで3時間のロングコースも花々に励まされ、ほとんど苦にはならなかった。

今回の花旅も天候はもちろん、何にもまして楽しいメンバーに恵まれ、感動の尾瀬が味わえたことは望外の喜びであった。いつまでも忘れえぬ想い出となることだろう。

このような山行を企画いただいたNさんにはお礼の言葉もない。大きな感謝でした。（平成16年5月27日～30日歩く）

《コースタイム》

（1日目）JR京都駅（夜行）沼田駅（ジャンボタクシー）鳩待峠
（2日目）鳩待峠（1時間）山の鼻（2時間）牛首（1時間）竜宮小屋（泊）
（3日目）竜宮小屋（30分）ヨッピ橋（1時間）温泉小屋（1時間）三条の滝（1時間）桧枝岐小屋（2時間）沼尻（1時間）尾瀬沼ヒュッテ（泊）
（4日目）半日大江湿原から尾瀬沼付近を散策（50分）三平峠（1時間）一ノ瀬（1時間）大清水（ジャンボタクシー）JR沼田駅（夜行）京都駅

《地図》昭文社＝「尾瀬」

新ハイ例会・自然観察山行

沢口山・天水・板取山・蕎麦粒山・大札山縦走

静岡

鷲見守康

黒法師岳などの南アルプス深南部の山々からさらに南、寸又三山の沢口山から南西の蕎麦粒山へとのびる稜線がある。広い意味では、南ア深南部の山域であり、深い原生林を楽しみながら歩くことができる。

未明の午前4時に寸又峡に到着。寸又峡は、周囲に寸又三山と呼ばれる前黒法師岳、朝日岳、そして沢口山などの山々がそびえ立つ温泉街である。このあたりの民宿は登山者には慣れているせいか、5時という早朝の食事の依頼に対してもたじろぐことなく引き受けてくれた。ここざっぱりした部屋に、心尽くしの朝食であった。

沢口山の登山口は温泉街の中にある。沢口山側から流れ込む沢に架けられた上流の橋が出発点となっている。畑のなかを歩いて山道に入る。前回訪れたときにはガクウツギが咲き、遠くアオバトの声が聞こえていた。

登り始めてまもなく、「ヒ――ン」と糸をひくような震えた声が響く。何度か続き、「チ――ン」という高音の響きも入った。トラツグミだ。実に繊細だが、はっきりとした響きで、その姿からはちょっと想像できないさえずりである。そもそもとても野鳥のさえずりとは思えず、知らない人からすれば不気味にさえ聞こえる「音」である。トラツグミの声は長い時間聞こえ、時にはかなり近くで聞こえた。

蕎麦粒山から望む大札山

テレビアンテナを過ぎると、木馬の段と名づけられた平坦地となり、雑木林がきれいだ。やがて富士見平に到着。富士見平から周囲の風景は独特なものとなり、すがすがしい雰囲気に山の楽しさを味わえる。まもなく、ブナ・モミなどの個性的な高木が点在する広場に到着すると、ミズナラの巨木に歓声が上がった。見事な大樹だ。近くには大きなヌタ場もある。ヒメミヤマスミレがちらほらと咲いている。前回には、太平洋側ブナ林に咲く白色のシコクスミレが群生していた。

最後の斜面を登り、山頂へ。時刻は8時。2時間余りを要して沢口山に到着した。夜行疲れのためか、前回より体が重い。山頂からは朝日岳が望めるはずだが、雲が広がり、見通しがきかない。

沢口山から縦走路に入り、天水へと向かう。沢口山の登りで、ヤマイワカガミの群生地を見たが、このあたりにも小さな群生地がある。ヒメミヤマスミレに加え、ナガバノスミレサイシンの白花も目につくようになった。沢口山の登りから体が重かったのは、夜行疲れのせいだろうか。やはり年をとったのか。最近は、時々夜行で疲れを感じることがある。ふくらはぎの筋肉もピクピクしだした。足の運びと置き方に神経をつかうようになる。

沢口山・天水・板取山・蕎麦粒山・大札山付近略図

この縦走路では、天水への登りが一番しんどいところだ。とうとうふくらはぎが悲鳴を上げ、痛みが走る。休憩して応急処置をする。メンバーの皆さんが心配して薬やら飲み物を提供してくれる。こんな時にはたいていい甘えることにしている。後方では、めずらしくMさんも脚がつったようで、遅れている。

10時、天水山頂に到着。山頂は狭いが見晴らしは抜群だ。正面に前黒法師岳、そして南アルプスの光岳・聖岳・赤石岳の雪嶺が見える。アカヤシオの一株がピンクの花をつけていた。

天水からは勾配がゆるくなり、快適な稜線歩きだ。体力的に余裕が生まれると、周囲の自然が見えてくる。南アルプス深南部の色合いが深くなり、哺乳物のフィールドサインも目に入るようになる。樹上にホンドリスの姿を見た。リスは、この山行中、三度ほど見かけた。針葉樹は皮をはがれ、角の研ぎ跡や食痕がある。ニホンシカだ。糞も落ちている。

板取山で昼食休憩の予定であったが、朝食をとったのが早朝5時なので、もう腹がすいてきた。板取山との鞍部に当たる地点で、尾根に沿ってテラスのような広場があった。ちょうどアカヤシオが満開だ。遠く南アルプスの雪嶺を背景にして絵葉書にも似た風景である。「ここがいい！」と衆議一決。時刻はまだ11時前だが、花見のような気分で昼食となった。

アカヤシオの気品あるピンクのふっく

岳書縦走

新刊

雁部貞夫著　菊判上製　五七七五円

〈新アララギ〉の選者・編集者であり岳人でもある著者による、内外の著名な〈山の本〉（登山記・紀行・自然・民族・文化）130篇の書評・解説を集大成した山の書誌文化誌。

―― 好評発売中 ――

おれ にんげんたち
―アルスー・ウザラーはどこに―

新刊

岡本武司著　四六判上製　一八九〇円

黒澤 明も感動したウスリーのタイガに、探検家アルセニエフの足跡をたどり、先住民デルスーとの友情、自然と人間の関わりを豊富な資料で探究する。

★表示の価格は5％税込です

ナカニシヤ出版
http://www.nakanishiya.co.jp/
京都市左京区一乗寺木ノ本町15
☎075-723-0111　〒606-8161

らとした花は、まさにツツジのなかの名花と呼ぶにふさわしい。「アケボノツツジとどう違うのですか」と質問が飛ぶ。アカヤシオが咲く山では、必ず発せられる問いだ。アカヤシオとアケボノツツジは亜種の関係にあり、花柄やおしべに毛があるのがアカヤシオ、無いものがアケボノツツジといわれている。アケボノツツジは四国や紀伊半島に分布するようであり、九州に分布するものはツクシアケボノツツジと呼ぶようだが、いずれも私はまだ出会っていない。

30分弱の休憩で再出発。20分ほどで板取山頂だった。山頂は、ササを切り開いたところで、素っ気なくて見晴らしもよくはない。少し立ち止まった後、さらに進む。板取山を過ぎるとまもなくブナの巨木林となった。林床にはスズタケが繁茂し、高木層には、ミズナラ・ウラジロモミ・トウヒ・ヒメシャラ。ナツツバキも混じり、太平洋型ブナ林の景観である。尾根筋と捲き道との分岐点である広河原峠からそのまま尾根筋へと進むと、南面がガレ場になったやせ尾根に出た。

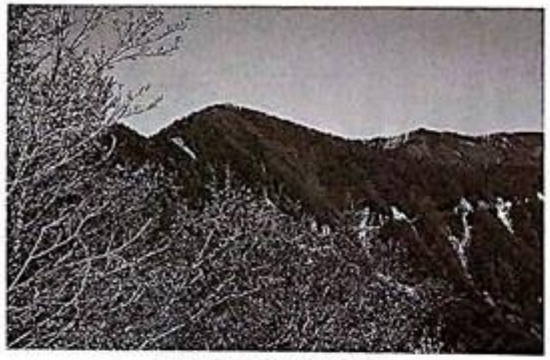
八丁段は見上げるような急な階段で、疲れた身体にムチ打つ。「捲き道を行けばよかったかな」とひとりぼやきながら、立ち止まることもなく、さらに進む。本日の予定は、この先の山犬段から蕎麦粒山に登り、高塚山へ立ち寄って山犬段へと戻ってくる行程である。今のところ、時間的には不可能な行程ではない。ともかく、山犬段で大休止とし、改めてコースを決めようと考えていた。

八丁段から山犬段は、散策程度の距離と思い込んでいたけれど、意外に長い。「あれ～、もう着くはずなのに」という心理状態になると、足運びはどんどん速くなる。後続との距離が開いたことは承知だったが、そのまま進み、静岡大学演習林宿舎の脇を通って、12時50分、山犬段へ出た。

山犬段は広い台地で、中川根町立の無人の山小屋が設置されている。50人ほどが宿泊ができ、マイカーによるアクセスも可能であるところから、南赤石林道周辺の登山拠点として利用されているようだ。本日は、ここに至る林道が崩壊して通行止めのため、車は一台もない。メンバー全員が到着する前に、改めてこれからの行程を再検討した。バスが林道を走

れないので、高塚山へ往復した後、バスとの待ち合わせ場所の大札山中央登山口まで歩かなければならない。これまで林道を歩いた経験がないので、所要時間が読めないのだ。「やめよう。焦って歩くのはつまらない。」と心に決めた。

高塚山をパスし、ここでゆっくりとティータイムをとり、蕎麦粒山を登って南尾根をくだる、という案を発表すると、大方の賛同を得た。誰もが疲れていたのだ。



大札山から望む蕎麦粒山

蕎麦粒山へ、山犬段から東尾根を登るのは簡単だが、南尾根はなかなか歩き応えのある長さで岩場もあった。1時間ほどで林道に出合い、15時45分、バスの待つ大札山中央登山口に着いた。

翌日、宿舎からバスで大札山中央登山口へ行き、昨日からのコースをつなぐ形で、周コースから大札山に登り、南尾根のもみの木平コースをくだった。

大札山は1300㍍級の山だが、遠くから眺めると富士山のような秀麗な山容で、アカヤシオやシロヤシオも自生していて、人気の高い山らしい。本日は日曜日で、山犬段まで車が入れなくなっていることもあり、地元のハイカーが多数歩いていた。晴れ間はあるものの、雲が多い天候で、遠くの見晴らしはあきらめていたが、山頂からはやっと富士山が見えた。

今回の縦走では、南アルプスの上河内岳・聖岳・兎岳・光岳の雪嶺、深南部の大根沢山・大無間山・黒法師岳、寸又三山の朝日岳・前黒法師岳、安倍川東部山稜の山伏・八紘嶺・十枚山・竜爪山、西部山稜の七ツ峰・天狗石山などの山並を遠望した。

そして、今、大札山頂から、昨日歩いた沢口山から天水・板取山・八丁段の稜線を眼前にして、私たちは、大きな満足感に浸っていた。

（平成16年4月23日～25日歩く）

≪参考タイム≫

（23日）JR岐阜駅23・00（バス）

（24日）寸又峡温泉民宿4・00（仮眠・朝食）5・30―沢口山登山口5・50―沢口山8・00～15―天水10・00～15―板取山直下鞍部10・45（昼食）11・10―板取山11・30～40―八丁段12・25―山犬段12・50～13・25―蕎麦粒山14・00～15―南尾根登山口15・15―大札山中央登山口15・45～55（バス）中川根ウッディハウス「おろくぼ」16・25（泊）

（25日）「おろくぼ」7・20（バス）大札山登山口7・45～50―大札山8・40～9・25―大札山南尾根登山口10・35～45（バス）川根温泉11・50（入浴・昼食）13・45（バス）岐阜駅17・10（解散）

≪地形図≫

2万5千＝寸又峡温泉・蕎麦粒山

御料局三角点のある山

大峠と白鳥山

山田明男

奥三河

昨年は猿年なので正月に猿投山へ行った。今年は酉の山へ行くことにしていた。しかし、東海三県には酉の付く山が無いので、鳥の名の愛知県の白鳥山（968㍍）へ正月に行くことにした。白鳥山だけでは時間が短いので隣の大峠とセットの予定にした。私と山に同行されているEさんにこの話をしたら、大峠には特別な三角点があると言われ、後日本のコピーをいただいた。「御料局三角点が880㍍地点に落ち葉に埋もれている。」と書いてあった。

1月2日、愛知県東部の津具村を目指した。私の家から東へ135㌔程あり、西へ行けば京都の芦生原生林とほぼ同じ距離になる。2時間かけて茶臼山高原道路に入るが、積雪が10～15㌢で道路は圧雪していた。2時間半後に津具村役場近くの白鳥山登山口の白鳥神社に到着した。

白鳥神社では正月の花祭りが行われるようで、その準備をされていた。白鳥山へは西回りで登り50分、下りは東回りで30分かかって白鳥神社に戻った。道ははっきりしていた。天気が良ければ山頂から南アルプスが望め、富士山も見えるようだが、この日は見えなかった。大峠は白鳥山から南西に見えており、高度も白鳥山とほぼ同じで、この山も神社から1時間程度で登れそうだった。

大峠手前のピーク950㍍の御料局三角点

大峠の登山口がわかりにくいので地元の方に聞いて歩き始めるが、白鳥山より歩く人は少なく、道ははっきりしなかった。真久峠上部の鉄塔がはっきりと南の稜線に見えているので、思い切って直登して鉄塔の所へ出た。12時を過ぎていたので、北風を避けてここで食事とした。

積雪が10～15㌢あるので、三角点は雪に埋もれて見つけられないのではと心配しながら歩いた。ここから柚道ではあるがはっきりしており、御料局三角点は標高880㍍の場所では見つけられず、山頂（953・2㍍、3等三角点）に着いた。山頂は木々に囲まれ見晴らしはない。

帰りにも探しながら歩いていると、山頂一つ手前のピーク950㍍で御料局三角点を見つけた。国土地理院の三角点よりも小さめで、少し雪に埋もれているので字が読めるように掘り出してみると、南面に「御料局」と刻されていた。3等なので1等・2等があるのかとも思ったが、後日調べてみると、あるのは3等と4等と補点だった。標高880㍍の場所にもあるのかどうか不明なので、また行く機会があれば探してみたい。

御料局三角点からくだって鉄塔のすぐ下が真久峠で石仏が置かれていた。昔の道をたどってくだっていると、谷に沿って直登した場所がはっきりとわかった。15時頃、再度白鳥神社の花祭りの舞台に戻って踊りが始まるのを待ったが、「踊りは始まっても、祭りの核心は夜の21時から24時だ」と、参拝の人から聞いたので帰ることにした。

さらに御料局三角点には「宮三角点」の刻印がある標石も確認されており、また、4月17日に行く予定の知多半島の1等三角点「鍋山」の南の4等三角点「池の上68・5㍍」にあることが判明したので、ここにも立ち寄るつもりだ。岐阜城天守閣入口前にもあるので、また見に行こう。

＊御料局三角点について

現在、国土地理院の三角点が全国の山野に設けられているが、この国土地理院の三角点は、元来、旧陸軍の参謀本部陸地測量部の三角点を継承したもので、さらに新しく国土地理院が建てた三角点もある。

さて、日本の山岳を覆う森林は、木曽の森林のように尾張藩の住民による木曽五木の伐採禁止の森もあったが、普通では山麓の農民の生活の場であった。それが明治維新で藩政が終わるとともに明治政府は全国の山林原野のうち武家領を官林に編入した。明治21年に御料林が創始されて、愛知県下の官林も御料林に編入された。その森林三角点測量の基準が三角点である。これは陸地測量部の三角点よりも早く、登山史を研究する上でも重要な史料であろう（この項は、上條武著「孤高の道しるべ」を参照）。

（平成17年1月2日歩く）

《コースタイム》

白鳥神社（50分）白鳥山（30分）白鳥神社

大峠登山口（20分）鉄塔（30分）大峠（5分）御料局三角点（30分）登山口

《地形図》2万5千＝見出

標高による山の紹介シリーズ22

松田敏男

新ハイ関西82号

標高△△82mの山

櫃ヶ嶽（582メートル　丹波山地）
石鎚山（1982メートル　石鎚山脈）
長塀山（2582メートル　北アルプス）
権右衛門山（2682メートル　南アルプス）

櫃ヶ嶽

篠山盆地から北を望むと、急峻な連嶺が続いているのがわかる。西から東へ小金ヶ嶽から八ヶ尾山に至る山並だ。その東、国道173号線で寸断されてはいるが、また急傾斜の山が東へ連なっている。それが雨石山と櫃ヶ嶽だ。両山とも京都府と兵庫県の境界にあり、この二つの山に北側より登って回遊しようと、田辺さんと2人で初冬に行った。

小野のいちばん奥に車を止めて、二つの山の鞍部を目指そうとしたが、途中から546メートル標高点峰の北尾根を登った。小さな三角錐形の櫃ヶ嶽の山頂は丹波山地の中心にいるような景観だった。西方のいちばん奥に美しい三角形の姿の三嶽が、この界隈の主峰格の風情で望まれた。

鞍部から急斜面を雨石山へ登る。山頂部は東西に長く、北面も南面も急傾斜の地形なので高度感のあるミニ縦走といった感じだった。登山者には全く出会わない静かな山だった。

（平成9年12月6日歩く）

≪コースタイム≫
小野（2時間）櫃ヶ嶽（1時間30分）雨石山（1時間）板坂峠（30分）小野

≪地形図≫2万5千＝村雲

櫃ヶ嶽付近略図

石鎚山

石鎚山といえば西日本最高峰で、四国第一の有名な山である。この山に四国行き四回目の山行で登ることとなった。過去三回も今回もリーダーは時高さんである。今回は6人。前日は小雨が降るなか、滑床渓谷の沢歩きをして、石鎚スカイラインの駐車場でテント泊する。

7時にゲートが開き土小屋に着いた。

一般登山道を石鎚山へと向かったが、尾根筋道から石鎚山の北斜面のトラバース道へと移行していく地点に尾根への踏み跡と赤布の目印があった。一般道往復では物足りないということで、この踏み跡を登ることになった。

しっかりとした踏み跡、そして奥深い樹相のなかを行くことになってよい気分だったが、霧のなかに岩塔が現れ、左が深く切れ落ちる道となり、その次には岩稜の間のルンゼの急斜面の登高になり、緊張感が一気に高まった。単独登山者がさっさと追い抜いて行く。登山道であることは間違いなさそうだ。しかし、長いルンゼの急斜面を登り切って大きな岩棚に出た時は、進退極まる心境となった。

三宅さんの背中を借りて大きな岩を這い上がると南尖峰は目の前で、最高峰の天狗岳方面からの声も聞こえ、ほっと安心した。このルートをとったおかげで、石鎚山の印象は強烈なものとなった。

（平成16年9月19日歩く）

≪コースタイム≫
土小屋（1時間30分）尾根踏み跡分岐（1時間30分）石鎚山（天狗岳）（2時間）土小屋

≪地図≫昭文社＝「石鎚山」

長塀山

長塀山は蝶ヶ岳の登山道の一角にある山で、徳沢から登り始めて槍・穂高連峰がパノラマ的に見渡せる最初の山頂だ。私が20歳の夏に初めて北アルプスに1人で登った思い出深い山だ。それから32年を経た5月の連休にやはり単独で、新しく買い換えた軽量テントを持って登った。

二回共快晴に恵まれて、心ゆくまで槍・穂高連峰を眺めて絵を描いた。槍・穂高連峰の東面はカールがいくつも発達していて、岩稜とカール地形との組み合わせの景観が非常に美しい。

（一回目・昭和44年8月26日～28日歩く）
（二回目・平成13年5月3日～5日歩く）

≪コースタイム≫
上高地（8時間）長塀山を経て蝶ヶ岳（4時間30分）上高地

≪地図≫昭文社＝「上高地・槍・穂高」

権右衛門山

塩見岳の周辺には徳右衛門山と権右衛門山という気難しそうな名前の山がある。権右衛門山へは、三伏峠から塩見小屋へ行く時に寄ってみた。5年前に会山行で塩見新道から塩見岳に登ったときに塩見岳が非常に鋭く望まれたので、その印象深い姿を絵にしようと思ったからだ。

結局は三伏峠道の分岐から少し入ったあたりの地点以外には絵を描く所はなかったが、黒木に囲まれた山頂に坐ると充足感が襲ってきた。

（平成2年8月4日歩く）

≪コースタイム≫
三伏峠（3時間30分）塩見新道分岐（30分）権右衛門山（30分）塩見小屋

≪地図≫昭文社＝「塩見・赤石・聖岳」

『万葉集』歌枕紀行

紫香楽宮跡から飯道山

木村太郎

湖東

紫香楽宮跡から飯道山に登り、JR貴生川駅へくだってきた。マイカーを置いてきた紫香楽宮跡へ引き返すため、信楽高原鉄道に乗ることにした。貴生川駅から一駅先の紫香楽宮跡駅まで、高原鉄道というだけあって緑の林間に鉄路は続いている。二両連結車輌の最前列席にいた私は、線路脇の草地に一輪のササユリを車窓越しに見つけた。

道の辺の草深百合の花笑みに
笑みしがからに妻と言ふべしや
（巻七～一二五七）

万葉集には、由利あるいは由理、佐由流とも左由理婆奈とも詠まれていて、純潔の象徴でもあった百合。ヤマユリの美しい容姿を女性の笑顔にたとえている歌である。いま歩いてきた飯道山の登山道でも、数輪のササユリに出会うことができた。わずか4年の短かすぎる宮都と、聖武天皇の紫香楽宮への挽歌のように、清らかにササユリは咲いていた。

紫香楽宮跡（甲賀寺跡）から隼人橋まで東海自然歩道をたどり、南鈴鹿へ続く自然歩道と分かれ、甲西町三雲へ抜ける県道沿いの宮町登山口に着く。鳥居の向こうに双耳峰の飯道山を眺め、つづら折りの林道を登り、飯道神社の表参道入口にいたる。「これより山上まで七丁」の石標を見て、白鬚明神の小祠に手を合わせ山道に取り付く。

飯道山山頂

アカマツとヒノキの樹林帯の道に展望はないが、三丁石と四丁石の間に宮町を見下ろせる眺めのいい場所に出る。近年信楽町大字宮町に、紫香楽宮の宮殿掘立柱と目される巨大な柱根が発見された。信楽町黄瀬の内裏野と呼ばれる丘陵地にある国指定史跡の紫香楽宮跡は、大仏造営がはかられた甲賀寺跡に当たると見直されている。

聖武天皇の紫香楽宮は飯道山を背山にしている。山岳宗教が盛んであった飯道山麓に宮都を構えることで、天変地異に打ち勝つという祈りがこめられていたのであろう。五丁石を過ぎると地蔵宿があり、六道をみちびきたまう地蔵仏がまつられている。六丁石の手前に金亀水の水場があり、さらに登れば熊野遥拝所で西方の展望が開けてくる。

飯道山付近略図

皇居護法石を過ぎると、大峯奥駈をおこした聖宝理源大師をまつる行者堂があり、近江の大峯山と呼ばれた霊山であることを思い出させる。石段を登りつめると極彩色あざやかな飯道神社本殿がある。屋根は入母屋造りで正面に千鳥破風をつけ、下方には向拝の軒唐破風という変化に富んだ外観は、国の重要文化財にふさわしい格調がある。

近江の大峯行場に来たので、神殿の裏につくられた行場をめぐることにした。弥勒岩を右手に見て落ち葉に埋れた峻厳なる急坂をくだると、岩上（岩神のことか）と名付けられた鎖場に出る。長い鎖と短い鎖をこなし岩場を乗り越え、大岩の胎内くぐりをすり抜けると切り立つ断崖上に降り立った。

白真弓石辺の山の常磐なる
命なれやも恋ひつつ居らむ
（巻十一～二四四四）

石辺の山の常磐のように永遠に変わらない命であろうか。そうでなく限りある命なのだから恋していたいものだ。甲賀郡石部町の万葉歌だという説がある。だが地図を見ても石部町周辺に石辺山は存在しない。同じ甲賀郡の飯道山に昔、石辺山という別名がなかったのだろうか。奇岩怪石群の石辺におおわれている飯道山は、常磐の生命を目当てに難行が行われていた霊山だったからである。

花季にはシャクナゲに包まれる飯道神社を後に、古権現と呼ばれる飯道山を目指すことにした。登山口で眺めた双耳峰の低い峰から高い峰へ、暗い森林のササをかき分けて飯道山（664㍍）頂上に立つ。2等三角点の山頂はさほど広くないが、登山の苦労を忘れさせるほどに眺望はすばらしい。

切り開かれた東方は鈴鹿の山並、特に鎌ヶ岳の土色した三角錐が異彩を放っている。北西の正面には鉄塔の立つ阿星山、右方には三上山や鏡山、その向こうに琵琶湖をへだてて比良の山並がそびえている。眺めのいい山、登りがいのある山、山それぞれに異なる特性を体感できる。飯道山では、歴史を秘めた伝承に出会えるのである。

その昔、仙人が道に迷い神仏を念じて

宮町登山口

いると、米飯をついばみながら歩いている一羽の鳥に出会う。仙人が鳥についていくと山頂に着いて、権現様のお姿を拝したので飯道山の名がついたという。登山口に書かれていた信楽町教委による飯道山案内文である。米飯をはじめ五穀の豊穣を願う、人民の信仰心がうかがえる山名由来といえよう。

山頂から杖ノ権現の休憩場まで急坂を滑りおりると、小石がゴロゴロした沢筋の道に出る。杉折ヶ谷をくだり、ササが生い茂る三大寺登山口への道を進む途中、数輪のササユリを目にした。ユリの清楚さ華麗さに見惚れて向き合っていた。近江の古都を歩いてきたせいか、天平文化華やかな時代に、美貌の女帝とうたわれた元正太上帝の面影が脳裏に浮かんできた。

天武帝と持統帝の血統を受け継いだ草壁皇子には、氷高媛と吉備媛の2人の皇女がいた。氷高皇女は女の幸せを犠牲にして元正女帝となり、吉備皇女は長屋王と結ばれたが藤原一派の陰謀で非業の死をとげる。その後都に疫病がはやり、聖武天皇は仏教に活路を見出だそうとしていた。

平城京を逃れて愛原離宮に過ごしている時に、太宰府にいる藤原広嗣が乱を起こし、聖武天皇は伊賀・伊勢・鈴鹿へと東国に放浪の旅を続けている。橘諸兄の進言する恭仁京に遷都して平安に浸ろうとするが、新都では愛児安積皇子の病死という悲劇が訪れる。藤原一派にも橘一派にも距離を置き、自らの意志で宮都を造営しようとした、それが紫香楽宮だったのではなかったのか。

今造る久邇の都は山川の
さやけき見ればうべ知らすらし
（巻六～一〇三七）

恭仁京へ遷都したとき、大伴家持が新都を誉めたたえた歌である。紫香楽離宮が造営され初めて行幸されたのが天平14年、新都と定められ廃されたのが天平17年である。短命さゆえか、紫香楽京を詠んだ歌は万葉集に残されてはいない。

聖武天皇の時代を追想してみれば、光明皇后との子基の死による激情で、元正帝の信頼厚かった長屋王を呪詛の疑いで滅ぼした。県犬養広刀自との子安積の死によって、今度は血の報復ではなく、紫香楽宮の地で大仏建立の詔勅を出したのである。それは伯母にあたる元正帝との和解を意図していた。

聖武天皇がビルシャナ仏を造立するため行基に力添えを頼むが、あいつぐ宮都変転で労役にかり出された民衆の不満は大きかった。宮都のまわりの山々が付け火され、山火事に包まれて紫香楽宮を廃するはめになる。続日本紀に、「是の時、甲賀宮空しくして人無し、盗賊充斥す。火もまた消えず。」と荒廃していく様子が記されている。

紫香楽宮の東の山からも出火したということであり、歩いてきた飯道山もおそらく山火事に包まれたのだろう。甲賀寺造営のための木材が灰になったことも、紫香楽宮の鎮めの森が燃え上がったことも、紫香楽京が廃される理由となったのであろう。

山道を離れると、日吉神社から田園風景を眺めながら貴生川駅に向ってくだる。

甲賀寺跡（国史跡紫香楽宮跡）

飯道山上から見渡した鈴鹿山脈の山並が、山頂で見たよりもワイドに広がっている。三角錐の鋭峰でそれとわかる鎌ヶ岳では、もうシロヤシオの季節は終わったのだろうか。農家の手入れが行き届いた庭に、園芸の花に混じり野の花も彩りを見せている。緑の木々や美しい野の花、すべてを灰塵と化す山火事の恐ろしさを思い、駅へ歩く。

信楽高原鉄道を降りて、車を置いた甲賀寺跡に戻る。いまだに宮都の全容が明らかではなく、まぼろしの紫香楽宮という呼ばれ方がされている。松林の丘陵地では、金堂跡・経楼跡・僧房跡などの発掘された礎石が目にできる。天平時代この甲賀郡信楽の地に、紫香楽宮と甲賀寺が存在したことに疑う余地はない。

紫香楽の空が真珠色に飾られた朝に、聖武天皇は建都途上の宮廷の門に大幡を立てることを命じた。紫香楽宮が名実ともに栄光の宮都となった華やかな朝である。そのあと伯母の元正を甲賀寺にみちびき、大仏殿となる御堂の中で、聖武天皇は元正太上帝とこころゆくまで話されたことだろう。

ビルシャナ仏が鋳造される前の御体骨柱を前にして、天皇と太上帝は過ぎ去った運命を受け入れ、仏の前に心を合わせていた。聖武が説いた仏への帰依にうなづき、元正太上帝は、氷高媛と呼ばれていた若き日を思い返していた。愛情を寄せた長屋王、その愛を譲った吉備妹媛をしのんで、この場所で涙したのだ。山歩きを終えた私は、古き思いをめぐらせ、甲賀寺跡に立っていた。

千数百年の歴史をもつ信楽は、信楽焼の陶器の里として知られている。紫香楽宮跡の周辺の山麓からは古い窯跡が見つかっている。信楽焼が隆盛を極めだしたのは鎌倉期の中頃だが、紫香楽宮の宮瓦を焼いたことが、信楽焼の起源であると伝えられている。

（平成16年6月5日歩く）

▲コースタイム▼

甲賀寺跡（15分）隼人橋（25分）宮町登山口（25分）白鬚明神（40分）飯道神社（行場めぐり30分）飯道神社（30分）飯道山（1時間）日吉神社（30分）JR貴生川駅（信楽高原鉄道15分）紫香楽宮跡駅（15分）甲賀寺跡

＜地形図＞2万5千＝三雲・水口・信楽

旧高島町・志賀町の町界尾根登高

鵜川左股・右股出合から嘉嶺ヶ岳

比良

小山誠次

平成16年7月17日、前回（6月19日）鵜川縁から牛山登山を果たしたのに続いて、鵜川を起点にしたもう一つの登山計画を実施することとした。

本日の滋賀県の降水確率は、南・北部共に午前0％・午後10％なので、予定通りJR京橋駅午前8時14分発の湖西レジャー号で喜び勇んで出かけた。本日は比良山系の山並の深緑がくっきりと青空によく映えている。そのままふと空を見上げていて、高層の巻雲や巻積雲は電車の速度でも停滞しているように見えるが、低い層積雲は盛んに流れている。間もなく層の薄い層積雲は消散してしまうだろう。

北小松駅で下車し、前回の農道をたどる。道中、コオニユリ・ヒメヒオウギズイセンの赤、メマツヨイグサの黄、ヒメジョオンの白、あまり目立たないメハジキのピンクの花が目を楽しませてくれた。もちろん、岩除地蔵尊で合掌することも忘れていない。前回見た水田では、30～40㌢位に成長した稲の、残り少ない水溜りにまだオタマジャクシが泳いでいる。カエルになる前に水が干上がってしまいそうだ。

前回同様、農道は鹿砦とした樹林のなかを通るが、左手にクマ捕獲用の檻が放置してある。以前はこのあたりでもクマが出没したのであろう。今でも使うことがあるのだろうか（後日、イノシシ捕獲用の檻と判明）。間もなく農道は地道になり、鵜川縁に達する。見れば、右手には立派な堰堤がある。入口の開閉は自由だが、出るときにはまた締めておく必要がある。

この道は鵜川右岸ら鵜川左股の右岸へと続いているが、人がほとんど通らないようで、倒木がかなり道を塞いでいる。間もなく左股・右股に分岐する手前で、石に矢印が描かれ、木に「ウ川堺」と朱書された場所に到った。ここをくだり、水際まで行くのであるが、先の道の様子を見るため、5分間ほどさらに上流にたどった。この道からは左股・右股の出合は木々に蔽われてわからないようだ。

「ウ川堺」の木まで戻り、川縁に降りて行く。実は、先の「ウ川堺」の朱書にしても、本日は旧高島町・志賀町の町界を忠実にたどるので、町界杭が到る所に設置され、巡視のための山道もあるはずだと考えて計画を立てていた。

そこで、川縁に降りて行って、右岸をほんの数分遡るだけで、眼前に鵜川の左股と右股の出合を目にした（写真1）。写真では、左右からそれぞれ流れ込んでいるのがよくわかる。水量は同じ位である。ただ、2万5千の北小松地形図では、両町界は右股に寄り過ぎているようだ。実際の町界杭は、左右両股の出合直上に打ってある。

意気を新たに、出合地点からまっすぐ斜め上方を見上げると、町界杭と共に小道が続いているのがよくわかる。といっても、水際から尾根にのるまでは30度位の傾斜だが、両手・両足を使えば、とくに登りにくいことはない。数分間の辛抱だ。前回の牛山登高の平均斜度は19度だが、本日の嘉嶺ヶ岳までの町界尾根の平均斜度は11度なので、30度の傾斜はむしろ例外といえよう。

数分も登ると道はゆるやかになり、水際とは打ってかわって強い日射しとなった。左手には前回登高した牛山からの稜線がのびているのが見える。振り返ると、琵琶湖畔の鵜川の民家と近江高島駅へと続く湖西線のゆるやかな右カーブの線路が眺められる。逆に、湖西線に乗っていて、この右カーブに差しかかるときに左後方を見ると、町界尾根の長軸方向が一瞬見えたことがあった。この体験も本日の計画を実行する遠因となっている。

このまましばらく登ると、右手後方には見張山（音羽山）のなだらかな山容が見え、さらに琵琶湖の向こう岸には伊吹山とそのずっと右手には霊仙山か。本コースは木々の遮蔽がほとんどないので、遠景を楽しむには好都合である。ただし、左股と右股の間の尾根を登高しているので、エスケープルートがない点は要注意である。さらに、飲料水補充も不可である。

とにかく日射しが強い。ちょっと歩いてもすぐ息が切れてしまう。わずかな木陰を見つけては、小まめに水分や塩分の補給と休憩をとるようにした。おまけに風が無いので、Tシャツの上の長袖を脱ぎ、汗と熱の発散にも心掛けた。

ルートは当初予想していた通り、いたる所に町界杭と、所どころに鵜川生産森林組合の札があり、そして連続した小道が設けられている。まさに尾根上の道を歩いている感触で迷いようがない。むしろ、左右両股の出合付近のほうが荒れているくらいである。

（写真1）鵜川左股と右股の出合

嘉嶺ヶ岳付近略図

左手に牛山の頂上を通過するのを見て小さなアップダウンを繰り返して行くと、岩阿沙利山が見えてきた。北稜（西側）から眺める岩阿沙利山の山腹はいたる所ガレ場だらけであるが、こちら南東方向から見るとあまりガレ場が目立たないのも新鮮な印象をもった。

ところで、意外に感じたのであるが、この町界尾根の樹木でも鹿の皮剥ぎ痕が見られる点である。また、剥がされた木を眺めていると、リョウブばかりである。剥がしやすいからだろうか。

本日は遅々として登高が進まない。それでもようやく終点の見通しが立つようになった頃、左手前方に滝山と、進行方向前方に嘉嶺ヶ岳の山容を捉えるようになった（写真2）。右手山腹には林道鵜川村井線もよく見える。

間もなく、左手斜め下にU字型の左股源頭部の草付きが間近に見えるようになると、右手には町界尾根からの支尾根がのびているのもよくわかるようになってきた。後で地図で確認すると、林道鵜川村井線と200㍍の距離まで接近していたことになる。

13時9分、無事に嘉嶺ヶ岳の山頂に達し、縦走路と出合った（写真3）。本日はまさに熱中症との闘いで、小まめに休憩をとり、水分補給にも気をつかったので、予定よりも時間オーバーした。それでもゆっくりと昼食をとり、体力の回復を図ってから、13時56分寒風峠を目指して出発した。

炎天下の尾根登高よりも、滝山を経て寒風峠への木々の間の縦走路のほうがずっと楽だと改めて感じ、間もなく14時23分、寒風峠に到着した。筆者にとっては2ヶ月ぶりの寒風峠である。

実は、寒風峠を通るルートを選択したのには一つの目的があった。飲料水補充である。登山開始時、3・2㍑の飲み水を持参してきたが、もう残り0・3㍑しかない。寒風峠から涼峠への道の左手すぐの清流で水分を補給する予定だったからである。ただちに0・5㍑を飲み、さらに1㍑を補給して涼峠に向かった。結局、この日は帰宅までに4・4㍑を飲んだことになる。

本日の目標はもう達成したので、ここからはゆっくりと土と水とが交錯する湿地帯のなか、周囲の風景と水音、そして鳥の声を楽しみながら山道をたどることとした。

途中、コース左手に黄色いテープを見かけた。滝山から南東にのびる尾根への取付口かと思われた。その少し先を見れば、複数の靴跡が残っている。もう少しくだると、今度は頭柱に「BM3」と「R」と刻した、かなり古そうな石碑を見つけた。意味はわからない。さらにもっとくだると、尖塔形の古い標石も目にした。正面には「左はたみち」と刻され、右側面には「阪田郡石田村松田久治郎」、左側面には「明治四十三年五月」と読めるものであった。なるほど、寒風峠から

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発㈱へ!!

・小型（20人・24人）
・中型（28人乗り）
・中2階（45人乗り）
・大型（55人・60人）
いずれもサロンカーからデラックスまで
スキーバスもあります
〒578-0971 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F
電話06(6745)3911・FAX06(6745)3983
夜間・電話06(6242)2371・FAX06(6242)2372

（写真2）町界尾根から眺める嘉嶺ヶ岳

（写真3）嘉嶺ヶ岳山頂の縦走路との出合

寒風橋を経て畑に到ることを案内するものであろう。

むしろ、筆者は左はたみちであるならば、右は何処へ？と考えてしまうが、そういえば、道標の右側は少し陥没した山道跡のように見える。ずっと以前には、滝山からの南東尾根に向かう山道がここから通じていたのかもしれない。しかし、これは当時の仕事道であったのだろう。さらにくだると、もう一基、先の石碑と同じものに出合ったが、今度は一面苔むしていて文字の有無すら不明だった。

15時21分涼峠に到着した。何と寒風峠からここまで58分もかかっている。これはちょっとゆっくりしすぎた。涼峠からは楊梅の滝への道には寄らず、そのまま通常ルートを経て慕之橋まで一直線にくだってきた。途中で一ヶ所、タンヤマ谷へまっさかさまに落ちている崖っ淵の上を通る所だけ要注意である。

帰り支度を済ませて歩いていると、げんき村あたりで一時大粒の雨がパラついてきたが、すぐにやんだ。北小松駅近くのいつもの生椎茸の直売所に立ち寄っていると、突然すごいドシャ降りになり、駅まで走った。駅では構内の放送が落雷と共に途切れ、蛍光灯も消えた。牛山も全く見えないくらいである。

それでも、16時51分発の電車は定刻に発車し、無事に京都に戻った。帰宅後、テレビを観ていると比良山系周辺は降水量が赤色で表示されていた。ちょっとは水甕琵琶湖の足しになったのだろうか。

本日のコースは夏の炎天下向きではない。秋の紅葉シーズンならば、さほど高低差のない尾根からは周囲の展望もよく、鵜川左股と右股の出合付近のみちょっと注意すれば、景色を十分楽しめるいいコースではないかと思われる。

（平成16年7月17日歩く）

▲コースタイム▼

JR北小松駅（37分）牛山取付口（6分）堰堤（11分）「ウ川堺」（6分）上流へ（4分）元の「ウ川堺」（4分）鵜川左股・右股出合（43分）標高330㍍（1時間27分）標高640㍍（7分）嘉嶺ヶ岳・縦走路出合（27分）寒風峠（58分）涼峠（53分）北小松駅

＜地形図・地図＞

2万5千＝北小松
昭文社＝「比良山系」

スイス・アルプス紀行（前編）

シャモニからグリンデルワルト

生駒聳峰

ヨーロッパ

日本のハイカーにとってスイスは憧れの地であり、私も幾たびか訪れている。ツアーでは、モンブランのあるシャモニ（フランス領）、ユングフラウのあるグリンデルワルト、マッターホルンのツェルマットの三ヶ所が定着している。

ツアーは10日程の日程が多く、各所に2～3泊しかできず、ゆっくりと山を楽しむことができない。各地にはたくさんのトレッキングコースや見所があり、一度ゆっくりと訪れてみたいとかねがね思っていた。そのためには、各地に少なくとも一週間くらいの日程が必要で、ツアーでは不可能である。さりとて個人旅行するほどの語学力もなく、億劫で断念していた。

今回スイスアルプスロングスティなるツアーが見つかった。各地で一週間程シャレー（貸別荘）に泊まり、全く自由行動で、希望者にはハイキングに案内します。とあった。ガイド付きで交通や言葉の心配もなく、必要な時には面倒をみてもらえる。全くお誂え向きである。各地とも一応訪れているので、様子はわかっているし、今まで行けなかった所にも行けそうである。また、のんびりしたいと思っていた所でも、自由に時間がとれそうである。私の目的にぴったしの20日間の旅である。

グリンデルワルトではミューレン、007の映画が撮影されたシュトックホルン、蒸気機関車の登山鉄道のあるロートホルン。ツェルマットではエーデルワイスの咲くスネガ高原。考えただけでもわくわくする。ツアーが発表されたのは、まだ寒い2月だったが、催行される7月まで、ガイドブックを広げて楽しんだ。

6月末日、チューリヒに飛ぶ。11時間の飛行で時差は7時間。空港からバスでルツェルンに到着する。湖畔のこじんまりした町で、ピラトゥス山が影を映していた。双眼鏡で覗くと、岩山の山頂にホテルが見える。登山鉄道で登れるというが、山の形から一体どこに線路があるのか不思議である。

シャモニからのモンブラン山群

町の背後には、世界で一番最初に登山鉄道が設けられたリギ山もある。九州より少し大きいくらいのスイスだが、世界一の鉄道大国とのことで、山があれば登山鉄道があり、それに付随してロープウェイやゴンドラが縦横に設置されている。

翌日、ルツェルン市内を観光してからシャモニに向かう。スイスは山岳王国だが、けっこう平野も広く牧草地が続く。しかし全く農地は見られなかった。国境地帯の山岳部を大型バスがたくみに走り抜ける。ヨーロッパはEU圏になり国境もフリーパス（スイスはEUに入ってない）。シャモニは谷間の細長い町で、中心にあるホテル「ALPNA」に入る。

スイス・アルプス略図

今回のスイスはシャレー泊まりだが、シャモニだけはホテルである。部屋のベランダから夕陽に輝くモンブランが望まれる。よい部屋が割り当てられて最高だ。いよいよバカンスの始まりである。

あまり広くもない町には日本人が溢れ、特に中高年の女性の姿が多い。行き交う人々の七割が日本人である。予想はしていたが、こんなに多いとはびっくり。この状態は以後スイスに入っても変わらなかった。もし日本人を除いたら、スイスの観光は立ちいかないのではと思われた。もっとも私もその中の1人ではある。

観光案内所には日本語コーナーもあって、日本語べらべらのおばさんが案内している。何でもNHKの番組に出演したとか、日本人によく知られているらしい。今回のツアーは食事もフリーなので、スーパーでソーセージやチーズ、ワインを買い込み、バルコニーでモンブランを肴にグラスを傾ける。山好きな者にとっては、最高に贅沢なひとときである。

スポーツ店でガスカートリッジを求める。航空機には持ち込めないので現地調達したが、日本の二倍以上の値段であった。

シャモニ観光の目玉は、エギーユ・ミディに登り、モンブランを眺めることだが、何とロープウェイが工事中で登れない。これではシャモニに来た甲斐がない。私達は先の観光時に登っているので特に失望はしなかったが、初めての人には残念なことだった。

翌朝山は雲に包まれ、モンブランは姿を見せない。今日はモンブランと反対側のプレパン展望台に、ゴンドラ・ロープウェイを乗り継いで行く。展望台では冷たい風が吹き、町は見下ろせたが、モンブラン山塊は頭を雲に突っ込んでいた。展望台に20㌢角くらいの三角点のような標石が設置されていた。三角点マニアの私には、そのほうに興味があった。

ゴンドラ駅から山腹をハイキングする。このトレイルは、エギーユ・ミディ山群のパノラマルートなのだが、今日は曇り空の下を歩くだけ。山腹を伝うルートはほとんど傾斜のない水平道で、次のロー

ブウェイ駅のあるアンデックスまで2時間の行程であった。全くトレッキングの経験のない人でも、高山の気分を味わえるようになっている。

今日は半日コースなので町に帰ると、マッターホルンを初登頂したウィンパー（イギリス人）の墓を見に行く。登頂時の遭難事件は有名な話だが、いろいろ騒がれたので、ウィンパーはマッターホルンのあるツェルマットに住まず、シャモニで余生を送った。この墓地にはシャモニの日本人会によって、アルプスで亡くなった日本人登山家のための遭難碑も立てられてあった。

ホテルの前の川は白濁した氷河の水が激しく流れている。ウェットスーツに身を固めた若者が川下りを楽しんでいる。アルプスの山の町で川下りをするなど、いろいろな楽しみ方があるものだ。昨夕は銀色に輝いていたモンブランも、今日は全く顔を見せなかった。

次の日も曇り空。山岳地帯は天候不良の日が多い。昨日下山したフレジュールのロープウェイに乗り、アンデックスの展望台に登る。雲が多く今日も針峰群は顔を見せない。その鋭い岩峰にフランスの若者達が登って行く。見ているだけで私は恐怖を覚えた。

ラック・ブラン（ブラン湖）にハイキングする。所どころに花が咲き、カランコロンと鈴を鳴らすヒツジ達。点々とハイカーが続く。天候がよければいいことないが、これだけはどうすることもできない。まだ周囲が雪に閉ざされた湖は寒々としていた。ただ一軒のレストランは満員で入れず、寒い外の縁台の片隅でぽそぽそと昼飯をとる。周囲を見渡すと、ここも日本人が大半であった。

シャモニを出発する朝、やっとモンブランが顔を出す。朝日が山頂から徐々に裾野に下がってくる。シャモニからのモンブランはそれ程鮮明ではなく、指さされなければ同定できないくらいだが、到着時と出発時だけ姿を見せてくれた。

スイスに戻り、レマン湖のシオン城を観光する。日本女性の案内員が常駐し、ここも日本人のほうが多い。ベルンの旧市街は世界遺産だが、時間が無くて素通り。商店街のスーパーでの買い物が忙しかった。何しろこれからはオール自炊になるので、食料品を両手に一杯。日本の醤油やラーメンも売られていた。

◆ウォーキング W◆
2気室切替式短期縦走モデル

☆32l☆
•カラー　ミントグリン×モノクロ
　　マゼンタ×モノクロ
•重　量　1550g
•素　材　高密度ナイロン
•価　格　¥15,000

☆28l☆
•カラー　マゼンタ×モノクロ
　　ネイビー×モノクロ
　　レッド×モノクロ
•重　量　1400g
•素　材　高密度ナイロン
•価　格　¥13,000

オリジナルザック & 登山用品専門店
神戸ザック
http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac

・雨蓋内ジッパー付き小ポケット
・P&Aフレーム内臓により体型に合わせて形状を変えることが出来、ザックの型くずれを防ぎます。
・左右サイドファスナー付片側は内ポケット、もう一方は内部へのアクセス用
・フロントポケットはメッシュとゴムコード付
・内部の仕切りフラップの開閉により1~2気室に切り替えて使い分けを可能に。
・立体裁断により体にフィットし疲労感を軽減します。

イモック山遊行くらぶ（やまゆこ）
春夏秋冬、シーズンを気にせず
里山、低山、名山を訪ねます。
詳細はお問い合わせ下さい。

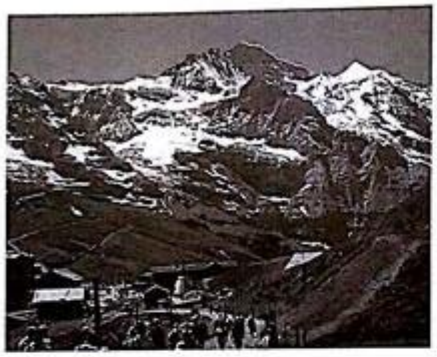
イモックと呼んで下さい
OUTDOOR SPORTS SHOP
IMOCK.
KOBE
〒653-0039 神戸市長田区日吉町3丁目1番30号
カナゾノビル2F
TEL (078) 621-5851
FAX (078) 621-3528
営業時間／10:00~20:00　毎日曜日不定休

★ザックのカタログ改正版が出来ました。

ベルンからグリンデルワルトまでは1時間余り。すでに来たことがあるので特に感激はないが、巨大なアイガー北壁の下の町には、初めての人は感激するだろう。さすがにスイスアルプスの町である。

ここでシャレーのオーナーに迎えられ、各所に分散する。以後グループの人達とも無干渉で、全く夫婦だけの生活になる。

町は高原台地の斜面に広がり、メイン通りは商店やホテルが占め、シャレーは離れた所にあるので、どこに行くにも坂道を歩くことになる。シャレーは場所も建物もいろいろで、くじ引きで部屋を定めたが、くじ運悪く駅から20分も離れた所が当たり、一週間通勤に苦労した。室内はベッドルーム・リビングキッチン・バスルームと三部屋あり、冷蔵庫・電気グリル、さらに炊事用具・食器などの生活用品がセットされている。しかし洗濯設備は無くて、バスタオルやナプキン類の取り替えもない。もちろん掃除もベッドメイクも自分ですることになる。


ユングフラウ

与えられた部屋は一階で、庭には立木が茂り、前のアイガーがよく見えず残念だった。

オーナーは上の階に住んでいたが、最初に鍵や器具の扱い方を説明しただけで、全く無干渉。覗きにも来なかった。

町に日本語案内所があり、日本人が常駐していて山や町の案内をしてくれる。ここも日本人の中高年の女性が溢れ、女性のパワーに圧倒される。電車も土産物屋も日本人ばかり、日本人を除けばひっそりとした町になるだろう。

町にはスーパーが二軒あり、日本の食料品は無いが、パン類を始め、野菜・果物・肉類・乳製品。そしてワイン・ビールには事欠かない。魚類は少ないが、まず日常生活は日本同様にできる。私はワインさえあれば満足で、日本円で500～600円のもので十分口に合った。

グリンデルワルトは高原の町なので、谷間のシャモニやツェルマットよりは広くて明るい。背後にはベッターホルンが聳え、正面にはアイガーの岩壁が立ちはだかる。そのふもとには牧場の緑が広がり、点々とシャレーや農小屋が点在し、ポスターにあるスイスの風景そのままである。

一週間のシャレー住まいは、全くの自由だが、毎日添乗員がどこかのハイキングを計画してくれる。好きなコースだけ選んで参加できるし、途中で別行動するのも全く自由である。

観光立国のスイスでは、山にはロープウェイやゴンドラが縦横に架けられている。この乗物代が非常に高い。今までツアーの時は、込みの料金なので全く知らなかったが、今回はフリーで自分持ちになる。半額割引のスイスパスを所持しているので、どの乗物も半額で乗れたが、半額でやっと普通と思われるくらいであ

る。駅に表示されている料金は非常に高いものである。

グリンデルワルトの初日はユングフラウ観光である。ヨーロッパ最長といわれるテレキャビンに40分程乗り、メンリッヘン展望台に着く。ここには反対側のウエンゲンからもロープウェイが通じ、レストランやホテルが建っている。クライネシャイデックまでの道はお花畑のパノラマ・ハイキング道で、今日のメインコースだが、私はすぐ近くのメンリッヘンのピークが気になり、グループとはずれて妻と2人で山頂に向かう。ピークには金属標が入っていた。何か測量の基点さえ見つければ満足。三角点ばかりを追っている気性では仕方がない。見渡せばアイガー・メンヒ・ユングフラウの三山が大きく蟠り、下の谷にはウエンゲンの町、対岸の崖の上にミューレンの村が見える。その背後にシュレックホルンの峰が尖り、頂上の007の撮影地になった展望レストランが見えた。スイスアルプス神髄の景色である。

グループの人達を追ってクライネシャイデックに向かう。いつの間にかハイキング道は銀座並み（少し大げさか）の人で、幅広の道も歩きにくい。眼の下にグリンデルワルトの町が広がる。すばらしい展望の上に、道の左右は高山植物の花がいっぱい。とても種類が多く、ガイドの説明を聞く人達が立ち止まり、交通渋滞だ。もちろん日本のおばさんばかり。外国からの人には迷惑だろう。

クライネシャイデックでは、ホテルの前で大勢の人が憩っていた。駅の裏に小説家新田次郎の墓がある。アルプスを題材にした彼の小説は、私も好きなものの一つである。

ユングフラウヨッホ行きの電車で、一駅目のアイガーグレッチャーで降りる。ユングフラウは観光済みなので除外して、数日前に開放されたアイガートレイルを歩く。アイガー北壁の真下に付けられたトレッキング道で、ここも展望がすばらしい。まだ雪渓がたくさん残り、中級コースで人影も疎ら。もちろん日本人のおばさんの影も無い。初めて静かなハイキングが楽しめた。見上げるアイガー北壁のいったいどこを槍有恒が初登攀したのだろう。いくら眺めても登れそうな所は見当たらない。

午前中に歩いたメンリッヘンやグリンデルワルトを見下ろしながらのトレイルは、日本では見られない広大な展望ハイキングであった。

夜半、満月近い月がアイガーの岩壁の上にかかる。その岩壁の真ん中にライトが一つポツンと見える。何だか不思議な光景だが、アイガーを貫く登山鉄道の覗き窓の明かりである。ちなみに昼間のその窓は、いくら双眼鏡で探しても見つけられなかった。

翌日は天候不良で、空は雲に埋められている。7月というのに、アイガーの一部に積雪が見られる。夜半に降った雨は山では雪になっていた

今日は天候が良くないので、ハイキングでない所をとシルトホルンを目指す。007の映画のロケ地で、行ってみたかった所である。一度インターラーケンに向かい、途中で乗り換えてラウターブルンネンで降りる。ここからケーブルカー・高原電車と乗り継ぎ、ミューレンの町からロープウェイを二つ乗り継いで頂上に到着となる。少しの間にいったい幾つの乗物に乗ることか、山国スイスを実感する。3000㍍近い所まで歩かずに登れたが、山頂は霧に包まれ冷たい風が吹く。

とても外に出られそうもない。ここの回転レストランは名所で、その名もジェームスボンド・スパゲッティを食べた。何の変哲もないスパゲッティだが、これも旅のお愛想である。雲の晴れ間から見る雪山の展望は、息をのむ凄さである。

下山してラウターブルンネン郊外の滝を見る。洞窟の中を流れ落ちる滝は、今まで見たことのない形である。天候不良で少し残念な一日であった。

翌日も天候は良くない。一週間の滞在で、のんびりできると思っていたが、行きたい所が多いから天候不良でも出かけることになる。今日はシーニゲ・プラッツである。やはりインターラーケンに向かい、ウイルダースイルで登山電車に乗り換える。本当にスイスはどこにでも登山電車やゴンドラがある。

ロートホルンの登山機関車

グリンデルワルト周辺の鉄道・ゴンドラなどは、一つの鉄道グループで切符は共通で買える。シーニゲ・プラッツもお花畑で有名な所で、いろいろの高山植物が見られ、高山植物園もある。もちろん展望もよく30分程で山頂に立てるが、今日は天候不良で霧が舞い、何も見えずうすら寒い。しかし花はたくさん見られた。

下山後、グリンデルワルトの町を散策する。公園で楽団の演奏を聴いたり、お土産物屋やスポーツ店を一軒一軒覗いてみたり、これも旅の楽しみの一つ。もちろんどの店も日本人で溢れている。

今日も雲が多い。今日はユングフラウと反対側のフィルストに行く。テレキャビン（4人乗り）に分乗し、中間駅を二つ通過して山頂駅に到着する。どこでもリフトの山頂にはホテルやレストランがあり、ハイキングしない人達も展望を楽しんでいる。山々は厚い雲に包まれているが、下の台地に牧場が広がり、農家・シャレーが点在し、ここでもスイスに来ている実感を味わえた。よいハイキング道をぶらぶらと湖に向かう。キツネが一匹ハイカーに餌をねだっている。日本の北海道ではよく見かける光景だが、スイスでは初めてである。少し離れた丘の上にマーモットが二匹立ち上がり、こちらを眺めている。

スイスでのハイキングコースは、登りは乗物、下りはハイキングと楽なコースが多い。もちろん下から登ることも可能である。湖にはまだ雪を残す峰が影を映し、花が咲き乱れてハイカーを楽しませる。お花畑のなかを一つ一つ花を調べながらくだる。ルンルン気分のハイキング、日本での登山とは全く違ってお遊びの雰囲気である。お花畑に坐ってカップラーメンとおにぎりの昼飯タイム。雪山を眺めて至福のひとときである。牧場にくだってくると、一面の花のなかに、木造の古びた農小屋が趣を添える。どこでも絵になる景色であった。

中間駅からテレキャビンに乗って下山したが、歩かずにテレキャビンで往復す

る人も多い。

グリンデルワルト郊外の渓谷も名所で、両岸は岩壁が切り立ち空が見えない。遊歩道はその岩壁沿いにあるが、行きづまると岩をくり抜いたトンネルになり、最後は行き止まりになっていた。日本の山は火山が主体で、穏やかに裾野を引いているが、スイスの山は地球の収縮から成り立ち、このような激しい岩壁が出来たのだろう。

今日もまた天気は芳しくない。まるで日本の梅雨時みたいだ。雨は夜半に少し降るくらいだが、山々はなかなか頭を現わさない。高山地帯だから天候不良の日が多いのかもしれない。

今日は蒸気機関車の引く登山鉄道で有名なロートホルンに向かう。インターラーケンからスイス国鉄でブリエンツに下車する。すぐ駅前に小さい機関車が黒煙を上げている。黒部渓谷のトロッコ電車のような客車を、三～四輌引いて山に登っていく。機関車はジーゼル車と半々くらいである。中間駅で給水する。乗客は全員下車して記念写真を撮るのに忙しい。列車が牧場を登ると、巨大なカウベルを付けた牛が歓迎してくれる。見上げる頂上にホテルや駅舎が見える。急斜面をおもちゃのような列車が下ってくる。おとぎ話の国に来たような風景である。

切り立つ尾根に列車が到着する。寒い風が吹き抜け、山頂の櫓に雲が去来する。狭い稜線にホテルやレストランが建ち並び、その下を一筋の道がのびる。列車を降りた乗客は一列になって、山頂の展望台に登って行く。山頂には三角形の櫓が立ち、その下に天然石を使用した三角点があった。すばらしい展望で、アイガー・ベッターホルンの山々が連なるが、雲が多いのが残念である。

下の草原には登山電車が模型のように走っている。日本では見られない景色、ここでもスイスを実感する。

帰路はブリエンツ湖を遊覧船でインターラーケンに戻る。スイスでは何もかも観光用に出来ている。

一週間はあっという間で最後になってしまった。一週間もあればのんびり楽しめると思っていたのに、連日休まずに行動してもまだ行きたい所が残っている。

しかし最後の一日くらいはのんびりしようと、シャレーでワイン片手にアイガーを望みながら読書と昼寝で過ごした。グリンデルワルトは、緑の牧場にシャレーが点在し、おもちゃのような鉄道・自動車が走る。空にはテレキャビンがロープを伝い、その背後にアイガーの岩壁が屏風のように立ちはだかる。どうしてこのような風景が出来上がったのだろう。いつまで眺めていても飽きなかった。

昨夜の雨で山にはまた白いものが増えている。シャレーのオーナーに送られて町の駐車場に集合する。今日はツェルマット行きである。カンデルシュテークではバスごと列車に乗ってトンネルを抜ける。このようなシステムは日本にはないので珍しい。

ツェルマットは公害防止のため、エンジン付きの車は町に入れない。一駅手前のテーシュで列車に乗り換える。たくさんのトランクごとで大変だ。ツェルマットの駅ではシャレーの電気自動車が待っていた。

ここでまた一週間のバカンスが始まる。シャレーのバルコニーからマッターホルンが大きな姿を現す。展望の良い部屋が割り当てられて最高だ。

（次号後編へつづく）

2005年4月▶2006年1月 山歩き＆ウォーキング
総合カタログ
完成しました！ 送料無料
お電話・FAX お手紙 にて ご請求ください！
★添付の資料請求ハガキでご請求の方には新年度カタログをお送りします。
山歩き＆ウォーキング（年間・総合カタログ）▶
国内・海外・自然観察の旅500コース以上を掲載した総合カタログ。オールカラー！写真も掲載！
初心者のための山歩教室▶ パンフレット
山歩き初心者の方集合！お一人からでも気軽にご参加いただけるプランです。ゆったりとした行程で山歩きを楽しみましょう。
大阪支店に
高山病対策＆高所登山はこれで解決!!
低酸素室設置
●利用料（1回/1時間）
メンバーズ会員 ¥1,000
非会員 ¥3,000
「低酸素室」は人工的に低酸素環境を作り、その中でトレーニングする事により、高度障害に対する耐性を獲得することを目的とする装置です。低酸素の設定高度も3000m～4000mに調整することができます。初めて国内・海外の高峰を目指している方、山岳会やグループでの高所登山を計画されている方はお気軽にお問い合わせください！
① まず低酸素室に約30分間入ります。
—安静トレーニング—
② 次に低酸素を直接マスクに引き込み、心拍と血中酸素飽和度を見ながら、自転車をこいで30分間負荷をかけます。
—運動トレーニング—
これで1部分終了です。徐々に標高を上げながら段階に渡っての利用をおすすめします。
お問い合わせは… 山旅専門旅行会社
アミューズトラベル株式会社
国土交通大臣登録旅行業第1366号
日本旅行業協会正会員 ボンド保証会員
〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル7階
☎06-6456-3366
ホームページ http://www.amuse-travel.co.jp
E-mail:amtosa@amuse-travel.co.jp
FAX 06-6456-3377

連載

旗振り通信の研究 ㉔（補遺1）

旗振り通信の資料Ⅳ

柴田昭彦

本誌57号から79号まで、23回にわたって、「旗振り通信の研究」を連載した。

その後、新しい情報をいくつか得ることができたので、最終回での約束どおり、再び報告することにしよう。

【天下台山（てんがだいさん）（兵庫県相生市）】

岡山の郷土史家、岡長平氏の研究によれば、米相場は、龍野から赤穂へ伝達されたことになっている（本誌69号）。従って、龍野の中継所は、金輪山（こんりん）（龍野市片山）または相場振山（姫路市太市地区）であり、赤穂の中継所は赤穂高山と考えて矛盾しない。その距離は、19キロまたは21キロであり、望遠鏡を用いて旗振りが確認できる範囲内にある。

しかし、霧の発生などの場合には、20キロ先の視認はすぐに不可能になってしまうので、筆者は、以前から、龍野と赤穂の中間に、もう一つ中継地点が設置されていたのではないかと予測していた。

その予測の一つとして、宝台山が中継地点ではないかと考えたことがあった。昭和56年12月に、大阪から岡山までの旗振り通信の再現実験が行われた際、宝台山が中継地点に利用されていたからである（本誌71号）。筆者が相生市教育委員会と上郡町に問い合わせたところ、それぞれの聞き取り調査によって、宝台山には旗振り伝承が残されていないことが明らかになった（本誌69号）。それでは、相生市域には旗振り場は設けられなかったのであろうか。

筆者は、平成16年12月14日、「手旗信号　米相場」というキーワードでインターネット検索していて、次のような「掲示板（平成13年1月8日）」を見つけた。

「282　お答えします　とんび岩　男性　自営業　50歳ぐらい　兵庫県

天下台山の狼煙台

（中略）とんび岩は大正の頃まで、堂島の米相場を『手旗信号』で伝達する中継所に使われていたそうです。船舶無線で大阪から飾磨沖の船に伝わった信号が、手旗でとんび岩へ伝達されたと古老から聞きました。私がHPにこの名を頂いたのは、『手旗信号』が現代のインターネットのイメージにつながる通信手段だと思ったからでもあります。また『とんび岩』のある尾根は江戸時代の赤穂藩と龍野藩の国ざかいで、那波野や岩屋谷は龍野藩、古池は赤穂藩でした。」

「とんび岩」というのは、相生市の天下台山（321・4㍍）の山頂から北へ1250㍍の尾根上、標高1150～1160㍍付近にあり、口を開けている形の、目立つ大岩である。しかし、この岩から飾磨沖は見えない。天下台山の山頂から北東に連なる標高200㍍以上の山々が遮っているからである。

この投稿を行った男性「とんび岩さん（昭和22年生れ）」はHP「とんび岩通信」（平成12年2月開設）を運営されているので、さっそく問い合わせてみたところ、次のような返信を戴いた（以下、平成16年12月の4回分の返信内容から抜粋しました）。

「文中の『古老』というのは実は私の父（現在87歳）です。私は父から聞いたとおりに書いたのですが、おっしゃるとおり、とんび岩から飾磨沖は見えません。父は大正6年の生まれで、祖父から聞いた話に想像を交えてしゃべったのでしょう。祖父は明治22年の生まれで、若い頃は外国航路の船員でした。

私は、信号中継の場所はとんび岩ではなく、天下台山の頂上だったのではないかと思っています。4年前、父の記憶はすでに怪しいところがありました。私がホームページを公開したころ、とんび岩の話ばかりをしていたので、父の記憶の中では手旗信号もとんび岩のことになってしまったのではないかと考えます。

私が子どもの頃（約50年前）、天下台山の頂上から標高差で30～40㍍低い北西側斜面に子どもたちの間で『のろし台』と一般的に呼ばれていた構造物がありました。文書等に書いてあるのは見たことがありません。

狼煙台自体は、私も30年以上見ていなかったので、平成16年12月23日に出かけて、確認（デジカメ撮影）してみましたが、50年前とほとんど変わらない状態で残っていました。

以前は登山道の脇にあったのですが、その後、行政が新しく整備したハイキング道から外れたため、現在は人の立ち入らない場所になっています。ハイキング道からは20㍍ほど離れていますが、旧道の跡が残っていて難なく行き着けます。

通称狼煙台は、コンクリートと石で岩の上に作られた一辺70～80㌢の『コ』の字型の囲いで、山側が開いていて、囲いの高さは50㌢ぐらいです。囲いの中は何もありません。ただ平らになっているだけです。火を焚いた痕跡も私が見た限りありません。

狼煙台では、龍野、赤穂方面の見通しは良好です。狼煙ではなく、この台の上で旗を振ったというような可能性も考えられるでしょうか。

もし旗振り台だったとすると、場所が崖のような大岩の上なので、コンクリートは足を踏み外さないための柵で、山側の一方に囲いがないのは、そこから上がり降りするためで、70㌢という寸法も大人一人が足を横に開いて立つのにピッタリのように思えるのですが、いかがでしょ

うか？

ただ、頂上より明らかに低い場所に旗振り台を設けるというようなことはあり得るのか、という点は疑問です。」

つまり、とんび岩からは、姫路市飾磨区の沖の海は天下台山の尾根に遮られてしまうので、旗振り地点は天下台山の頂上と思われる。しかし、旗振り地点と推定される「狼煙台」では、金輪山、相場振山（太市地区）、赤穂高山は見えるのだが、飾磨沖を見ることはできない、というわけである。

筆者は、平成17年1月5日に、天下台山の山頂付近の「狼煙台」の調査を行って、とんび岩さんの現地情報を確認することができた。旗振り地点や通信方向についての疑問は残るが、天下台山の山頂付近で旗振り通信が行われたことは間違いないものと思われる。

天下台山登山地図

龍野と赤穂の間は19～21㎞あるので、その中間地点である天下台山は、見通しの悪い場合の補助的な中継地点の役割や、相生市街への伝達などに活用されたのではないだろうか。

相生市の天下台山での旗振りについて、何か情報をお持ちの方は、筆者にご教示いただければ幸いである。

【明石市の旗振りさん】

明石市の金ヶ崎山での旗振りについては、本誌65号で紹介し、そこで用いられた望遠鏡のことは、71・75号で紹介しておいた。

各地で旗振り通信員として活躍していた人の名前は伝えられているが、その旗振りさんの写真は、筆者の知る限り、一枚も紹介されていない。

筆者は、平成16年8月7日に明石市の黒田実三郎さん（大正6年5月生まれ、87歳）宅を訪問して、妻三代子さん（大正11年2月生まれ、82歳）に、父光次郎さん（明治12年～昭和34年）の写真を見せてもらうことができたので、ここで紹介したいと思う。なお、実三郎さんは入院中とのことで会うことができず、残念であった。

黒田実三郎さんの父
光次郎さん（1879～1959）

【ながたの旗振り山】

神戸市長田区の正法寺（しょうほうじ）が旗振り通信中継所であったことは、本誌79号で詳しく報告した。

お寺のかわら版「正法寺報第8号」（平成17年1月）では、お寺とご縁があった現代美術家の堀尾貞治さんによる書「ながたの旗振り山」が完成したことが紹介されている。庫裏の玄関に掛けてあり、お寺のHPでも掲載されている。

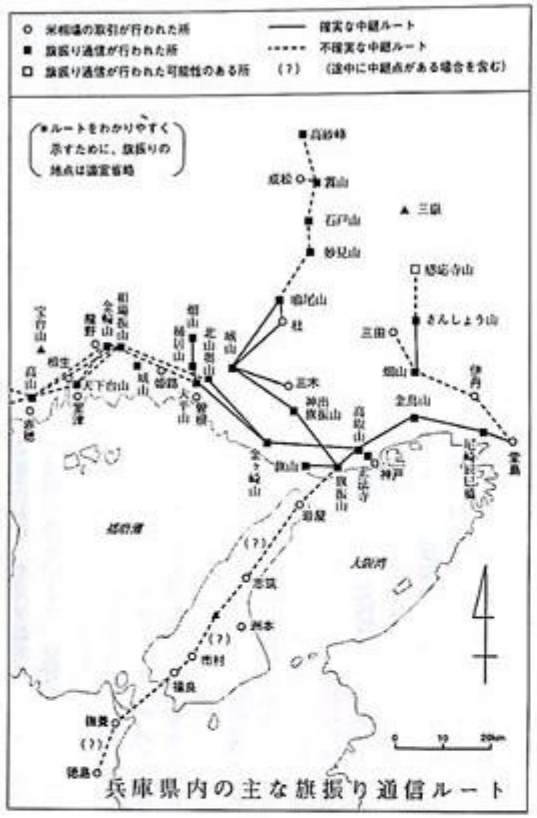
【相場山（岐阜市）】

インターネットで「相場山」を検索すると「稲葉山城の戦い（ゲーム記録再現）」があって、その中に「織田信長軍は総勢1万2千の兵力で相場山、瑞龍寺山の砦に陣を敷いた」とあるのが見つかった。地図には「相場山北東砦」とあり、本丸の南西に位置している。

稲葉山城の本丸は、標高334㍍の金華山の山頂にあり、今で言う岐阜城のことである。

「相場山」の呼称は、すべて、相場の伝達に由来するものである。本誌59号で紹介したように、犬山出身の歌人斎藤富三郎氏の多度の旗振りの文（川合隆治「旗振り通信について」、『三重の古文化第48号』昭和57年10月発行）によれば、岐阜・大垣・岡崎へも連絡していたというから、岐阜の旗振り通信地点は、この相場山であったと考えられる。

相場山北東砦（標高約186㍍）の位置は、金華山の山頂の南西方向920㍍にあり、相場山（標高約198㍍）はその更に南西280㍍にある。相場山の南西660㍍に瑞龍寺山の砦（標高158㍍）が位置することになる。



兵庫県内の主な旗振り通信ルート

インターネットで「岐阜　相場山」をキーワードに検索してみると、掲示板に「岐阜城の砦」があり、「相場山はNHK局がある」という記述が見つかる。伊奈波神社の南東300㍍に電波塔があり、この辺りが相場山であることを裏付けている。

【多度山（三重県桑名市）】

多度山の三本杉の旗振りについては、本誌59・68・77号で紹介した。

旗振りが行われた地点は、多度山上公園の山上広場にある高峯神社のそばの三本杉のところである。近鉄の「てくてくまっぷ⑫」の「多度山水郷展望コース」によれば、三本杉は高峯神社のご神木で、根元から幹が3本出ている（68号の写真参照）。平成16年12月、多度町は合併によって桑名市となった。

インターネット検索によって、「山幸彦2004」の多度山の記事を見ると、平成16年1月には、多度山の山頂、鉄塔32号の横に、「相場振り跡地」という白

い標柱があり、「相場振り」という茶色の説明板が写真に写っている。また、別のHPには、次のような内容の現地の説明板が写真に写っている（斜めに写っており、倒れているのだろうか）。

「史蹟　三本杉の『相場振り』

電信電話の敷設されていない明治の初め頃、大阪、桑名、名古屋間の米相場は『旗信号』により伝達されていた。つまり、この場所（三本杉）に信号所（中継所）を設け鈴鹿の山を通して来る大阪の米相場を赤旗、白旗を大きく振って桑名取引所に知らせる『相場振り』を行っていた。電信電話が普及している現在では、ほほえましい情景である。」

筆者が平成13年12月に多度山を訪れたときは、右のような標柱や説明板2枚は見つけることができなかった。

なお、キーワード「米相場」でインターネット検索して見つけた「青雲を醸す風土」には、次のように記述されている。

「明治になり廃藩置県がなったあとも、桑名には米の相場が置かれ米の町として栄えました。桑名の米相場は日本で唯一の夜立ちの場で、全国に先駆けて場が立ち、桑名の米相場が全国の米相場を決めると言われ、電話が出来るまでは、養老の嶺嶺に櫓が組まれ、信号の受け渡しで相場が伝えられたと言われます。

明治時代末には桑名の造り酒屋は、30軒近くあり、米相場でもうけた商人達は、地酒を東京の料亭に運ばせ、盛大な酒盛りをしたと言います。」

ここにある「養老の嶺嶺」が養老山系の多度山を指すことは言うまでもないことだろう。

【大津までの通信時間】

インターネット検索で「相場山」を調べると、「景観セミナー議事録（要旨）」が見つかった（平成16年12月20日）。

これは、平成14年8月18日、大津市歴史博物館で行われたセミナーで、この中の意見交換「大津の風景」に、青山菖子氏（大津の町家を考える会）の次のような話題がある。

「びわこ銀行京町支店の近くに米会所跡地の石畳が残っている。大阪の堂島でその日の相場が決まると、藤尾にあった相場山から堂島の旗振りの色を見て、5分くらいで伝わったというところだ。」

大阪から大津まで5分くらいで伝わったという話は初めてである。青山氏が古老から聞き取ったものだろうか。他の地域への伝達時間については、本誌75号で紹介しておいた。ここで述べられた「色」は、諸色値段のことで、米相場を表したものであろう。

なお、相場山（小関山）については本誌57号に述べた。79号も参照されたい。

【京都の地名　検証（前編）】

筆者が、京都地名研究会（平成14年4月発足）の会員として、京都府内の旗振り山（二石山、天王山、千鉾山、相場の峰）について分担執筆した本は、京都地名研究会編『京都の地名　検証―風土・歴史・文化をよむ』（前編）（勉誠出版、平成17年）として4月に発行される（79号で紹介した『京都地名探訪』の名称は変更となった）。

【千里山三本松（大阪府吹田市）】

平成17年1月4日、筆者のHP「旗振り通信ものがたり」を読んだ山田さんから「裏山が千里山三本松（五里山）」というメールが届いた。千里山三本松での眺望を案内したいとのことであった。最近3ヶ月で山田宅の南東側の林が工事で削

られて、この1月15日には売土地となるので、家のすぐ南の三本松への立入りができなくなるとのことであった。

平成17年1月10日、千里山西3丁目の山田宅を訪れた。はしごを登って、屋上に案内され、さすが、かつて旗振りの行われた三本松のそばだけあって、360度の展望が開けていた。そのあと、かつて三本松のあった地点を3～4㍍ほど掘り下げた現在の最高地点に案内してもらった。三本松はもと標高83㍍だが、1万分の1地形図「吹田」では78㍍の等高線が読み取れるので、80㍍より少しだけ低いものと思われる。

千里山三本松（立入禁止区域）

最高地点はフェンスのすぐ横にあり、樹木が1本あり、その下側にまだ小さな松が3本だけ植えてあった。かつて、先物相場取引もしていたという、山田さんのお父さんの話では、この土地の所有主の土井好治さん（吹田市垂水町）が植えたものだという（三本松を復活させたものだろうか）。

かつて、三角点標石が埋まっていたであろう三本松（83㍍）の地点は、もう空中の1点となってしまったが、山田さんのお父さんはもとの地点を記憶しておられて、今の最高地点のちょうど上の方だったという。ずっと昔は桃林が広がっていたと伝えられるが、現在は柿と梅の林となっている。

山田さんは、筆者のHPを読んで「目からウロコ」という感想をもらされ、「まだわかっていない旗振り中継地点を是非、見つけて下さい」とリクエストを戴いた次第である。

千里山三本松の旗振りについては、本誌57・78号で紹介している。筆者は平成12年に調査を試みたことがあるが、出入口は閉鎖され、立入禁止となっていて調査できなかったので、今回、山田さんのおかげで、それを実行できたわけである。お父さんの話では、今後も最高地点は残るらしいが、所有主の許可がない限り、現地調査は困難であろう。

三本松については、インターネット検索してみると、千里山史探検隊による「1881年佐井寺村村誌（全）」の原文とその解説があって、紀ノ加田（加太）沖が見えるほどの絶好の眺望地であったことがわかる。

【阿武山（大阪府茨木市）】

インターネット検索で「旗振り山」を調べてみた。「大阪府の山紀行」（平成15年1月）の中に次のような「阿武山」の山頂の解説板についての紹介記事があった。

「山の解説板があり、この山は旗振り山とも呼ばれていた。昔は入会地で採草地であったから、樹木はツツジくらいしか

生えておらず、大阪から見えた。『やすんば』というところに藁葺き屋根の小屋があり、男が一定の時刻になると旗を振っていたから、旗振り山と呼ばれた。大阪で開かれる市場を京都に知らせていたという。」

阿武山での旗振りについては本誌57号で紹介した。旗振り場は、貴人の墓の西側の「休場」であったということである。

【長者橋（東大阪市）】

本誌79号で、筆者の旗振り速報の記事（日本経済新聞、平成16年2月17日）への反響を紹介したが、東大阪市の米屋さんの話の中に出てきた「長者橋」というのが、どこなのか、気になっていたので調べてみた。

長者橋は、東大阪市川田2丁目の市立北宮小学校の南西の交差点名で、そのすぐ南に架かるのが「長者大橋」であった。米相場で儲けた長者に由来する名称らしく、それにあやかりたいという人が訪れたりするようだ。近鉄東大阪線吉田駅の北西1キロにあり、徒歩25分ぐらいである。

【鹿児島ルートの謎】

インターネット検索で「旗振り通信」を調べていて、慶応義塾大学の森平爽一郎教授の研究室のコラム「米先物市場を再興しよう！」の中に、堂島の米相場の情報伝達に関して、次のような記述があるのを発見した（平成16年12月13日）。

「そのほか、堂島から江戸までは一日半で、鹿児島までは一日での到着であったという。約250年前のITの成果である。」

旗振り通信で江戸時代に鹿児島まで伝達されていたという話は初めてだったので、森平教授にお尋ねしたところ、次のような返信を戴いた（平成16年12月13日）。

「これは、私の前の勤務先（福島大学経済学部）で経営学をおしえていた、現在愛知大学にお勤めの田川先生から、福島大学にいたときに聞きました。九州には夜になるので、灯篭の火を使ったと聞いています。大阪大学の経済史の授業で聞いたそうです。」

文中、「灯篭の火を使った」というのは、筆者の資料から考察すれば明らかに誤りで、「松明の火を使った」というのが真相であろう。田川先生というのは、愛知大学経営学部の田川克生教授のことである。森平教授は鹿児島までの通信についての出典を田川先生に問い合わせてみるとのことであったが、その後、返信はなく、不明のようである。

他にも同様の情報がないかどうかを確かめるため、インターネットで「手旗信号　米相場」のキーワード検索を行うと、次のような記述も見つかった（平成16年12月14日）。

「手旗信号はもともと江戸時代に大阪の米相場をいち早く米所の薩摩地方に伝えるために使われていた。」（情報システム論「手旗信号について」鈴木琢也）

今のところ、旗振り通信が鹿児島に及んでいたかどうかを裏付ける具体的な資料（福岡県と鹿児島県の間の旗振り山の場所など）は得られていないので、本誌73号で示したように、旗振り通信の九州での終点は若津米相場所（福岡県大川市）ということになるが、鹿児島への通信について、何か情報をお持ちの方は筆者までお知らせ願いたい（〒572－0011　寝屋川市明徳2－6－C9－502　TEL072－820－2769）。

【旗振り通信の文献（補遺）】

インターネット検索で「手旗信号　米相場」のキーワードで見つけたものに、放送博物誌の「ラジオフライ－旗」がある。その中に、「旗による通信」があって、次のように記述されている（文中の引用文は原文とわずかに異なるので、原書によって修正しておいた）。

「旗による相場通信

『日本小商業史』（横井時冬・1932）によれば『米相場を報ずるには旗を用ゐ、夜中は松明を以て相伝ふ。東、京都大津にいたり西、馬関に至る。其旗松明の暗号は、月によりて其振方を異にせりといふ。今なほこれらの地方に相場山、旗ふり山などの名あるはその遺跡なりとぞ』とあるが、大阪・堂島を起点とした旗ふり通信は東は伊勢・松坂を超えて名古屋近郊まで届いていた事がわかっている。（この項　川崎隆章　協力　山田充郎氏）」

原書の横井時冬『日本小商業史』（白揚社、昭和7年）の「第二十章　大阪の米相場」には、右のとおりの記述が見える。さらに同書の「ことばのいづみ」の中の「大阪の米相場」にも「米相場を報するには旗を用ゐる夜中は松明を以て相伝ふ東は京都大津にいたり西は馬関にいたる其旗松明の暗号は月によりて其振方を異にせりといふ」とある。

横井時冬『日本商業史　全』（金港堂書籍株式会社、明治31年）には、「米相場を報ずるには旗を以て相伝ふ東京都大津に至り西馬関に至る夜中は松明を用ゐしが其旗松明の信号は月によりて其振方を異にすこれ皆戦国の軍法より来る其旗を以て報ずるが故に米商を呼びて又旗商ともいふ」とある。この『日本商業史』はよく読まれたようで、白揚社（大正15年）、改造社（改造文庫、昭和4年。復刻版、昭和52年）からも発行されている。

宮本又次『町人社会の人間群像』（ぺりかん社、昭和57年）の317～321頁には、「遠距離の情報伝達に用いられた旗振り通信」の項があり、近藤文二「大阪の旗振り通信」（『明治大正大阪市史　第五巻　論文篇』昭和8年）の内容をダイジェストして紹介している。

宮本又次『随想大阪繁盛録』（文献出版、平成3年）の54頁には、次のような記述が見られる。

「また遠距離の場合には飛脚を使い、並便の外には幸便というものを用い、旗振り通信を使用した。

米相場は『旗振り』で知らせた。それを望遠鏡で眺めたりし、米相場は手拭で知らせた。相模屋又市市場では手拭のふり方によっていた。江戸時代から明治初期までのビジネスコミュニケーションであった。」

池田末則『地名伝承学論　補訂』（クレス出版、平成16年）は、『地名伝承学』（五月書房、平成14年）の補訂版である。『地名伝承学』の「十三塚」の項に、生駒山系の旗振山に関する記述があることは、本誌63号で紹介したが、補訂版では、筆者の『歴史と神戸』234号の記事から、主な旗振り通信ルートも紹介されている。

【今後の方向性】

天下台山のケースは、今後も、インターネットにおいて、未知の旗振り場が見つかる可能性を示している。地元の伝承だけにとどまっている旗振り地点が私たちの前に姿を現すことを願っている。

今後も、新しい情報が得られたときには、再び報告したいと思います。

（おわり）

（平成17年1月26日成稿）

連載

三角点を訪ねて㉞

京都府・兵庫県の県境の山

鉄鈷山

丹波

礒部純

土曜には大兄の個人山行で、伊吹山西山麓のやぶ山三角点峰へ出かけることにしていたが、雨のため中止。天気が回復するという日曜は都合の悪い人が多く、どこへ行こうかなと思っていた時、物集女の彼から「鉄鈷山へ行きませんか?」との電話。一瞬、どこの山だったかわからなかったが、丹波の山だと思い出し、その誘いにのった。

鉄鈷山は、京都府夜久野町と兵庫県和田山町の県境にある山である。8年程前、三角点病にとりつかれて京都府内の三角点峰を訪ね廻っていた頃、このあたりの山、三岳山・伏見山・能ケ城を始め、居母山・栗尾・富岡山と歩き廻ったが、最後に三谷山から鉄鈷山まで歩くつもりで岸山まで行った時、前方に鋭く尖っている鉄鈷山の姿を見て、あんな急登を登るのかと思うと嫌になり、現世へ下山してしまった。それ以来、丹波の山からは足が遠のき、鉄鈷山へは登ることはないと諦めていた。それが、思いがけず今回登れると思うと、感慨深いものがあった。

京都駅からJRに乗り、西大路駅を過ぎると、すぐ「向日町」とのアナウンスが聞こえる。桂駅に停車した気配がないのに、一瞬、記憶が途切れたのかとわがボケを疑う。7時ちょうどに向日町駅に着くと、駅前にはすでに車が到着していた。この日の山行メンバーは物集女の夫妻と、めずらしくも、個人山行でいっしょに歩く新ハイリーダーでもある長老との4人だった。

京都縦貫道に入り、須知からは9号線をひたすら西へ走る。福知山を過ぎ、日置を通過して、山陰線のガード手前でなんとか府道56号線へ滑り込む。平野で富岡山・居母山への道を右に見て、そのまま56号線を北上。三谷山から鉄鈷山へ続く県境尾根の麓を走り、天谷峠へ着いたのは9時5分だった。峠の西斜面にはドクダミ・ホタルブクロの花が満開。

鉄鈷山の3等三角点（点名西谷）

林道から尾根へ登る2人

夫人の話では、現世あたりに車を置いて、鉄鈷山から岸山へと歩くつもりでいたようだが、尾根の様子を見ながらゆっくり走ったが、取り付けるような尾根が見当たらずに峠まで来てしまったもので、内田嘉弘氏を始め、山友の多くが峠から登っていることからみて、この峠から登るのが妥当なルートなのだろう。この天谷峠は京都府と兵庫県の県境に当たり、峠から県境沿いに鉄鈷山へ登り、下りは別のルートをくだるつもりでいた。

峠から北へ20㍍程行き、赤い布の下がっているやぶの切れ目から斜面へ取り付く。一段上がった所に浅い谷がきていたが、赤い布は右手の尾根に付けられており、県境とは別の尾根を登る。尾根の上は雑木と檜の境界尾根。枝打ちされた檜林の境界を登って行くと、20分で県境尾根へのる。尾根には踏み跡があり、所どころにテープも巻かれていた。尾根の左手は雑木の林だったが、右斜面には檜林が続く。静かな林のなかから、トラツグミやシジュウカラ・ツツドリの鳴き声が聞こえてくる。

ゆるい勾配の尾根を登ると、檜林が消え、尾根の両側は雑木林に変わる。杉や檜の林と違って、心まで明るくなる。急斜面を登り切り、標高点536㍍に着くと尾根は南へ曲がり、右手に再び檜林が現れる。次のピークをカットして斜面を横切って西へ向かう尾根を登ると、イワカガミの群落に出合う。春であればすばらしい花にちがいない。その群落に目を奪われていると、何と林道へ飛び出てしまった。

この林道がどこから来ているのかわからなかったが、つくられて間もない東からの林道のようで、この先も尾根に沿って西へとのびている。これ幸いと林道を歩くが、道が右手に廻り込むと谷源頭で、さらに進むと伐採斜面に変わり、林道は尾根と離れていく。そこで林道歩きを諦め、鹿除けネットを跨いで伐採斜面を登り、県境尾根へと戻った。

鉄鈷山山頂

この先、県境尾根の南斜面は伐採斜面となる。南方が開け、目の下には今西や現世の田んぼが見え、それを挟んで東には富岡山から点名栗尾へ至る尾根が横たわっている。右手には岸山がそびえ、湯舟山のかなたに粟鹿山の鉄塔が霞んでいた。

伐採された尾根には、至る所にウリハダカエデの幼木が点在し、ある所には、まるで草原のように群生していた。右手の林には時折イワガラミの白い花が目につく。尾根と伐採斜面にススキが目立つようになってきた。雨に濡れたススキをかき分けて登るのは歩きにくく、灌木帯との中間を登ることにする。以前、鉄鈷山の状況を山友に聞いたとき、「県境尾根を歩く途中から嫌になるほどの濃いササやぶをかき分けて登らなくてはならない」と言われたことを思い出したが、背の高いササやぶなどどこにもなく、くるぶしまでのササが一面に生えているだけ。むしろ、雨に濡れたススキが手に負えない尾根だった。

急な尾根を登ると、前方に鉄鈷山が姿を見せた。見ると林道がすぐ左下までのびているではないか。それを知っていたら、鞍部の下まで林道を歩いて来たほうがどれほど楽だったことか。ブツブツ言いながら、鉄鈷山手前のピークへ足首程あるササの急斜面を登ると山頂は檜の林。そのピークから北へ100㍍も進むと、ちょっとした盛り上がりに三角点が埋められている。点名「西谷」で、3等三角点。標高は718・2㍍の山である。標石は北向きで、北から西へ10度振っていた。残念なことに、北東の角が欠けていた。この三角点が兵庫県にあるというだけで、これまで来ようとしなかった三角点で、今回初めて訪れた三角点だった。ここからは北方の展望が開け、すぐ目の前に西床尾山が横たわっている。東床尾山は手前の山に隠れて見ることはできない。また、この三角点がある山を鉄鈷山三角点と呼んでいるが、一般に鉄鈷山と呼ぶ山はこの三角点の西にある最高点峰を指す。

標石の写真を撮り終えると、最高点峰の鉄鈷山へ向かう。現れた踏み跡をたどり鞍部へくだると、そこで遅咲きの二輪のササユリが我々を迎えてくれた。急斜面を登り切ると鉄鈷山山頂。遠くから見ると、天を突くように見えていたのに、思っていたより広く平坦で、ササが敷きつめられた疎林の山頂だった。時間は早かったが、ヤマボウシの花が咲いている木の下で昼食とする。じっと坐って食べていると、寒さが込み上げてくるような気温だった。それでも車に乗せてもらった3人は、心置きなくビールで喉を潤し、年代物の梅酒を楽しむ。唯1人、車を運転するのでノンアルコールビールを寂しげに飲んでいる彼の姿は、気の毒を絵に描いたようだった。

鉄鈷山、標高点775㍍の山である。伝説によると、「その昔、但馬粟鹿の大明神がこの山頂で剣を鍛え、その跡が残っているので（金とこ山）と名付けられた」といわれているそうだが、江戸時代には「鉄鉈山」と書かれていたというから、鉄鉱山業に関係した山だったのかもしれない。

12時、下山とする。これから尾根を岸山まで歩くのは時間がかかり過ぎ、京都へ戻る時間が遅くなるので、鉄鈷山南尾根をくだり、尾根が西へ振る地点から今西の集落へくだることにする。一応、くだるルートを2人へ示し、地図読みの勉強を兼ねての下山とした。

ナツエビネを見る3人

山頂からゆるい雑木の尾根をくだると、やがて左檜林右灌木の林に変わるが、やぶもなく、実に歩きやすい尾根だった。尾根をくだり切って、尾根が西へ振る所から、東南へのびる尾根をくだる。尾根の両側は檜林に変わるが手入れはよく、下枝を払われていて暗い感じはしない。広い尾根から細い急尾根へのる地点が難しかったが、そこも無事に細尾根へのることができた。残るはもう一ヶ所。細尾根をくだり切り、標高点544㍍へ登る手前から、東へのびる尾根にのるのが難しそう。先頭を歩くあの人は、小さな尾根のデッパリに惑わされてしまったが、ここは経験がものをいい後から指示、無事に目的の尾根にのる。その後は迷うような箇所はなく、ひたすら杉林の尾根をくだるだけ。植林尾根でもあり、やぶに煩わされることもなく尾根先端から最後の急斜面をくだり、地形図にある道路脇の標高点284㍍へ降り立ったのは13時15分だった。府道をゆっくりと天谷峠へ向けて歩くが、途中で、2人が道脇に群生するドクダミ摘みに夢中になっている間、彼1人が車を取りに峠に向かう。もう1人はザックの中の飲み物の整理をし、彼の到着を待つ。

着替えを済ませ、13時50分出発する。途中、夫人のために富岡山の取付点を確認した後、一路、京へ向け車を走らせる。丹波ワイナリーで、新種ワインを味わう予定だったが、時間が合わずに飲まずじまい。JR向日町駅へ戻ったのは、16時35分だった。

待ち時間なしに乗った電車が発車すると、次は西大路駅。朝に乗ったのも阪急ではなくJRだったので、桂駅が無いのは当然。帰りになってやっとそのことに気がつき、ボケが進んでいなかったことにホッとした。（平成15年6月29日歩く）

▲コースタイム▼

天谷峠（40分）標高点536㍍（1時間10分）点名「西谷」（15分）鉄鈷山（1時間15分）府道56号線

＜地形図＞

2万5千＝直見

エリア別徹底研究

伊能ウォーク INやまと⑤
法隆寺～法輪寺～法起寺～小泉神社～小泉庚申堂

上田倖弘

●実施日　平成12年10月10日(火)　晴れ時々くもり
●参加人数　21名

午前9時30分法隆寺南門に集合。「聖徳本山法隆寺」の石標のある横の松並木を行く。やがて中宮寺に10時5分頃着き、聖徳太子夢殿は外の方から参拝するという説明を聞く。しばらくして幸前神社に立ち寄る。舗道歩きで、10月初旬なのに真夏並みの蒸し暑さでシャツがびっしょり濡れる。

11時に妙見山法輪寺に着く。上田先生から三重塔の説明を聞く。現在残っている一つの井戸の所へ案内してもらい、説明を受ける。私は、横のヘイの丸瓦に〝三井寺〟としるしがあり、法輪寺平瓦、丸瓦は〝法輪寺〟のしるしがあり、「二種があるな」と思った。法輪寺参拝に関して、上田先生が住職に直接会って交渉してもらい、法輪寺本堂に入る。住職の、仏堂などの約20分の説明を皆聞き入る。その後、法輪寺を出て、12時10分法輪寺駐車場で昼食休憩をとる。

13時前法輪寺駐車場を出発し、途中道端の店に立ち寄り、いちじく・柿・枝豆など各人が買って行く。そして、すぐに聖徳宗法起寺に着く。法起寺の三重塔は一番古い建物との説明を聞く。しばらく歩いて幸前に着き、幸前より歩測を開始し、小泉神社まで測る。ウォーキングメジャーの指示値は1497㍍であった。量程車は金山具視が押した。

小泉神社前の階段で上田先生他全員、笹木さんに写真を撮ってもらう。笹木さんには感謝。小泉神社を14時35分出発し、小泉庚申堂へ14時55分に着き解散。

（記録・金山具視）

〈地形図〉2万5千＝信貴山・大和郡山

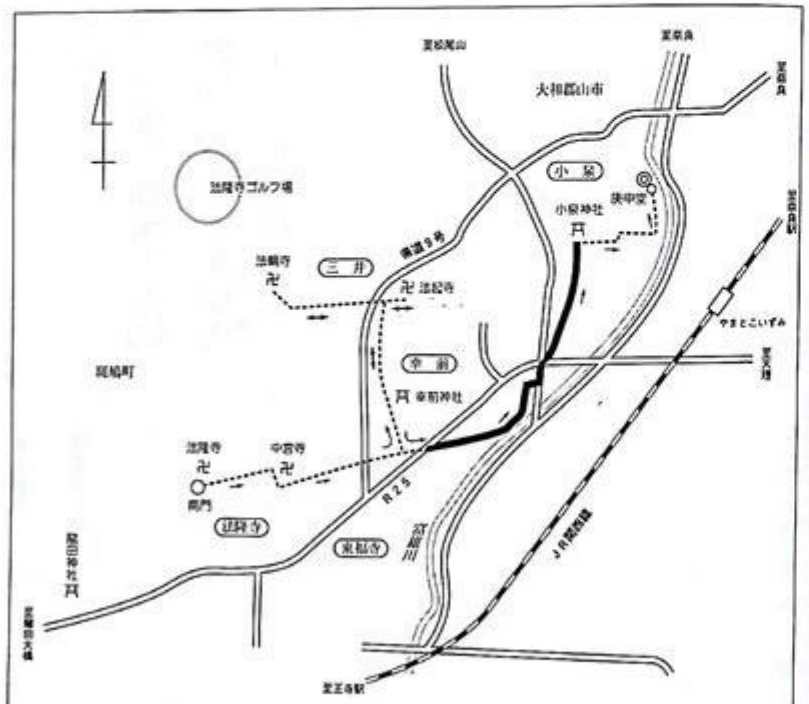
伊能忠敬・測量日記

文化5［1808］年12月2日［＝1809・1・17］

晴天。朝六ツ半［7時］頃、法隆寺出立。同村字新町［並松］、昨日の残印より初［メ］（法隆寺村持の東福寺村あり。人家なし。薬師堂一宇、聖徳太子の駒塚有）。松平甲斐守領幸前［こうぜん］村に至る。此所より妙見山法輪寺へ立寄［ル］、本堂［尊］十一面観音、宗旨真言古義なり。本堂の後に妙見の社あり。額に日本最初北辰妙見尊星王とあり。本堂の額は、法輪寺前中納言綸長江の筆。三重塔は薬師如来、此辺を三井村という。それより岡本法起寺へ寄［ル］、此寺真言律本高観音、三重塔あり。それより又、幸前村より同国添下郡片桐主膳正在所小泉村迄測［ル］、四ツ［10時］頃に着。則［チ］、小泉村止宿小松屋弥兵衛、途中へ松平甲斐守郷役人新谷源右衛門出る。着後片桐主膳正代官原田弥兵衛麻上下にて出る。此夜晴天測量。

〈「伊能忠敬・測量日記」第二巻　佐久間達夫編著より引用〉

史跡・三井



法隆寺～法輪寺～法起寺～小泉庚申堂　付近略図
〈本日の歩行距離　約9キロ〉
（歩測）1497m

エリア別徹底研究

伊能ウォーク ーNやまと⑥

小泉庚申堂～小泉城趾～小南～新木～西岡～東岡～近鉄郡山駅～外川～矢田～矢田寺

上田倖弘

伊能忠敬・測量日記

文化5［1808］年12月3日［＝1809・1・18］

朝曇天。六ツ半［7時］頃、小泉村出立。同所より測［リ］初［ム］、（片桐主膳正領、神屋前浦野勇治鉛にて出）、小南村、それより（松平甲斐守領）、新木村を歴［へ］て、同郡郡山（松平甲斐守居城）、西岡町、東岡町、柳町、五町目、四町目、三町目迄測［ル］、印杭を残し（即、矢田地蔵追分なり）。それより新木村の内、新矢田口（小泉領）、田中村（郡山領）、外川村を過［ギ］、矢田村矢田地蔵堂前迄測る。それより郡山へ帰る。郡山郷役人新谷源右衛門、山本彦右衛門、同地方役森本八木右衛門出る。矢田山金剛山寺は、和州添下郡矢田村なり。郡山より寄進高十五石八斗七升なり。天武天皇開基白鳳四［675］乙亥年五月智通僧正開燈とかや。縁記宝物等は別記にあり。郡山止宿、柳町・八木屋九兵衛（姓日見嶋、和州八木綿問屋なり）。着後与力衣川常左衛門麻上下にて出る。此夜晴天測量。

〈「伊能忠敬・測量日記」第二巻　佐久間達夫編著より引用〉

●実施日　平成12年11月14日㈫　くもりのち晴れ

●参加人数　21名

小泉庚申堂より小泉城趾に立ち寄り、朝の挨拶。そこにある「片桐城趾」の石碑の説明を受け、9時30分出発。富雄川を渡り池之内町へ。このあたりは「いちじく」の産地とのこと、ネットのかかった「いちじく畑」が続く。

JR関西本線の踏み切りを渡りすぐに北に折れ、再び関西本線の踏み切りを渡って小南町へ。金魚の養殖池が続き、側溝には池から漏れたらしい金魚が泳いでいた。その中にホテイアオイを栽培している池もあり、桃紫色の花が咲いていた。この花を見たのは初めてだ。

新木町から東にカーブした所に「右松尾山　左　たつた法隆寺」の道標があり、10時45分、住宅街の西岡町に入る。「らんちゅう」の看板が見られ、金魚の町という感じがした。

近鉄橿原線を横切り東岡町に進む。郡山八幡神社で10分休憩し、10時57分出発、北上する。西に折れ、近鉄郡山駅前の踏み切りを渡り西に進む。城南町のカトリック大和郡山教会に立ち寄る。そこに「切支丹流配碑」があり、説明を受ける。教会より栞をいただく。切支丹の方々がご苦労されたことを知り、信仰の強さに感銘した。

11時20分街並を西に進む、排気ガスを吹き付ける車の通る道を富雄川へ。伊能忠敬の頃は、もっときれいな空気であったろうと思いながら外川町に入る。工業高等専門学校を通過、その先を北に折れ、12時12分大和民俗公園に到着し、昼食。曇天であったが、すっかり晴れて暖かくなる。

小泉城趾

13時出発、もと来た道を戻り交差した地点より矢田寺門前の階段まで1・5キロあまりを歩測する。前半はアスファルトのなだらかな道であったが、後半は登り坂になる。

二週間前NHKテレビ「その時歴史が動いた」で伊能忠敬が放映された。その際彼は歩測の平均値を出したとのことで、我々も平均値を出すことにした。

皆さんコツを得られたようで、すばらしい高成績であった。金山さんご夫婦揃って名人。14時15分笹木さんによる写真撮影を済ませ、矢田寺参拝。あじさいの中に「右　むらみち　左　やた山」道標を読みながらひと休み。

14時35分バス停に向け歩く。籾殻を焼く煙と香りがとても秋らしく感じられ、穏やかな一日でした。15時20分「横山口」バス停にて解散。

伊能忠敬は自分の本来の役目を済ませ、50歳になってから、やりたかった測量の勉強を始め、18年間日本中を歩測して廻り、先進国に見せても恥ずかしくない地図を完成した。その熱意と努力に感銘した。

（記録・酒井　祇）

小泉庚申堂～新木～近鉄郡山駅～外川町～矢田寺　付近略図

〈本日の歩行距離　約11キロ〉

（歩測）1545m

＜地形図＞2万5千＝大和郡山・信貴山

エリア別徹底研究　伊能ウォーク　Nやまと⑦

近鉄郡山駅～薬師寺～唐招提寺～秋篠寺～尼ヶ辻駅

上田倖弘

●実施日　平成12年12月12日(火)　晴れたりくもったり、寒い

●参加人数　20名

近鉄大和郡山駅前9時00分集合のところ、先生の到着が少し遅れ、9時20分出発となった。柳町に入り、柳町1丁目の八木屋(八)を見つけ、伊能忠敬が止宿した家だろうと、店内へ入って聞いてみる。主人の話によると「八木屋九兵衛は当家の先祖にはいないし、当家は甲斐の国から移ってきた柳沢藩の御用商人で具足などを扱っていたので違う」とのこと。郡山には八木屋は七軒あったとかで、このうち綿屋もあったので、その可能性があるとのことだった。先月八幡神社の神主さんが、止宿先だろうとして、この家を紹介してくれたので立ち寄ったのだ。

堺町で右折し、本町を420㍍東の所に道標があったが、道標の方角が90度違っていることが話題になる。ここを左折して観音寺町に入り、奈良口町に入り、秋篠川に突き当たった所で、先生から大神宮灯篭の説明を聞く。川を渡って明治天皇陸軍大演習駐蹕の碑でまた説明を受けた。秋篠川はここで東へ人工的に方向転換されたとのことである。

伊能忠敬・測量日記

文化5［1808］年12月4日［＝1809・1・19］

朝晴天、霧深し。六ツ半［7時頃］、郡山出立。柳三丁目より初、二町目、一町目、堺町、南町、北町、本町、鍛冶町、観音寺町（郡山領）、九条村、七条村、六条村（西京寺領）、砂村を歴て西京薬師寺迄測［ル］、法相宗・真言宗兼学御朱印三百石なり。諸堂宝物別記にあり。光明皇后仏足石に万葉歌の真筆瑪瑙石の仏壇は、世人の知る所なり。それより郡山領五条村を過て、唐招提寺迄測［ル］、律宗惣本寺御朱印三百石也。諸堂宝物は別記にあり。興福院村（石川若狭守知行）、宝来村（安康天皇御陵あり）、両村境に印杭を残し、郡山領斎音寺村（用水池の中に、垂仁天皇の御陵あり）を過、郡山領菅原村を測［ル］（右村に、喜光寺あり。寺領三十石、元明帝、元正帝、聖武帝、三帝の勅願所。霊亀元［715］年の建立、開山行基菩薩なり）。鎮守天満宮なり。菅丞相出生の地という。それより（石川若狭守知行）青柳［？野か］村（郡山領　西大寺領）、紫村を経て、秋篠山西大寺迄測［ル］（真言律惣本寺）、御朱印三百石なり。諸堂宝物は別に記す。それより秋篠山に至る。秋篠寺真言院は、真言宗、法相宗兼学　御朱印百石（和州広瀬郡大垣内村の内）、人皇四十九代光仁帝、同五十代桓武帝勅願所　開祖興福寺の六祖、善殊僧正なり。宝物は別に記す。それより無測にて超昇寺村字御霊の神功皇后、成務天皇（西畑村）御陵を拝し、横領村へ（字甘ヶ辻、此所入会。惣名　甘ヶ辻という）、七ツ後［16時過］に着。止宿横領村茶屋甚助、不残［のこらず］同宿。此夜星芒天。薬師寺使僧、北の坊止宿へ来る。此日郡山地方役植村順平・杉山新蔵出る。此夜雨。

（『伊能忠敬・測量日記』第二巻　佐久間達夫編著より引用）

13時20分出発、西大寺南大門より入り、西大寺についての先生の説明を聞く。北門から出て、14時05分秋篠寺着、先生の説明あり。競馬場跡の北東面を廻り、14時43分神功皇后陵着。14時55分成務天皇陵。ここを出た地点から歩測開始、奈良簡易保険保養センターまで歩測する。

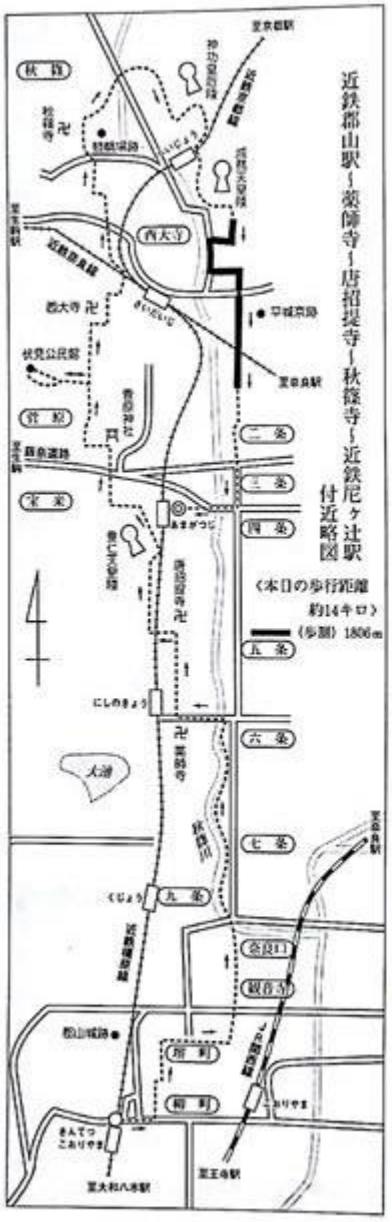
平均値は今回は誤差が大きかった。やや下りを含んだ平坦な道だったので、皆さん思っていたよりも歩幅がのびたようである。

（記録・笹木孝章）

＜地形図＞2万5千＝大和郡山・奈良

秋篠川より薬師寺の両塔を望む

近鉄郡山駅～薬師寺～唐招提寺～秋篠寺～近鉄尼ヶ辻駅付近略図



文学歴史探訪ハイク ㊷

高野山、徳川家霊台から苅萱堂へ

松永恵一

空海（弘法大師）

宝亀五年（774）6月15日、讃岐国屏風浦にて佐伯直田公善通と玉依御前の間に生まれ、真魚と名付けられる。屏風浦は今の香川県善通寺市。『御遺告』は「わが父は佐伯氏にして、讃岐国多度郡の人なり。むかし蝦毛を征し、班土を被れり」と記す。父は東国の毛人の征伐に功をなし、讃岐の土地をいただいた豪族。母は阿刀氏。叔父の阿刀大足は桓武天皇の皇子伊予親王の講師だった。

真魚は讃岐国の国学に学ぶ。聡明な少年は叔父阿刀大足に連れられ都へ上がる。真魚15歳であった。当時、桓武天皇は都を平城京から長岡京へ移そうとしていた。18歳の時、長岡京の大学に入り儒教や歴史等を学ぶ。しかし、そこで学ぶものは高級官吏を育成するもので、真魚の志す衆生済度には答えてくれなかった。

映画「空海」の最初の部分に、祈っている空海に明星が飛び込む場面がある。お大師さまは、四国を中心に山野海浜に入って修行された。この修行の霊跡に開創されたのが四国八十八ヶ所の霊場。仏に出会われ『三教指帰』を著された。儒教、道教、仏教の三教の優劣を論じ、仏教がすぐれていることを説いた序文には四国での修行のありさまを次のように記されている。

私は十五歳になった年、母方の伯父である阿刀大豆、禄は二千石で新王の侍講であった人につき従って、学問にはげみ研鑽を重ねた。十八歳で大学に遊学し、雪の明かりや蛍の光で書物を読んだ古人の努力を思い、まだ怠っている自分を鞭打ち、首に縄を掛け、股に錐を刺して眠りを防いだ人ほどに、勤めない自分をはげました。

ここにひとりの修行僧がいて、私に「虚空蔵求聞持の法」を教えてくれた。この法を説いた経典によれば、「もし人が、この経典が教えるとおりに虚空蔵菩

徳川家霊台

薩の真言を百万回となえたならば、ただちにすべての経典の文句を暗記し、意味内容を理解することが出来る」という。そこでこの仏の真実の言葉を信じて、たゆまない修行精進の成果を期し、阿波の国の大滝嶽によじ登り、土佐の国の室戸崎で一心不乱に修行した。谷はこだまを返し（修行の結果があらわれ）、（虚空蔵菩薩の化身である）明星が姿を現わした。

お大師さまは、無空、教海、如空と名を変えていたが、この時「空海」と名乗るようになったという。大安寺の勤操大徳に教えを受け真理の追究に励み、久米寺にて大日経七巻と出会う。極めようとするが難解、唐に留学することを決意した。延暦二十三年（804）、留学僧として四隻の船団で肥前国田浦を出港。唐の都長安（西安市）の青龍寺で、真言密教第七祖恵果和尚より教えを授かり、真言密教の正当な後継者となられた。

弘仁七年（816）には高野山に金剛峯寺を開き、弘仁十四年（823）には嵯峨天皇より東寺を与えられ真言密教を広められた。お大師さまは高野山奥の院にて禅定の世界に生きておられ、世界の平和と人々の幸福を願っておられる。

徳川家霊台

高野山の勢力が強大になるのを恐れた江戸幕府は、行人方、学呂方、聖方に三分する分断政策をとった。高野三方はそれぞれ東照宮を造営した。徳川家霊台、普賢院四脚門などはその遺構である。

聖方総触頭であった大徳院の裏山に徳川家霊台が残る。家康公と秀忠公の御霊をまつるため、三代将軍家光公によって創建された。十数年の歳月と巨額の費用をかけて寛永二十年（1643）落成。

日光東照宮を思わせる豪奢な造りの二棟が、透塀で区切られて並び建つ。右が家康御霊、左が秀忠御霊。ともに方三間宝形造銅瓦葺き、正面に唐破風造の向拝がつく。縁と勾欄を周囲にめぐらした堂は、建築及び様々な工芸技術の粋を結集して細部にまで緻密な装飾を施している。内部は公開されていないが、壁面、天井、厨子にいたるまで金銀蒔絵・極彩色飾金具などで華やかに飾られている。

文禄三年（1594）徳川家康によって開かれた大徳院は、お大師さまの大と徳川家の徳を採って名付けられたが、明治維新により蓮華院に復し、跡地には行人方の南院が移ってきた。

高野みやげ

のんびり歩いて数珠屋や仏具店、名産を揃えた酒店をのぞいてみる。高野山の銘菓「かるかや餅」「槇の雫」の店が軒を並べる。「みろく石」は奥の院の御廟にある弥勒石をかたどった粒餡入りの饅頭。珍しい「仏手柑」。

薬屋には胃腸薬「大師陀羅尼錠」「陀羅尼助丸」が並ぶ。自然の生薬黄柏・竜胆・青木からエキスを抽出しそのまま固めるという、お大師さま当時の製法が守られている。健康食品の「延命草」は、起死回生の野草としてヒキオコシという別名がついている。

胡麻豆腐の店に立ち寄り出来立てをいただく。ごまの香りが鼻をくすぐり、濃厚なごまの風味が口いっぱいに広がる。滑らかな舌触り。わさび醤油はもちろん、和三盆で味わうのもいい。

生麩のお店は、麩饅頭の笹巻あんぶが有名。ぶにゅぶにゅとして美味しい。

爪剥酒を求めた。お大師さまの御母公は大師の身を案じて高野山麓の慈尊院に来住されていたが、日々大師の身を気遣い、秋になると籾を一粒一粒御手ずから爪剥かれ、酒を醸され贈られたという。

普賢院四脚門

コース概観

高野山は、西の壇上伽藍、東の奥の院を中心として、一一七の寺院が密集する。そのうち50余りが宿坊を営んでいるという。僧俗合わせて五千人もの人々が住む山上の宗教都市である。徳川家霊台から町の中心千手院橋に出て、商店が軒を連ねる東側に行く。苔蒸道心と石童丸の絵伝で名高い苔蒸堂は、そんな中にある。のんびりとめぐり歩いてみた。

南海高野山駅の駅前から南海りんかんバスに乗り浪切不動前下車。南院が建つ。本尊浪切不動明王（重文）は、お大師さまが唐から帰国の際、師の恵果和尚から授かった霊木に一刀三礼されて刻まれたと伝える。不動明王が、逆巻く荒波の中で難渋していると大火炎を発し、右手に持つ利剣で波を切り裂いて船を安全に導いたとことから、浪切不動と呼ばれ信仰を集める。将門の乱、元寇の役など国難のたびに霊威を示された。秘仏で御開帳は6月28日だけ。

ありがたや生死苦海の浪風を
切りはらいたまふ智慧の御剣

南院の左手の小道を登ると徳川家霊台。徳川二代の霊廟は、江戸時代初期の代表的霊廟建築として知られる。

福智院、竜泉院と宿坊寺院が続く。谷崎潤一郎は、千代と佐藤春夫との結婚を承諾した後、文藝春秋社に勤める25歳の吉川丁末子と再婚した。「ここで正直に云ってしまうが、僕は丁末子との結婚に依って、始めてほんたうの夫婦生活というものを知った。精神的にも合致した夫婦と言うものの有り難味が、四十六に歳の今日になって漸く僕に分かった訳だ。」

すぐに高野山に登り、竜泉院に滞在した。弟の谷崎終平は、「高野山の泰雲院という坊を借りて避暑をしていた兄夫婦の処に一夏行きました。昭和六年のことです。親王院という厳格に精進しているお寺で普茶料理を御馳走になりましたが、こんな美味な精進料理を味わったことは後にも先にもありません。」と記している。

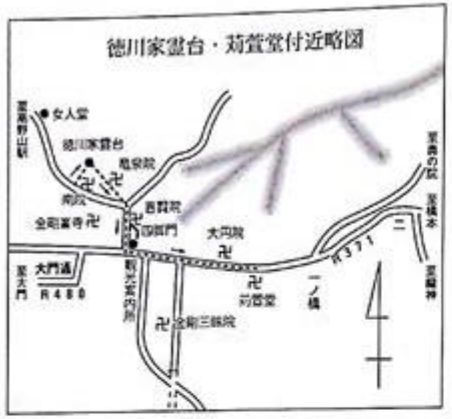
滞在中に盲目のあんま師が織田信長の妹お市の方の生き様をとおして、戦国の世の人々の運命を語りかける『盲目物語』を創作している。

和洋折衷の高野山らしい雰囲気のある警察署を右折して普賢院へ。尼子の遺臣山中鹿之助幸盛が潜居したと伝える。明治二一年（1888）、山の3分の2を焼きつくした五の宝谷大火により本堂を焼失する。金剛峯寺裏山に行人方によって造営された高野山東照宮の拝殿が本堂として移築された。桧皮葺、丹塗の華やかな四脚門（重文）は東照宮の裏門。蟇股等の彫刻には極彩色を施している。

松尾芭蕉が主君良忠の遺髪を納め冥福を祈った報恩院は、明治維新を迎え普賢院と合併された。ホトトギス同人白象として句界で活躍された住職森寛紹猊下

（第四百六世金剛峯寺座主）は、戦後間もなく西行法師が好んでこもったという伽藍の三昧堂を模した芭蕉堂を建立された。多くの俳人が訪れ、ホトトギスゆかりの人たちの句碑が建つ。

琴瑟に仏法僧も相和して　虚子
幾たびもしぐれし月の庭に立つ　白象
朴咲くと聞けば高野に帰りたく　森郁子（白象夫人）
風なきに斜の落葉いぶかれば　晩翠
梢はなる小鳥一むれ



自然文化遺産の庭文学館では高浜虚子を始め様々な文人の残した墨跡が展示されている。

炎天の空美しや高野山　虚子
残雪の御山に吹かず涅槃西風　年尾

高浜年尾は虚子の長男。正岡子規が命名した。

朝寒や我も貧者の一灯を　池内たけし
一山の清浄即美秋の雨　富安風生
仰ぎたるところにありし返り花　清崎敏郎

四脚門を出ると左に高野山観光案内所、右に数珠屋四郎兵衛。創業が元禄年間まで遡る高野山の老舗は、唐破風の屋根を持つ寺院のような建物。奥の院入口の一の橋までの間に商店がひしめいている。左手の大円院には、平家物語で知られる滝口入道と横笛の悲しい恋物語が伝わる。

右側に苔蒸道心と石童丸の物語で名高い苔蒸堂が見える。無常を悟って出家した苔蒸道心とその子石童丸の哀話は、全国を行脚しながら高野山信仰を広めた高野聖たちが伝えた。説経節『かるかや』や謡曲『苔蒸』は、人々の涙を誘った。

朱色の鮮やかな苔蒸堂には父子の物語が額にして掲げられ、絵解きが添えられている。

石童丸和讃

月に村雲花に風　散て儚き世の習ひ
さき出でにける山櫻　眺めて楽しむ
春の空　酌む杯にちらちらと　散りこむ花の一ひらに　加藤左衛門繁氏
は　娑婆の無常を悟りけり
もの悲しい調べとともに父子の悲話がよみがえる。

≪コースタイム≫

南海高野山駅（バス10分）浪切不動前・南院（1分）徳川家霊台（10分）普賢院・四脚門（13分）苔蒸堂（バス15分）高野山駅

≪地形図≫2万5千＝高野山

≪費用≫

高野山駅～浪切不動前	240円
苔蒸堂前～高野山駅	320円
徳川家霊台拝観料	200円

（問い合わせ先）

南院	0736（56）2534
徳川家霊台	0736（56）3728
普賢院	0736（56）2131
苔蒸堂	0736（56）2931

〈山のレポート〉

山の地名を歩く㉑

「靄山」

西尾　寿一

靄（以下モヤ）は気象関係の扱いでは視程1キロ以上が確保できる場合で用い、それ以下は霧（以下キリ）とされている。ただし、キリは語源辞典で出自不詳とされ、上代では霞（以下カスミ）と同じ扱いである。またモヤもカスミとの区別がなかったことから、この三者の明確な区分は事実上不可能といえる。

平安時代以後、春はカスミ、秋はモヤまたはキリとされるようになったようだ。

現代の気象用語にカスミは扱われないが、キリに含めているのかもしれない。

神話世界ではキリは「息吹」と同じで生命の根源とみなされていた。

「岩波古語辞典」ではモヤは「煙などたちこめてはっきりしないさま」とあり、助詞の部では不確定の意、モと質問の意のヤとの複合であると述べる。次にカスミでは「カスカと同根」とあるから不確実。よく物の形が見えない状態が水の凝固状態によって生じることで両者の共通性が確認できる。ただし、モヤが煙など水蒸気の変化形以外に植物の茂る様子にも使われる場合があることで、その性格を類推するよりほかない。モヤがカスミ・キリと共に水分の変質によって生じる不確実な状態の内容を説明したものではなく、あくまで視覚上の形態及び性格を表現したものであった。そのことはモヤ・カスミ・キリが他分野に及び、民俗社会・文学芸術などへ際限なく浸透していく理由ともなった。

例えば、次のようなものがある。

ア　もやい＝協同労働と分配（以下述べる）

イ　催合＝商業形態

ウ　舫＝並んだ二つの舟

エ　大和絵の技法＝国宝「聖徳太子絵伝」など

オ　修験者の勢力範囲＝熊野・羽黒山など

以上の例は一部にすぎないが、その本質はやはり、モヤ・カスミ・キリなどの特異な性格を色濃く反映している。

そんな曖昧模糊とした名称を頂く山が東北北部にたくさんあるのはなぜか。これが疑問の始まりであった。名称はモヤのほかに雲谷・母屋・母谷・茂谷などの異字があるもののいずれもモヤと読み、漢字は後世の当て字であることは明白である。従って漢字の字面より先に言葉があった。

モヤ山（岳）の代表的なものは、岩手県軽米町の567㍍の山と青森県北津軽の152㍍のいずれもコニーデ型の美しい神奈備である。一方、茂屋方山（秋田）・茂谷山（秋田）・雲谷峠（青森）などのほかに、母谷・母爺といったものが無数にある。いずれも100㍍から500㍍程度の低山で姿の美しい独立峰である。

江戸時代の民俗学者菅江真澄は「すみかの山」のなかで先出「雲谷峠」につき、「高からず低からず、独立する山をモヤといい、モウヤなどという。モヤは靄をさしていう方言なり。この山の名、出羽・陸奥にいと多く……」とあり、モヤ山に興味を示しているが、実態にまで踏み込んではいない。

モヤ山の多くは登拝道があり、現在も信仰は続いているが、他の民間信仰と合

体したものもある。開発の進んだ所では廃されたモヤ山がいつくかあるようだ。

『津軽の民間信仰』小館衷三著では「東北地方では独立したコニーデ型の山をモリ山・モヤ山と呼んでいる。（中略）このモリは祖霊のこもる神聖な丘の意味で、村ごとに近くのきわだった丘に祖霊がおさまると信じてきた。（中略）身近なモリ山に対する信仰（血縁的）が津軽という地縁によって、中心的モリ山である岩木山にまとめられたといえよう。そのためか各地に模擬岩木山に対する行事か存在する。」という。

この信仰形態は東北南部の「葉山」（他に羽山・端山・麓山・早麻などの異字もある）とほとんど同一の内容である。

この二系統の祖霊信仰は西日本では「霊山」がそれに当たるとみているが、祖霊信仰自体形を変えて仏教各派に吸収された感があるのでこの問題に深入りはさけ、山名由来に集中したい。

先にモヤの異字を上げたが、内容は同一なので多少意味の異るモリ山・マル山（丸）をみると、これもほとんど同型の山になる。ただ、東北と四国にたくさんみられる「○○森」のような山がモヤ山と同じ性格を有する山が多いが、全てが同一とはいえない。

福島県に多い葉山は「端山」で、祖霊が里近くの山に籠り尾根を通じて大岳に往き来するというもので、農耕における「田の神」の形式を残しているが、モヤ山のほうはどうか。

モヤ・モリのうち母屋は建物の中心部であるが、現実の山がそれに当たるとは考えられず当て字と理解すべきだ。続いて、モヤを「国史大辞典」（吉川弘文館）で引くと「もやい」の項で注目すべき記述がある。「モヤイ仕事・モヤイ田・モヤイ山・モヤイ漁など協同労働と平等分配を特徴とする慣行、モエ・モヨイ・モヤ（中略）・ナカマ・ウチワ・ヨリエエ・ノリなどもある。協同労働とその果実の平等的分配を行う点でユイ（結）やテツダイ・スケ・カセイなどの労働慣行とは区別される。

舫（モヤイ）も同慣行のうちであったが途中で分化し独立したものとなる。漁撈と狩猟に多く農耕に少ない」とある。つまり先に述べた地縁・血縁的集団労働のうち農耕が葉山であり、漁撈・狩猟などがモヤに当たるのではないか、さらに対価をともなわない「助け合い」的労働を「結」とすれば、初めから平等分配を意図した集団的労働は東南アジアの山岳地帯に多くみられる原始共産社会と一脈通じるものを感じる。血縁によってそれが可能となり地縁によって集約される構図は、まさにモヤ山の存在によってより一層強い絆で結ばれることになった。モヤとは単なる山名を超えた自然と人間との壮大なドラマを演出していた可能性がある。

モヤとは当地方の社会慣習の生態を反映したものであり、モヤ山はその象徴として機能していると考える。従って、モヤはモリと共に祖霊の籠る山であると共にモヤという血縁・地縁によって結ばれた強力な集団でありたいと願う心情を現している。

ではモヤとはどこからきた言葉だろうか。これは推定するよりほかないが、次に上げるうちのどれかだと考えられる。

A　母屋＝建物の中心部分

B　喪屋＝葬儀のための家

C　もやい＝先に記述

D　アイヌ語＝モイマ・モイワなど

E　霞（かすみ）＝熊野・羽黒など修

験の制度

小生の乏しい思考力を総動員してひねりだしたものであるが、Aは除外できるとして、Bは可能性が一部残るのは、死者の霊はいったんモヤ山に籠ると信じられているからである。

Eは可能性として少ないが興味深い制度なので捨て切れずに残したが、全く無関係とはいえず、何らかの遠因があるのではないかと思っている。

問題はDである。というのは、北海道に「モイマ山」や「モイワ山」がたくさんあり、アイヌ語でモヤ山と同じ意味をもっているばかりか、山の形状も同一であるからだ。小生はモイマ・モイワの両山（いずれも低山）に10山程度登ってみたが、その周辺の中心的立地にあり、山頂に少々の岩場があっていかにも霊山の雰囲気をもっていた。もしアイヌに東北地方でみたモヤの慣習があったのなら両者の共通性が指摘できるが、現在のところその関係を記録したものがない。ただし、霊山の扱いをしたことは確かである。

イ　モヤはアイヌ語の借用、または変化形

ロ　モヤとモイマ・モイワは同一

ハ　モヤはアイヌの慣習を受け継いだ習合

ニ　偶然に同類の慣習であるが無関係となるが小生はイとハが怪しいとみている。東北地方にアイヌ語がたくさん残っており、和人が移住したとき一部習俗を受け継ぎ、自らの慣行のうえに加えた可能性をだれも否定することができない。明らかにモヤとモイマとの共通性は高いが、ロのように同一とするには若干の抵抗がある。

純日本語とする意見は、気象的現象の低くたれこめた細霧・煙霧などが山を覆う状況を先祖の霊の籠る意味として感得したと考えられようが、アイヌ語やその他と全く無関係とするには無理がある。

「富士山はなぜフジサンか」（谷有二）には「霊のこもる禁断の忌（モヤ）山であり、モ（小）・イワ（聖なる山）のつまったモヤのように考えられる。その最も崇高な場所が、イワ・キ山に違いない・そしてこのあたりで、南から北進してきた祖霊を祭る禁断の森（モリ）の山信仰に合体したと思える」と要領よく解説している。小生が長く説明してきた問題を俳句のように単純化した感があるが、ややそれがすぎて残された部分も相当あるようだ。

1　モヤを忌であるとし、モヤイ等民俗慣習に言及されていない

2　北進した祖霊信仰をもつ集団の性格

3　北海道のモイマ・モイワの山との共通性と、アイヌ語との整合性について

4　合体した在地民族はアイヌか和人か

5　葉山などの祖霊信仰との関係

などであるが、小生などが考える山名由来の多角的深層部からみる立場とは違い、極めて範囲をせまくみる立場からすれば、必要のない整理されてよい問題かもしれない。

九州の鹿児島県南部に濃密に分布している民俗信仰に「モイドン（森殿）」がある。神社以前の祭りの度に神を迎えていた時代の信仰だから、おそらく縄文人（熊襲・隼人か）のものでモイドンはモイヤマ・モリヤマから来たものと考えられている。その信仰形態は『民俗神の系譜』（小野重朗）によると「稲作をして平地に定着した人々がもちはじめた祖霊信仰が

モイドンであった」といい、モリの言葉は「モリは盛るという動詞と関係があり（中略）モリは遺骸の上に土を盛り、或いは供養のために土を盛り、その上に大きくなる木を植えるという民俗とつながっていて、土を盛ることから中心が木の方に移って、モリという語が形成されてきたのではあるまいか」と述べている。

この古い信仰は、大隅に八幡神や韓国宇豆峯社などが九州北部から進出する前のものだから、おそらく東北地方のモヤ山信仰や葉山などと共通の祖霊信仰だと推定される。

葉山（端山）などとの共通性は極めて濃厚である。例えば、墓地と自家門の中間地点にモイドンがあり、そこで先祖や死者の霊を祭り普段は近づかない。それは死霊に対する恐怖心と先祖の霊を敬慕する心情が交錯する場所でもある。

新しい死霊は祟るので一定の期間を経て次第に木や森や山を伝って先祖の居る場所へ移動してゆくのである。

「盛る」が「森」となるとの指摘を柳田国男は否定するが、おそらく現実の山や森は盛る状態と視覚的同一性がある。

以上のように土着の民俗信仰が日本の北と南に分かれて分布する状況は、この国の王権が北九州から近畿へ進出して分断した結果とも思われる。

なお、東北の民俗信仰の研究者岩崎敏夫氏によると、「葉山・モリ山・モヤ山は同類であり、そのうち、モリ山は神道系で、葉山は仏教系である」と指摘されているので古い順でいえば、モヤ・モリが先で、ハヤマは仏教化された結果ではないかと推測される。

なお、若狭の雲谷山は辞典でも現地もクモタニヤマである。しかし、若狭・越前地方に「雲」の地名が多いのはなぜか疑問が残るが、それ以上のことはいえない。

以上でモヤ・カスミ・キリなどの山名の状況証拠を集めたことになるが、これで納得されるか。さらに決定打を必要とするかは、モヤ山への興味次第ということになる。

〈山のレポート〉

山とお金の話

生駒　登峰

何かとお金の話は忌避されることが多いが、山に登るにもお金が必要である。人間の生活にお金は切り離せないが、お金が無ければ山どころの話でなくなる。

山に登るには靴・雨具・ザックの三点は最低限必要と言われるが、本来その先にお金が無ければ動きようがない。

さて、ここに日本百名山を目指す登山者が行動を起こしたとする。個人では行動しにくいし、ツアーに参加したほうがコースの心配もなく安全でもあり、交通不便な所は個人で行くより安く行けるかも知れない。

新ハイ誌にもいくつかツアー広告が載っているが、槍ヶ岳登山は2泊3日で4万4千円、白馬山は2泊3日で4万4千8百円、鳥海山・月山は6万8千円などとなっている。これは旅行社に支払う額で、個人費用は別に必要になる。

そこで、これから日本百名山を目指す

なら、いったいどのくらいのお金が必要か計算してみた。価格は手元の旅行社のパンフレットを参考にし、記述の無い山は付近の山行価格から推定してみた。

ツアーは1～2山単位で、2～3泊から長期のものは5日くらいまである。

日本百名山を地方ごとに分類してみると、北海道9山・東北13山・上信越67山・近畿3山・四国2山・九州6山となる。百名山完登のツアーも企画されているが、長期に渡ることもあり、どうしても著名な山に集中している。

各地方ごとのツアー費用の平均を推定して、総計を概算してみよう。

先ず北海道から見てみると、関西からは交通費が高くつくので、2～3山セットになっているものが多い。また観光が含まれたりしていて高価である。利尻・礼文4日で13万4千円。大雪山縦走でやはり13万8千円。羅臼・斜里・阿寒で14万2千円。もちろんこれは旅行社に支払う実費だけである。大体1山5万円くらいと見て、北海道では9山あるので、45万円ということになる。

東北地方を見てみると。岩木山・八甲山・白神岳12万8千円、岩手山・早池峰・秋田駒ヶ岳9万8千円、吾妻山・磐梯山・安達太良山7万8千円、朝日連峰縦走8万2千円などとなっている。これだと1山3万5千円くらいか、13山として45万5千円。

上信越は、槍ヶ岳で4万4千円、白馬山4万4千8百円、木曽駒ヶ岳・空木岳3万9千円、光・聖岳7万8千円、赤石岳・荒川岳8万4千円などがある。数が多いので少し安めで1山2万5千円とすると、67山で167万5千円となる。

近畿・四国・中国は数も少ないが、2万くらいとして、5山で10万円。

九州を見ると、由布岳・久住山6万5千円、祖母・阿蘇10万4千円、屋久島13万4千円などである。1山3万くらいとして、6山で18万円

これで北海道から九州まで総計してみると、286万円となる。

勿論付随する費用が別途必要で、旅行社やツアーの内容によっても増減があるが、ごく大ざっぱな計算で1山3万円。最低でも300万円は必要ということになる。

最近は働いている人でも参加できるように休日を利用したり、少しでも安く行くために往復夜行の船利用で、北海道大雪山が3万円、岩手山3万3千円、開聞岳2万3千円。阿蘇山1万2千円などのツアーも見かけるが、少しハードで中高年向きではないだろう。

いずれにしても、日本百名山を目指す人は、少なくとも300万円くらいの準備が必要である。

私の登った時代はまだブームになる前で、百名山のツアーなどなかったので、ザックかついで周遊券の利用。その後はマイカーにテント積んでの山行で、費用の記録も断片的で不明だが、ほとんど旅館に泊まることもなく、もちろんガイド料はなし。百名山以外の山も登っているので、百名山にどのくらい費用がかかったか全く不明である。

私の本命は日本全国の1等三角点登頂で、972点もあと10数点を残すのみとなった。海外も台湾・韓国・中国・ボルネオ・ネパール・オーストラリア・ニュージランド・スイスなどに出かけた。登った山の数は2500山に達する。

さて私はいったい山に幾ら使ったのか、自分では定かでないが、妻には「立派な家が一軒建ってます」と言われている。

九寨溝・黄龍・四姑娘山ハイキング

新商品

Aコース
「世界遺産　九寨溝・黄龍
ハイキング7日間」
◇◆ コースポイント ◆◇
＊九寨溝に3連泊して世界遺産をたっぷり満喫
＊棚田状につらなるいくつもの池を見ながらハイキング
＊三国志の舞台、成都観光

Bコース
「九寨溝・黄龍と四姑娘山
フラワーハイキング 10日間」
◇◆ コースポイント ◆◇
＊2つの世界遺産、九寨溝と黄龍でハイキング
＊三国志の舞台、成都観光
＊日隆に3連泊し、四姑娘山風景区をハイキング

九寨溝に3連泊して世界遺産をたっぷり満喫のAコース、日隆に3連泊して四姑娘山をハイキングするBコースの2コースを設定しました。

○●無料説明会の日程●○
第1回：5月12日（木）神戸：郵船航空福本ビル1Fにて
15：00～15：50
第2回：5月26日（木）大阪：フーバー本町ビル7Fにて
15：00～15：50

パンフレットをご請求ください。

ご自宅・ご希望の場所にご説明にお伺いすることも可能です。お気軽にお問い合わせください。

日帰りハイキング講習会
ご予約お待ちしております

☆★大和葛城山（奈良県）★☆
日時：2005年5月19日（木）
集合時間：近鉄御所線御所駅　10時00分
参加費：無料（交通費は実費となります）
講師：社団法人　日本山岳ガイド協会理事
中島　政男　ガイド
＊歩行時間：約4時間　＊コースの詳細はお問い合せください

おかげさまで 大好評
スイスアルプスハイキング
当社のスイスアルプスハイキングツアーはおかげさまで25周年。
今年はコースによって、出発保証日も設けています。
是非パンフレットをご請求ください。

郵船トラベル株式会社　フリーダイヤル：0120-819-215（ハイク に行こう）
■大阪 〒541-0053　大阪市中央区本町3-2-6　フーバー本町ビル7階
TEL:06-6251-9143　FAX:06-6251-9190　e-mail:kog@ytk.co.jp
■神戸 〒651-0085　神戸市中央区八幡通4-2-18　郵船航空福本ビル
TEL:078-251-7611　FAX:078-230-6488　e-mail:kkc@ytk.co.jp
ホームページ：http//www.ytk.co.jp

特選コースガイド①　湖北

（里山シリーズ27　西浅井町）

竹生島に一番近い
朝日山（葛籠尾崎）

一般コース（★　）

長宗　清司

琵琶湖の北部、湖面に浮かぶ竹生島に一番近い周辺の山が、葛籠尾半島先端の朝日山である。以前は陸の孤島といわれた菅浦集落へ「奥びわ湖パークウェイ」が開通して久しいが、意外に歩く人は少ない。唯一、この半島の湖岸だけが水際を歩くことができないだけに、半島上からの眺望はすばらしい。

JR北陸本線木之本駅前から菅浦行きのバスに乗る。国道8号線の賤ヶ岳隧道を抜けると琵琶湖岸の山梨子である。さらに飯の浦から塩津へ藤ヶ崎トンネルを通過し、琵琶湖の最北端の塩津に出る。塩津神社は製塩の祖塩土翁が祭神で、地名も塩発祥の地に因んでいる。

塩津浜のバス停で下車後、西から南へ半島の山裾へと向かう。湖岸道「近江湖の辺の道」は、月出集落までのびている。湖面には、縄文時代からの漁法の「飢」が見える。この集落から先は、湖岸に道がなく、右側に見上げる尾根に向かってつづら折りの山道を上る。

琵琶湖最北地の、秘境と変化に富んだ遠望が一目に楽しめる18・8㌔の「奥びわ湖パークウェイ」は、背後に深い山の緑と目の前の碧い湖の雄大な景観が、今も静寂な自然美を保ち続けている。

月出展望台に出て、車道の脇を注意して歩く。つつじ平展望台をはじめ、道の左側に展望が広がる。琵琶湖の美しいエメラルド色の水が満々と目に入り、水際の曲線や斜面の樹木が美しい。やがて半島の山頂公園に着く。葛籠尾展望広場になっていて、琵琶湖北部の山々のパノラマが堪能できる。

車道から離れて、さらに地道を半島の先端に向かう。常緑・落葉の樹林帯の道は高低差のない腹巻道で、最後は竹生島が間近に見える先端に着く。二重に遊歩道がある上の道に三角点朝日山（4等、293・1㍍）の標石がある。

奥びわ湖パークウェイから賤ヶ岳南尾根を望む

帰路は少し道を引き返し、道標に従って菅浦への遊歩道をくだり湖岸に出る。

菅浦の里は、昭和41年の道路改修前は車も通れない狭さで、渡し舟で行き来した陸の孤島だった。

奈良時代、穀物以外の食料品を天皇に献上する小集団が住みつき、漁業と湖上輸送を業とした。集落の東西の両端には、藁葺き屋根の「四脚門」が建っている。

菅浦集落を望む

外来者を監視した名残である。

須賀神社は、第47代淳仁天皇を祭神とし、拝殿の裏手には天皇のものとされる舟型御陵がある。氏子は参道の水屋から素足で参拝する習わしがあり、今も守られている。淳仁天皇は孝謙上皇、道鏡との政争に敗れ、近習と共に菅浦に隠れ、1年後に崩御された。近習の子孫は、この地に定住し御陵を守り続けた。菅浦が「近江の隠れ里」と呼ばれた所以である。

史実では、政争に敗れて廃帝となった淳仁天皇隠棲の地は淡路島で、御陵も同島にあるとされているが、淳仁天皇は淡路島から救出され、葛籠の中に隠れて菅浦に移られたとの異説もあり、ここでは天皇一行が湖から上陸した所を葛籠尾崎と名付けたと伝えられている。

湖北といえば雪深いところと思われるが、半島の先近くにはミカン畑があり、意外に暖かい地である。バス停近くには、国民宿舎「つづらお荘」があり、「ランタの館」という入浴施設も隣接している。バス待ちにひと風呂浴びるのもよい。

JR湖西線永原駅へはバスで出られる。

（平成13年6月28日歩く）

《コースタイム》

JR北陸本線木之本駅（バス15分）塩津浜（1時間）月出集落（25分）月出展望台（50分）つつじ平展望台（1時間10分）つづらお崎展望台（30分）朝日山（50分）菅浦（バス14分）JR湖西線永原駅

《地形図》2万5千＝木之本・竹生島

（問い合わせ先）

西浅井町役場（産業観光課）　0749（89）1121

JR木之本駅　0749（82）2044

湖国バス（長浜）0749（64）1224

国民宿舎つづらお荘　0749（89）0350

特選コースガイド 2　鈴鹿

―続・近江側から登る鈴鹿の山々㉓

奥ノ畑谷から直登して 雨乞岳

中級コース（★★）

犠部　純

これまで岩野さんの例会で、雨乞岳西尾根を登って山頂へ向かい、藤切谷をくだったことは何回もあるが、藤切谷へのびる西尾根の南にあるこの尾根を登ったのは初めてである。距離が短いだけあって勾配の急な所が多く、気の抜けない尾根だった。

藤切谷旧林道分岐へ車を置き、長い藤切谷林道を上流へ歩く。この道は「千草越」と呼ばれた古道で、日野・甲津畑からこの藤切谷沿いの道を通り、杉峠、根の平峠を越えて、朝明、四日市へ向かう道であり、商人達にとっては鎌倉時代以前から近江と伊勢を結ぶ重要な道であった。延暦寺の僧達の迫害に遭い、日野を経てこの地に逃げ込んだ蓮如上人もこの道を歩き、織田信長も、浅井、六角勢や一揆勢に八風街道が塞がれたため、この峠越えをとり、杉谷善住坊に狙撃されたことでも知られている道である。道脇にはタチツボスミレ・ミヤマキケマンが点々と続き、ハルリンドウやエンレイソウも目にする。

谷の左岸の道を歩いて橋を渡り、アケビダンへの道を左に分けると山道に変わる。しばらく杉の林を歩くとツルベ谷道の分岐。そこから山際の道を南へ向かうと、斜面一面に小さな花をつけたヤマルリソウの群生を見る。木々の間から上方の気の遠くなりそうな高さに雨乞岳の西尾根先端が見えている。

道が東へと廻り込んで、少し歩くと谷を渡る。ここが奥ノ畑谷の入口である。このまま進めば、蓮如上人旧跡のある塩の集積場所だった塩津、向山鉱山跡を経て杉峠へ行き着くが、ここから右手の谷へと踏み跡を入る。尾根を廻り込んで斜面に切られた道を歩いて、その先で谷を渡り、河原の杉林の踏み跡を登ると、左手に最初の谷が見えてくる。その谷分岐の中間尾根がこの日登ろうとする尾根で、谷分岐の少し上から右岸へ渡る。尾根への取付地は平坦だが、すぐ上は見上げるばかりの急斜面だった。

やっと急勾配の斜面を登り切ると、狭くなっている平坦尾根。その先は細尾根の登りに変わる。このあたりにまだ春は来ていないのか緑はなく、立ち枯れ状の林のなかに、点々とタムシバの白い花だけが目につく。ガレ場の緑の細尾根を登って行くと、やがて、右手から尾根が来て広い斜面の登りとなる。勾配は急で滑らないように一歩一歩登るしかない。ジグザグにルートをとり、やっとのことでゆるい尾根へのり、左へ向かって登った所が平坦尾根。木々の間からすぐ北にタイジョウが横たわっていた。

雨乞岳山頂から見る御在所岳と鎌ヶ岳

雨乞岳付近略図

そこからゆるい尾根を登ると、標高点1048㍍の西にある崖の縁に出た。南の展望が開け、目の前に奥ノ畑谷を挟んで、綿向山から清水ノ頭、南雨乞岳へ連なる壮大な尾根が横たわっている。ササ原におおわれた尾根が、まるで絵に描いたようにも思えた。

標高点1048㍍のピークを越えると、目の前に急斜面が立ち塞がる。標高差150㍍もあろうか、上部はササにおおわれている。登って行くと右手から尾根がやってきて、それが一つになる手前には日本庭園の苔むした岩を見ているような石組みがある。その石と木々とササ原とがマッチして、何ともいえない趣があった。登るにつれ勾配が増し、ササも濃くなってくる。ササを漕いでの急斜面の登りは思った以上に足への負担が大きく、ここが頑張りどころだ。ゆるい尾根にのれば西尾根の合流点まではわずかの距離。雨乞岳山頂まで登ってしまってもよいが、人気の全く無いこの尾根で、目の前に広がるイブネ・クラシや北方の山々を眺めながら昼食とするのも最高だ。

ここから雨乞岳山頂までは10分程の距離。西雨乞岳を越え、深いササやぶを漕いでゆるい尾根の北端を登って行くと、目の前に池が現れる。この池は雨乞岳の山頂にある「大峠ノ沢」と呼ばれる池で、酒肴を添えて雨乞いを祈祷した池であるという。ただ、雨乞いは、藤切谷から杉峠を経て、また大河原から奥ノ畑峠を越えてやって来た近江の人達の風習で、伊勢側には見られなかったと聞く。

池から5㍍もササをかき分けると、雨乞岳山頂。三角点は広場の北の端に立っ

雨乞岳山頂から見る東雨乞岳

清水ノ頭方向へ行く

ている。標高1238・0㍍で、山名と同じく点名は「雨乞岳」。2年前来た時には、西方は林に遮られ何も見えなかったが、今では林が切られ、西の展望を目の当たりにできた。

山頂の東のはずれへ出ると、目の前に大パノラマが広がっている。一番左奥に釈迦岳が見え、国見岳・御在所岳がその横に。手前にはササでおおわれた東雨乞岳が横たわっている。山腹のササ原の緑が美しい。尖った鋭峰が鎌ヶ岳で、武平峠の上に雲母峰が灰色に浮かび上がっている。鎌尾根の右には水沢岳・仙ヶ岳が頭を出し、遠くに高畑山・那須ヶ原山の連なりが黒い陰になっていた。いつ見ても飽きない光景であった。

下山路は南雨乞岳へ向かってササ原をくだる。道は無く、目標を南雨乞岳へ定めてくだればよい。南雨乞岳から方向を西へとって尾根をくだると、遠くに綿向山、眼下には清水ノ頭の尾根が雄大に見えている。下り切った所のゆるい鞍部が奥ノ畑峠だが、以前にあった古い標識はどこかに消えて無くなっていた。

ガレ場の手前、樹林とササ原の境界の西から小さな尾根を北へくだる。尾根の途中から右手の谷へ向かいその浅い谷をくだると、奥ノ畑谷源頭の炭焼き窯跡にくだる。ここから谷下りが始まる。谷といっても疎林の広がる幅広い谷である。広い河原をくだり、谷を二度ほど渡り返して、谷が右へ向く所に太い大きな木が1本立っている。葉が出ていないので何の木かわからないが、相当の年代を経ているにちがいない。その下部の木の少ない広いなだらかな斜面が奥ノ畑と呼ばれる所で、昔、畑のあった場所だという。田畑を受け継ぐことのできなかった次男・三男が奥ノ畑峠を越えて耕作に来たのだとか。今では田畑の跡は見ることはできず、広い斜面にシロモジやクリの木が点在しているだけだった。

ここからくだって行くと、古い踏み跡が現れる。右手に朝に登った谷合流点を見たら、右岸をよく見てくだらないと、踏み跡を見失うので気をつけなければならない。谷を渡り右岸斜面の道を通り、杉峠の道へ出たら、あとは藤切谷旧林道分岐へ向かって歩くだけ。1時間15分も歩くと藤切谷旧林道分岐へ戻る。

（平成16年4月18日歩く）

＜コースタイム＞

藤切谷旧林道分岐（1時間15分）奥ノ畑谷分岐（15分）尾根取付（2時間）西尾根交差点（10分）雨乞岳（10分）南雨乞岳（20分）奥ノ畑峠（20分）奥ノ畑谷源流窯跡（1時間）奥ノ畑谷分岐（1時間15分）藤切谷旧林道分岐

＜地形図＞

2万5千＝日野東部・御在所山

新ハイキング選書

第4巻 一等三角点のすべて　多摩雪雄 編
改訂2刷／上製本／B6判352頁／定価1890円
高度順一等三角点100など、一等三角点の知識をこの一冊に収録。地形図による一等三角点の決定版。

第9巻 一等三角点の名山100　安藤正義／市川静子／多摩雪雄／冨田弘平／松本 浩 共著
3刷発売中／B6判336頁／定価1631円
北海道から沖縄まで、マニヤのモサが選んだ全国100座の一等三角点峰紀行・案内文集。

第14巻 百歳までの山登り　冨田弘平 著
2刷発売中／上製本／B6判360頁／定価1835円
北から南から海外まで、百歳までの山登りをめざす中高年の星。話題豊富な著者の紀行と随想集。

第18巻 一等三角点の名山と秘境　安藤正義／多摩雪雄／冨田弘平／松本 浩 共著
2刷A5判340頁／定価1837円
一等三角点の山100座の登山コースを紹介。全国一等三角点配置図と全国一等三角点の県別の所在地を最新の資料で掲載。

第19巻 山との出会い　冨田弘平 編
B6判328頁／定価1680円
山とのであい、花鳥とのであい、人とのであい、さまざまな出会いを書き下ろした山の随筆55名の話題のであい。

第20巻 一等三角点の山々　山口ゆき子／横山隆／高柳生雄／川越はじめ／岡村美邦 共著
A5判313頁／定価1680円
第9、18巻の山と重複しない80座の登山コースを紹介。一等三角点の山シリーズ3部作目。この三冊で一等点の山はほぼ網羅されます。

第24巻 山岳巡礼　佐藤光雄 著
B6判362頁／定価1680円
山に魅せられた一登山家の珠玉の紀行集。ひとり拓く剱岳北方稜線は本格的に山へ取り組む人への道案内書である。

深田久弥の研究　深田クラブ 編
A5判389頁／定価1680円
深田クラブの飯島 崇・高沢光雄・高辻謙輔の三氏が山行に著作に交友に久弥のすべてを丹念に研究した成果を記録。

田舎ごっこ　中山権四郎 著
B6判234頁／定価1680円
信州の山の家を中心とした折々の出来事を、豊かな感覚でつづった「田舎ごっこ」。蝶との触れ合いをほのかにまとめた「蝶々雑記」が好読物。蝶のカラー写真も出色である。

花と山　100人の100山　エーデルワイスクラブ 編
A5判217頁／定価1680円
坂倉登喜子女史が名誉会長をされているエーデルワイスクラブの会員が、心に残った山を選んでその想いをつづった100山集。

発行所 新ハイキング社　〒114-0023 東京都北区滝野川7-5-5 高橋ビル
電話／Fax03-3915-8110
●価格は消費税込み●振替でのご注文は送料当社負担　振替00130-9-146915

沿線ハイキングガイド

近鉄　京阪　阪急　南海　神鉄　山陽電車　叡電・京福
公開ハイク　歩け歩け大会　文学散歩　歴史散歩　その他

近鉄・南海・朝日合同企画

▽金剛生駒紀泉ハイキング「岩湧山から滝畑ダムへ」　5月5日(祝)雨天決行（荒天中止）〈集合〉南海りんかんサンライン・天見駅9時15分～10時15分〈コース〉天見駅―岩湧の森・四季館―岩湧寺―岩湧山―滝畑ダム（バス）河内長野駅（約12㌔）参加自由（75歳以上の単独・小学生不可）・無料（バス代・拝観料別途）、南海テレホンセンター06（6643）1005

▽金剛生駒紀泉ハイキング「槙尾山施福寺から天野山金剛寺へ」　5月22日(日)雨天決行（荒天中止）〈集合〉泉北高速鉄道・和泉中央駅9時30分～10時30分〈コース〉和泉中央駅（バス）槙尾山―槙尾山施福寺―ボテ峠―滝畑民俗資料館―滝畑ダムサイト―天野山金剛寺（バス）河内長野駅（約10㌔）参加自由（75歳以上の単独・小学生不可）・無料（バス代・拝観料別途）、南海テレホンセンター06（6643）1005

▽金剛生駒紀泉ハイキング「生駒山上から役行者ゆかりの千光寺へ」　6月5日(日)雨天決行（荒天中止）〈集合〉生駒ケーブル線・生駒山上駅9時20分～10時20分〈コース〉生駒山上駅―慈光寺―大阪府民の森ぼくらの広場―鳴川峠―千光寺―東山駅（約13㌔）参加自由（75歳以上の単独・小学生不可）・無料（拝観料は別途）、近鉄大阪イベント係06（6775）3566

近鉄

▽駅長お薦めフリーハイキング「新緑の大国見山を行く」　5月6日(金)雨天決行（荒天の場合5月28日(土)に延期）〈集合〉近鉄天理駅9時30分～12時〈コース〉天理駅―右上神宮―布留の高橋―櫟尾の滝―大親寺―大国見山―岩屋の磨崖仏―天理駅（約15㌔）健脚向＊係員は同行しません）参加自由・無料、天理駅0743（62）0024

▽駅長お薦めフリーハイキング「ツツジと風車の青山高原へ」　5月14日(土)雨天決行（荒天の場合5月22日(日)に延期）〈集合〉近鉄西青山駅8時50分～9時50分〈コース〉西青山駅―（東海自然歩道）―三角点―丸山草原―西青山駅（約14㌔）健脚向＊係員は同行しません）参加自由・無料、伊賀神戸駅0595（38）1304

▽奈良交通所長お薦めフリーハイキング「屏風岩と絶景の住塚山・国見山・清浄坊の滝コース」　5月14日(土)雨天中止〈集合〉榛原駅9時～9時30分〈コース〉榛原駅（バス）曽爾長野―屏風岩―住塚山―国見山―清浄坊の滝―サン・ビレッジ曽爾―曽爾村役場前（バス）榛原駅（約9㌔）健脚向＊係員は同行しません）参加自由・無料（バス代2110円別途）、榛原営業所0745（82）2201

▽奈良交通所長お薦めフリーハイキング「芋ヶ峠から天険を利用した高取城跡コース」　5月16日(月)小雨決行〈集合〉大和上市駅9時～9時30分〈コース〉大和上市駅（バス）志賀―千股―芋ヶ峠―高取城跡―五百羅漢―壺阪寺前（バス）飛鳥駅（約10㌔）＊係員は同行しません）参加自由・無料（バス代630円、拝観料別途）、吉野営業所0747（52）4101

▽駅長お薦めフリーハイキング「生駒山麓でリフレッシュ」　5月21日(土)雨天決行（荒天の場合5月28日(土)に延期）〈集合〉生駒駅9時30分～12時〈コース〉生駒駅―宝山寺―生駒山麓公園―生駒駅

（約7㌔）一般向＊係員は同行しません）参加自由・無料（拝観料は別途）、生駒駅0743（74）2056

▽駅長お薦めフリーハイキング「室生寺と滝谷花の郷へ歴史の道を行く」　5月28日(土)雨天決行（荒天の場合6月4日(土)に延期）〈集合〉室生口大野駅9時30分～12時〈コース〉室生口大野駅―大野寺―（東海自然歩道）―室生の里花の園―室生寺―（弘法大師ゆかりの道）―滝谷花の郷―三本松駅（約13㌔）健脚向＊係員は同行しません）参加自由・無料（拝観料は別途）、榛原駅0745（82）0021

▽奈良交通所長お薦めフリーハイキング「関西のマッターホルン高見山」　6月4日(土)雨天中止〈集合〉榛原駅9時～9時30分〈コース〉榛原駅（バス）高見登山口―小峰―大峰―高見展望台―高見杉―たかすみ温泉―高見平野（バス）榛原駅（約10㌔）健脚向＊係員は同行しません）参加自由・無料（バス代2160円別途）、榛原営業所0745（82）2201

▽奈良交通所長お薦めフリーハイキング「アジサイの矢田寺から歓きの平群谷コース」　6月11日(土)小雨決行〈集合〉近鉄郡山駅9時30分～10時〈コース〉郡山駅（バス）矢田寺前―矢田寺―国見台展望台―松尾寺―長屋王の墓―平群駅（約8㌔）＊係員は同行しません）参加自由・無料（バス代340円、拝観料は別途）、奈良営業所0743（58）3030

▽奈良交通所長お薦めフリーハイキング「女性に人気のシャクナゲの稲村岳」　6月13日(日)雨天中止〈集合〉下市口駅9時～9時30分〈コース〉下市口駅（バス）洞川温泉―五代松鍾乳洞―法力峠―稲村小屋―稲村ヶ岳―洞川温泉（バス）下市口駅（約14㌔）健脚向＊係員は同行しません）、吉野営業所0747（52）4101

▽読売ふれあいハイキング「あじさいの矢田寺・松尾寺コース」　6月17日(金)雨天中止〈集合〉南生駒駅9時30分〈コース〉南生駒駅―矢田自然公園子供の森―矢田寺―松尾寺―平群駅（約13㌔）参加自由・無料（拝観料は別途）、近鉄大阪イベント係06（6775）3566

▽奈良交通所長お薦めフリーハイキング「観音峰登山と洞川温泉コース」　6月20日(月)雨天中止〈集合〉下市口駅9時～9時30分〈コース〉下市口駅（バス）観音峰登山口―休憩小屋―観音平展望台―観音峰―法力峠―洞川温泉（バス）下市口駅（約10㌔）健脚向＊係員は同行しません）参加自由・無料（バス代2480円別途）、吉野営業所0747（52）4101

▽読売ふれあいハイキング「あじさいの生駒山麓・辻子谷コース」　6月24日(金)雨天中止〈集合〉新石切駅9時50分〈コース〉新石切駅―石切神社―興法寺―大阪府民の森・ぬかた園地―枚岡公園―額田駅（約10㌔）参加自由・無料（拝観料は別途）、近鉄大阪イベント係06（6775）3566

▽駅長お薦めフリーハイキング「役行者、修験の道を偲ぶ」　6月25日(土)雨天決行（荒天の場合7月2日(土)に延期）〈集合〉元山上口駅9時30分～12時〈コース〉元山上口駅―金勝寺―摺墨歳尊―千光寺―清滝石仏群―首なし地蔵―生駒山口神社―植本神社―つぼり山古墳―平群駅（約9㌔）一般向＊係員は同行しません）参加自由・無料（拝観料は別途）王寺駅0745（72）2330

▽駅長お薦めフリーハイキング「初夏の二上山登山」　6月26日(日)雨天決行（荒天の場合7月2日(日)に延期）〈集合〉二上駅9時30分～12時〈コース〉二上駅―二上山駅―大津皇子の墓―雄岳（葛木二上神社）―雌岳―祐泉寺―裏向不動明王―鳥谷口古墳―當麻山口神社―傘堂―中将姫の墓―當麻寺―葛城市相撲館（けはや座）―大麻寺駅（約9㌔）健脚向＊係員は同行しません）参加自由・無料（入山料、拝観料は別途）、大和高田駅0745（52）2414

京阪電車

▽スポニチファミリーハイク「清滝から沢の池・鷹峯へ」　5月22日(日)小雨決行〈集合〉京阪三条駅9時～9時30分〈コース〉三条駅（バス）清滝―月輪寺分岐―高雄橋―福ヶ谷林道入口―三本松林道出合―沢の池―上ノ水峠―鷹峯・然林房前（バス）出町柳駅（約12㌔中級向）参加自由・無料（バス代別途）、京阪電車ハイキング担当06（6947）3702

▽スポニチファミリーハイク「天ヶ岳・鞍馬」　6月12日(日)小雨決行〈集合〉叡電鞍馬駅9時30分～

10時〈コース〉鞍馬駅―葵王坂―三角点―三又岳―天ヶ岳―吉井峠―（百井谷）―扶桑橋―くらま温泉―鞍馬駅（約12㌔中級向）参加自由・無料、京阪電車ハイキング担当06（6947）3702

京都バス

▽三角点トレック「マキノ・赤坂山」　5月7日(日)・14日(日)小雨決行〈集合〉京阪出町柳駅コンコース8時～8時30分〈コース〉出町柳駅（バス）黒河林道口―明王禿―赤坂山―赤坂峠―ブナの木平―マキノ高原（バス）出町柳駅（約10㌔健脚向）参加定員200名、電話申込制（1ヶ月前より）参加費無料（バス代別途）（申込先）京都バス運輸部営業課075（871）7521・7522

▽三角点トレック「雲洞谷山」　6月4日(日)・11日(日)小雨決行〈集合〉京阪出町柳駅コンコース8時～8時30分〈コース〉出町柳駅（バス）朽木学校前―明護峠―東山―行者山―雲洞谷山―大彦峠―鷹ヶ峰―桑野橋（バス）出町柳駅（約10㌔健脚向）参加定員200名、電話申込制（一ヶ月前より）参加費無料（バス代別途）（申込先）京都バス運輸部営業課075（871）7521・7522

叡山電車

▽叡電峠を歩く「薬王坂・江文峠・寒谷峠」　5月25日(水)・28日(日)雨天中止〈集合〉鞍馬駅9時30分～10時〈コース〉鞍馬駅―葵王坂―静原神社―江文峠―寒谷峠―瓶尻山―岩倉駅（約11㌔中級向）参加自由・無料、叡山電車営業課075（702）8111

▽叡電峠を歩く「芹生峠・滝谷峠」　6月15日(水)・18日(日)雨天中止〈集合〉貴船口駅9時30分～10時〈コース〉貴船口駅―貴船神社―奥貴船橋―芹生峠―滝谷峠―（二ノ瀬ユリ）―大岩分岐―貴船口駅（約12㌔中級向）参加自由・無料、叡山電車営業課075（702）8111

江若交通

▽こうじゃくMtハイキング「新緑の芦生ブナ原生林散策」　5月26日(水)・6月9日(水)・7月14日(水)雨天中止〈集合〉JR安曇川駅9時05分〈コース〉安曇川駅（バス）朽木市場―生杉―三国峠―杉尾峠―生杉（バス）安曇川駅（約13㌔健脚向）電話申込制（1ヶ月前から）参加費4000円（バス代含む）（申込先）江若交通本社077（573）2701

朝日・五私鉄リレーウォーク

▽源平盛衰歴史探訪ウォーク　5月29日(日)雨天決行（荒天の場合6月12日(日)に延期）〈集合〉須磨浦公園東公園（須磨浦公園駅下車）9時30分～10時30分〈コース〉須磨浦公園東公園―戦の激碑―安徳帝内裏跡伝説地―おらが山―須磨寺―須磨海浜公園―新長田1番街―大正筋商店街―六間道商店街―高松橋―神戸ウイングスタジアム―清盛橋―清盛塚―経島塚―能福寺―メトロ神戸・星の広場―高速神戸駅（約15㌔一般向）参加自由・無料、阪神電鉄運輸部営業課06（6457）2222

神戸電鉄

▽神鉄ハイキング「東の峰と柏尾谷池ハイク」　5月8日(日)雨天中止〈集合〉谷上駅10時〈コース〉谷上駅―東の峰―柏尾谷池―天下辻―大池駅（約11㌔一般向）参加自由、無料、神鉄観光事業部078（521）0321

▽火曜ハイク「再度公園・地獄谷コース」　5月10日(火)雨天中止〈集合〉鈴蘭台駅10時〈コース〉鈴蘭台駅―牛ノ背―再度公園―大竜寺―市ヶ原―地蔵谷道―掬星台―仙谷峠―カスケードバレイ―阪急六甲駅（約15㌔健脚向）参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078（592）4611

▽駅長ハイク「神戸青少年公園コース」　5月14日(日)雨天中止〈集合〉箕谷駅10時〈コース〉箕谷駅―射曲り―志久道―神戸青少年公園―天保池―黒甲越東道―大池駅（約14㌔健脚向）参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078（592）4611

▽木曜ハイク「紅葉谷・天狗岩南尾根コース」　5月19日(木)雨天中止〈集合〉ロープウェイ有馬駅9時30分〈コース〉有馬駅―紅葉谷―極楽茶屋跡―六甲ガーデンテラス―天狗岩南尾根―阪急御影駅（約11㌔健脚向）参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078（592）4611

▽神鉄ハイキング「地獄谷西尾根と摩耶山ハイク」　5月22日(日)雨天中止〈集合〉大池駅9時15分〈コース〉大池駅―地獄谷西尾根―ダイヤモンドポイント―三国池―摘谷峠―天上寺―まやロープウェイ星の駅（約9㌔一般向）参加自由・無料、神鉄観光事業部078（521）0321

▽火曜ハイク「魚屋道・芦屋市最高峰コース」　5月24日(火)雨天中止〈集合〉有馬温泉駅下車魚屋道登山口10時〈コース〉有馬温泉駅―魚屋道―一軒茶屋―蛇谷北山（芦屋市最高峰）―土樋割峠―ナマズ岩―阪急芦屋川駅（約13㌔健脚向）参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078（592）4611

▽駅長ハイク「鳥原水源池・菊水山コース」　5月28日(土)雨天中止〈集合〉淡川駅10時〈コース〉淡川駅―会下山公園―ひよどり展望公園―鳥原水源池―菊水山―鈴蘭台駅（約10㌔健脚向）参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078（592）4611

▽木曜ハイク「高尾山・蛙岩コース」　6月2日(木)雨天中止〈集合〉藍那駅10時〈コース〉藍那駅―相談ヶ辻―高尾地蔵院（義経馬つなぎの松跡）―蛙岩―平盛俊塚―長田神社―地下鉄長田駅（約12㌔一般向）参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078（592）4611

▽駅長ハイク「丹生山田の里コース」　6月11日(土)雨天中止〈集合〉箕谷駅10時〈コース〉箕谷駅―無動寺―六條八幡宮―藍那古道―藍那駅（約8㌔一般向）参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078（592）4611

▽火曜ハイク「稚子ヶ墓山・帝釈山・丹生山コース」　6月14日(火)雨天中止〈集合〉箕谷駅9時30分〈コース〉箕谷駅―射曲り―稚子ヶ墓山―帝釈山―丹生山―藍那古道―藍那駅（約18㌔健脚向）参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078（592）4611

▽駅長ハイク「森林植物園あじさいコース」　6月25日(土)雨天中止〈集合〉谷上駅10時〈コース〉谷上駅―山田道―森林植物園（入園自由・有料）―再度公園―北鈴蘭台駅（約10㌔一般向）参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078（592）4611

山陽電車

▽山陽ハイキング「中尾親水公園・明石海浜公園ハイク」　5月8日(日)雨天中止〈集合〉魚住駅下車魚住吉公園10時〈コース〉魚住住吉公園―中尾親水公園―東二見橋―明石海浜公園―アサヒ飲料イベント会場―二見橋―西二見駅（約10㌔家族向）参加自由・無料、須磨浦遊園㈱ハイキング係078（731）2520

▽山陽ハイキング「自然観察の森と夢前川河畔ハイク」　5月22日(日)雨天中止〈集合〉夢前川駅下車夢前河川敷右岸10時〈コース〉夢前川河川敷右岸―サイクルロード―青山―桜山貯水池―自然観察の森―夢前川河川敷右岸―夢前川駅（約13㌔一般向）参加自由・無料、須磨浦遊園㈱ハイキング係078（731）2520

▽山陽ハイキング「舞子からシーサイドをへて山上梅林〝梅ちぎり〟を楽しむハイク」　6月12日(日)雨天中止〈集合〉舞子駅下車舞子公園東松林10時〈コース〉舞子公園―アジュール舞子―マリンピア神戸―塩屋―山上遊園ふんすいランド―須磨浦公園駅（約10㌔一般向）参加自由・無料、須磨浦遊園㈱ハイキング係078（731）2520

□これ以外にも多数の催しがあります。各社の広報も見て下さい。

○新ハイ関西サービスチェーン

福島・二岐温泉
日観連　大和館
〒962-1062
福島県岩瀬郡天栄村二岐温泉
F 0248-84-2021
0248-84-2705
名峰・二岐登山　小白森―大白森―甲子・那須への縦走基地　1名でも経済り駅送迎可（要予約）　蔦天麗呂と内湯

富士登山・富士五湖
東海道自然歩道
（石割山・ハリセン樹林）
三国山の麓
ペンション　コットンテール
〒401-0502
山梨県南都留郡山中湖村平野
電 0555-65-8515
大金峠道沿中腹から紅葉根分岐点
個室・岩風呂あり
JR中央線山中湖駅下車タクシー10分
バス20分登山口下車後徒歩2時間

山小屋　福ちゃん荘
〒404-0022
山梨県塩山市上萩原2532
電（自宅）0553-33-4639
（山小屋）0301-4179215
尾瀬・平ケ岳探勝と釣りの山小屋
越後三山只見国立公園内

清四郎小屋
ほんものの手打そばと売店は
樹海
〒946-0000　新潟県北魚沼郡湯之谷村葎の果（奥鋸山）
電 090-2558-1028
期間外（11月～4月）は 0257-79-2150-26

せせらぎ

題字・小林玻璃三

私は山登り同様にウォーキングも好きであり、これまでに東海道・中仙道・西国街道・熊野古道などを歩いている。しかしコース選択に一貫性はなく、その時々の狙いによって決定している。

12月中旬、久し振りに高野街道をウォークした。これまで関心のなかった学文路へも行ってみたく、また、寒さに弱い私は、山登りは春先まで無理なので、ウォーキングで繋いでおかねばと思ったからだ。

南海紀伊神谷駅で下車し、極楽橋からの高野街道へ出て、まず神谷の宿場跡に佇んで往昔を偲んだ。雲一つない晴天に恵まれてのウォークとなったのも嬉しい。

「日本最後の神谷の仇討」に関する墓所や仇討の行われた場所を過ぎるとき、おや？　という思いにとらわれた。金沢市にある大乗寺近くや、大阪府泉南郡境橋にも、「日本最後の仇討」関連の墓や標示を見ていたからである。

桜茶屋を過ぎると九度山の町並が展望されて楽しい。しかし、千石橋からは上り坂になって意外な気持ちになる。高野山からはくだるだけと単純に考えていたからである。

丹生神社に参詣した後、「大師硯水」では、地元の人に教えられて弘法大師の小像に拝礼する。石童丸物語の苏蘇堂にも寄った。

最後に学文路大師に入ったのは閉門前だったが、夕景ながら境内から紀ノ川を含むすばらしい展望を眺め、初冬のウォーキングを終了した。

（枚方市　東谷　宏）

今年も1・2月の自然観察山行は、スノーシューを利用したスノーハイキングを実施しましたが、岐阜県揖斐地方の多量の重い雪に阻まれて、貝月山や湧谷山は時間切れとなり、山頂まで行けませんでした。

スノーハイキングの楽しさの神髄は、すべての煩わしさを覆い隠した銀世界のなかで、無雪期には入り込めないフィールドをも軽やかに進むことでしょう。そして、無雪期にはその影さえ感じられない動物たちの息づかいに接することができることだと思います。

揖斐の池田山では、雪上にホンドリスやアカネズミの足跡を見つけました。西穂丸山とセットにした新穂高の鍋平高原では、ツキノワグマのクマ棚を発見しました。

スノーフィールドでノウサギやキツネ、あるいはニホンジカ・カモシカの足跡を見つけるのはそれほど難しいことではありません。けれど、リスの足跡は比較的珍しく、アカネズミとなるとなかなか出合うことは難しいものです。

また、クマ棚ともなればきわめて見つけにくいものですが、鍋平高原のブナの老木にあったクマ棚はかなりはっきりとしたもので、クマが登った爪痕も鮮明に残っていました。

アカネズミの足跡やクマ棚は、新ハイの自然観察山行では初めて観察できたものであり、動物たちの多彩なフィールドサインに出合うことで、スノーハイキングの楽しさが倍加しました。

（各務原市　鷲見守康）

春

春はうごうごする
気持ちも身体もうごうごする
山もうごうごやっている
落ち葉の下もうごめいている
だからオレは山へ行く

夏

空がピカッと光って
誰かがでかい写真を撮った
シャッターを切る
どでかい音が
山の上からやってきた
この写真は電気仕掛けだ

秋

モリモリモリモリ森の中
モリモリ食ってケモノ達
さあてこれから冬篭り
オレもモリモリ6㌔増えた

冬

冬は白い真っ白だ
ケモノの足跡あちこちと
向こうの山まで続いてる
足跡たどれば逢えるかな
逢いたいな

（大里町　山形　明）

山行短歌

12月21日　度会獅子ヶ岳
頂直下の岩場で四方を見渡して
ひとり吠え王者の如く立つ
12月25日　讃岐大麻山
海はるかに紺青に未来が透ける
金比羅宮の道を駆け上がれ
1月6日　北山桟敷ヶ岳
雪にころび雪にはばまれ峰遠く
日暮れがせまる憂愁の空よ
1月9日　紀北鏡石山
海光まばゆき鏡の峰に登れば
夢の時間はかがやきて過ぎる
1月12日　安芸宮島弥山
海なかの大鳥居より弥山を仰ぐ
原始のいぶき風よ伝えてよ
1月14日　湖北小谷山
尾根に舞う粉雪に足とめてみる
悲しきアリア響き来る宙に
1月19日　伊勢朝熊ヶ岳
海のひかりとどく時つつまれる
一億光年のかなたの恋人に
1月21日　比良権現山
小女郎の眠れる大雪原めざせ
カンジキで新雪をけとばして
2月3日　西播的場山
女学生のような合唱バス揺らし
帰り来る青春のひとときを
2月6日　北山皆子山
ラッセルで雪吹き溜る谷行けど
引き返せと寒風吹き下ろす
2月9日　台高三峰山
融けることなき樹氷ゆらめいて
鳥のホテルの玻璃窓になる

（吹田市　木村太郎）

山行短歌

春竜胆それともこれは華竜胆
小さき星に鼻先寄する

ハイカーの宿・池の平温泉
ナガサキロッジ
百名山を二つ登れる山小屋
黒沢池ヒュッテ
〒949−2100 新潟県中頸城郡妙高高原町池の平温泉
電 0255−86−2261

休憩昼食入浴も歓迎
10名以上マイクロバスで送迎
箱根仙石原温泉
福島館
〒250−0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原139
電 0460−4−9041

尾瀬登山ハイキング入山口
天然温泉で山の疲れを
水芭蕉の湯
ヴィラ風花（KAZAHANA）
〒378−0411
群馬県利根郡片品村戸倉445
電 0278−58−7051

四季織りなす奥秩父高原のハイク
上高地・乗鞍岳へ　冬はスキー
けやき造りと味の宿・日観連
温泉旅館　けやき山荘
〒390−1500
長野県南安曇郡安曇村乗鞍高原
電 0263−93−2555

さわやか信州
露天風呂　山吹の湯
湯田中温泉（穂波）
日野屋旅館
〒381−0400 長野県下高井郡山ノ内町湯田中温泉穂波
電 0269−33−3578

標高2000m雲上の温泉
湯の丸高峰自然休養林
ハイキングにXCスキー
高峰温泉
〒384−0000
長野県小諸市高峰高原
電 0267−25−2000

ハイキングに／スキーに／
志賀高原　石の湯ロッジ
バス　熊の湯終点下車
電 0269−34−2421
東京本社・東京都新宿区新宿3−20−5（新光第2ビル）㈱スポーツサービス
電 03−3341−0211

塩の道　千国街道
百八十七体「観音原」
ホテル
白馬ブランシェ
〒399−9300
長野県北安曇郡白馬村いわたけ
電 0261−72−4452

肥後菫まだ見ぬ花を求め行けど
葉のみ目立ちて喜び半ば
待ち詫びし片栗の花開く春
静馬ヶ原の風よ安かれ
羅生門鬼妖しく色めきて
木もれ日の中鬼ぞ潜める
林下抜け卵の花匂う頃に
不如帰鳴き夏は来たりぬ
山行狂歌

ストックが車の中と悔む君
ストックが要る山には非ず
大和草道ふさぎたる観察会
大きな他人は眼中に無く
山小屋のロゴ入シャツが下り来て
まだここかいと言いたげな顔
コル隔て響く大声聞くために
わざわざ山に来た訳じゃなし
飲むなとは声に出さねど
酒臭い頂に立つ身をも思えや

（松阪市　数木伸人）

1月号の巻頭言で、「山行後の居酒屋での反省会は、より充実した一日が楽しめる」と代表が記載されている。

私達のクラブでも、山行後に有志で飲み会をするのは楽しみの一つでもあった。むしろ山に登っている時より、後の飲み会のほうを心待ちにするくらいであった。しかし、私は目的とする山が違ってきて、単独行が多くなり、クラブの山行に参加することが出来ず、当然飲み会は不参加になる。今では忘年会と総会しか参加してない。そうなると共通の話題も少なく、お酒が入っても話がはずまない。酒は好きなほうなので、晩酌は欠かしたことがないが、同志の人達と飲めれば酒はいちだんと旨くなるだろう。

登られる山が私の目的に合わなくても、下山後の飲み会だけに参加したいくらいである。代表、飲み会だけ参加できませんか。

（一等三角点研究会　山形敬之）

ここ数年、冬場は雪の少ない愛知県の山へ出かけることが多くなっている。雪遊びは好きだが、寒さが嫌いなので雪の山は1・2回にしている。

愛知県には1000㍍以下の山が多く、少し遠いが手ごろに歩け、そま道も多く地図読みで歩く楽しみもある。

1月4日の新ハイキングの例会で、羽黒山の三角点をじっくりと見たところ、4等だった。2月6日の例会では海上の森にある図根点を見たが（奥村さんの地図では三角点と記載されている）、図根点と表示されている以外、羽黒山の三角点とそっくりだった。図根点が4等三角点の代わりに使われたというのも、標石からしてうなずける。

私は三角点病（三角点を追い求めて山を歩く人のこと）にかかってはいないが、昨年の「次三角点」を見て以来、いろんな標石に興味が出てきて、三角点病に類似した「標石病」にかかったような感である。

（海津市　山田明男）

岩湧山は、岩崎元郎さんの新百名山に唯一選ばれた大阪府の山だ。

幸か不幸か、登山者が一挙に増えたようである。私も定例の観察会でお世話になっている山でもあり、知る人ぞ知る多くの山野草の山でもある。

昨年の梅雨時のことだった。いつもの観察会の後半になってドシャ降りとなった。走るように駆け下りてしまったので、お

八ヶ岳南北縦走の中心地。高山植物の宝庫。神風呂・水洗トイレ・個室。昔ながらの薪ストーブ、美味しい名物料理「桜鶏」
オーレン小屋
（SHC会員500円割引）
〒391-0213　小平勇夫
茅野市湯平2472
電0266-72-1279
http://www.o-ren.net
e-mail:o-ren@pc.dch.ne.jp

北八ヶ岳の登山基地。冬はスキー
JR茅野駅・北八ヶ岳登山口まで送迎します
蓼科高原
プチホテル　カナール
〒391-0301
茅野市北山蓼科高原笹丸平55
13の1
電　0266-67-2258

日本百名山の宿
信州戸隠山
森の宿めるへん
高妻山・黒姫山登山口まで送迎
クロカン・コースご案内
〒381-4100
長野県戸隠村越水ヶ原
電　026-254-2081

日本唯一の女人禁制の山「大峯山」（百名山）の登山口
稲村ヶ岳女人コースもあり
温泉・名水の里
旅館　紀の国屋甚八
1泊2食付　7,000円から
〒638-0431
奈良県吉野郡天川村洞川
電　07476-4-0309

目当ての山野草も今日はダメかと気落ちしていた。しかしその後、四季彩館で花合わせをしている間に雨が上がって、20分も登り返しでお目当てのイナモリソウを見ることができた。

草丈10㌢程で、花冠は淡紅紫色でふちは波打ち2・5㌢くらいの五裂する小さなお花であるが、えもいわれぬ可憐さが誇らしげであった。

他の山では近縁のシロバナイナモリソウも時季をずれて咲くという。いずれ出会いたいものだ。

なお、この場をお借りして「花巡り山行」の申し込み方法についてお知らせします。

今後は会員の皆様のより多くの声にお応えするため、PCのない方の申し込みについてもPCをお持ちの知人等で連絡が確実に行える場合のみ、代理の申し込みをお受けします。

（長岡京市　田中　明）

今年の干支は乙酉で、俗にいうとり年である。とりは鳥一般を指すが、干支では鶏を主としているようで、その理由は知らない。

今西錦司氏が発案した十二支会は今年で46年目に当たり、因みに登山は奈良県の室生火山群の一峰、榛原町北方の鳥見山（734㍍、4等三角点）と決まり、1月10日成人の日に南の萩原キャンプ場登山口から登った。

鳥見山は、山麓がスズラン群生地の香酔山、2等三角点の貝ヶ平山と連なっていて、その南西部に位置する。山頂は杉林のなかで展望は良くない。貝ヶ平山へは今西氏と2人で昭和39年2月11日に登った記録がある。

鳥見山は他にも奈良県内にあり、東吉野村に3等三角点685㍍、桜井市にも245㍍の鳥見山がある。また鳥見町は奈良市、榛原町、桜井市にある。

「記紀」には神武天皇が鳥見山で霊時を設けられたとあり、各地に石碑が建てられている。

「記紀」によると、神武天皇は生駒山で登美能那賀須泥毘古（長髄彦）と戦い、五瀬命を亡して一敗後、熊野から道臣命の八咫烏の案内で再び孔舎衛坂で長髄彦と戦った。金鵄が天皇の弓にとまって大勝したとあり、金鵄勲章の由来となった。これは、私達が小学校の歴史で学んだもので、紀元節の行事と共に我々老齢者の知るところである。

長髄彦は鳥見の豪族で、饒速日命に妹を嫁がせ、可美眞手命を設けさせたといわれ、奈良県西北部一帯に勢力圏があったとされる。中世まで鳥見庄なる村もあり、別に登美・迹見・篤・鵄等の表記もある。登弥神社が奈良市石木町（富雄川の東岸）にある。富雄も鳥見小川からとの説もあり、祭神は高皇産霊命・誉田別命・神皇彦霊命・登美建速日命・天児屋根命を祭る。他に桜井市桜井1109に県社等弥神社がある。

トミとトビは、音韻上よく変えられる。m音とb音は同音と認められるほどで、馬をバと言ったりマと言ったり、美をビやミと言うのと同様である。

金鵄の話は、長髄彦と同じ登美の同族が加担して神武天皇を勝たせた史実を物語っているのである。

伝説も何かを伝えるためにあるものである。

（京都市　坂井久光）

御在所登山に
愛知川渓谷沢歩きに
山好き仲間の集う宿
朝明渓谷
山小屋　朝明茶屋
〒510-1251
三重県三重郡菰野町千草
電　0593-93-1789

那岐山山麓の竜ノ口近くに百名山の大山
二百名山の氷ノ山・扇ノ山などあり。
三百名山　那岐山のふもと
岡山県　那岐山荘
〒708-1307
岡山県勝田郡奈義町高円
電　0868-36-4154

九州の最高峰・日本百名山
宮之浦岳に一番近い宿
屋久島安房登山口
屋久島グリーンホテル
〒891-4311
鹿児島県熊毛郡屋久町安房
電　09974-6-3021

山行計画
（5・6月）
新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するよう、申込み先を確認のうえ申し込んでください。「電話・FAXでの申し込みはお断りします。」「費用」のほかに参加名簿代その他の資料代実費をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合はすぐ係に連絡してください。休調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。

例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点呼の際、係に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円（夜行日帰りの場合は2日になり200円）を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。（株式会社損害保険ジャパンと契約）

死亡・後遺障害最保険金額　1000万円
入院保険金　日額　5000円
通院保険金　日額　2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行　②スキー使用の山行　③沢・岩・氷雪登はんを目的とした山行　④宿泊場所内の事故　⑤病死の場合（詳細は本部まで）

（記入例）

（往復ハガキを使用）

山行き申込み書

山行名（正確に記入すること）

期日

住所 〒

氏名

会員番号
（会員でない方は会員外と記入）

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先　TEL
（山行中の連絡先を記入）

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所氏名に「様」を必ず記入しておいてください。

5月	行先	定員	リーダー	サブリーダー
1(日)	京都北山・鷹峰～沢山～清滝	30	塚元	
5(祝)	美濃・伊吹北尾根	30	鷲見	
5(祝)	鈴鹿・比婆山	20	山田	
7(土)	大阪南部・金剛山			
7(土)	鈴鹿・割谷の頭～不動谷国見	*	筒井	
8(日)	比良・雑松山荒道～釈迦岳～カラ岳		秦	
8(日)	鈴鹿・御所平～舟石～かもしか高原	*	岩野	
8(日)	大峰・大普賢岳	25	村田	
10(火)	京都北山・竜ヶ谷～赤岩山～ツツジ尾根		仲谷	
11(水)	但馬・鉢伏山	20	木村	
14(土)	奥美濃・左門岳	*	金谷	
14(土)	美濃・西台山～タンポ	20	鷲見	
14(土)	湖北・己高山		高島	
15(日)	湖西・三重嶽	20	森脇	
17(火)	高見山地・坂本谷支流石殿～三峰山	*5	田中賢	
18(水)～19(木)	但馬・氷ノ山～鉢伏山	20	田中明	
19(木)	大峰・観音峰		西上	
21(土)	鈴鹿・七人山	*	尾崎	
21(土)	美濃・瓢ヶ岳～片知山	20	鷲見	
22(日)	鈴鹿・鎌ヶ岳～大洞ノ頭～白滝山	*	岩野	
24(火)	湖西・武奈ヶ嶽	38	寺井	
25(水)	醍醐・日野嶽～高塚山		呉山	
25(水)	越前・取立山	20	木村	

*＝マイカー山行

山行計画の実施と申し込みについて

① 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届を提出しますので、必ず実施日の7日前までに、「往復はがき」で申し込んでください。人数によっては事前にバスやタクシーをチャーターする必要があります。また、山ではいかなる事態が発生するかもしれません。緊急時の連絡先、および生年月日も必ずご記入ください。

② 返信の案内は、実施日の10日前頃からします。直前にならないと参加人数がはっきりせず、交通機関への手配等、費用もはっきりしないからです。また、早くから返信すると、コースの状況等、何か変更になった場合に再連絡するのが大変だからです。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。

③ 定員制の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達し、キャンセル待ちの場合はその旨をすぐに返信をいたしますのでご了承ください。

④ グレードは、次のように決めています。

（初級向き）初心者でも安全に歩けるコース（3～4時間コース）
（一般向き）日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける標準コース。あまり危険のない山（5時間コース）
（中級向き）かなり経験を要するコース。危険な所はないが距離が長いコース（6～7時間コース）
（やや健脚向き）距離は中級だが危険な所があり、登り・下りが長く続くコース（6～7時間コース）
（健脚向き）距離が長く、つらい急な登り、危険な岩場、谷の渡渉、やぶ漕ぎの連続など、ハードなコース（7時間以上）

⑤ 雨天中止・決行の判断は、前夜（18時以降）の当地の気象情報を見て、返信案内の判断基準により各自で判断してください（リーダーから連絡はしません）。雨降りの嫌いな方は、雨天・小雨決行の計画には申し込まれないようにお願いします。

6月	行先	定員	リーダー	サブリーダー
4(土)	奥美濃・蕎麦粒山	*	金谷	
4(土)	湖北・伊吹古道	*	筒井	
4(土)～5(日)	南信・尾高山～鬼面山	20	鷲見	
5(日)	鈴鹿・山人山～七人山	*	岩野	
5(日)	比良・三舞谷道～武奈ヶ岳		秦	
5(日)	鈴鹿・竜ヶ岳	20	村田	
7(火)	蟻峨野・松尾山～嵐山～小倉山		仲谷	
7(火)	北部台高・木梶川源流～木梶山	*5	田中賢	
8(水)	六甲・樫ヶ峰		木村	
11(土)	湖北・山田山	*	高島	
12(日)	奥美濃・能郷白山	14	山田	
12(日)	湖西・赤坂山	10	田中明	
16(水)	大峰・天和山～滝山		西上	
18(土)	奥美濃・能郷白山	20	鷲見	
18(土)	飯高・木梶三滝	*	尾崎	
19(日)	鈴鹿・ハト峰～水晶岳	*	岩野	
23(木)	大塔・清水ヶ峰	20	木村	
24(金)夜～26(日)	南八ツ・横岳～赤岳	20	田中明	
24(金)夜～26(日)	北信・戸隠山～奥裾花自然園	20	鷲見	
25(土)	鈴鹿・谷山～霊仙山	20	山田	
25(土)～26(日)	紀伊山地の霊場道・町石道～高野三山	30	村田	
29(水)	京都北山・頭巾山～野鹿の滝		呉山	
28(土)	比良・大岩谷～烏谷山		狩野	
28(土)～29(日)	奥美濃・鷲山～平家岳	14	山田	

地図読み山行68
京都北山・鷹峰から沢山・清滝
（一般向き）
期　日　5月1日(日)　日帰り
集　合　京都地下鉄北大路駅市バスのりば9時30分
コース　北大路駅（バス）源光庵—上ノ水峠—沢山—高雄—猿渡橋—清滝（解散）
費　用　約1500円（大阪から）
地　図　2万5千＝京都西北部
係　◎塚元一彦　○中村　登
申込み　〒536—0008
大阪市城東区関目4の14の9の901　塚元一彦まで
＊定員30名
＊4月27日まで
新ハイキング関西支部合同。京都一周トレイルはこれが最後です。シルバーⅢ型コンパスを持参してください。雨天中止

自然観察山行176
美濃・伊吹北尾根（一般向き）
期　日　5月5日(祝)　日帰り
集　合　JR大垣駅9時00分
コース　大垣駅（バス）国見峠—大禿山—御座峠—静馬ヶ原—笹又—さざれ石公園（バス）大垣駅（解散）
費　用　約3500円（大垣駅からバス代等）
地　図　2万5千＝美東・関ヶ原
係　◎鷲見守康
申込み　〒504—0828
各務原市蘇原村南町1の19の5　鷲見守康まで
＊定員30名
春爛漫の伊吹北尾根フラワーレッキングです。小雨決行

鈴鹿百山70
高取・比婆山（一般向き）
期　日　5月5日(祝)　日帰り
集　合　JR米原駅8時10分
コース　米原駅（車）男鬼峠—落合—高取—比婆山・比婆神社—イワス—男鬼峠（車）米原駅（解散）
費　用　交通費各自（車代500円）
地　図　2万5千＝高宮
係　◎山田明男　○高原芳彦
申込み　〒503—0535
海津市南濃町松山624の19
山田明男まで
＊定員20名程度
＊マイカー参加の人はその旨ご記載ください
霊仙の背景人、ヤマシャクヤクを見に行きましょう。雨天中止

花巡り山行14
大阪南部・金剛山（一般向き）
期　日　5月7日(土)　日帰り
集　合　南海河内長野駅バスのりば8時35分
コース　河内長野駅（バス）金剛登山口—カトラ谷—金剛山（国見城址）—千早園地—ミュージアム—寺谷（バス）河内長野駅（解散）
費　用　約3500円（京都から）
地　図　2万5千＝五條・御所
係　◎田中　明
申込み　HPからメールのみ受付
http://hana04.hp.infoseek.co.jp
＊定員10名
ヤマシャクヤクなどたくさんの可憐な山野草を楽しみ、星と自然のミュージアムでPC画像による花合わせもしましょう。雨天中止

鈴鹿遊山8
割谷の頭から不動谷国見
（健脚向き）
期　日　5月7日(土)　日帰り
集　合　近鉄湯ノ山温泉駅8時00分
コース　湯ノ山温泉駅（車）裏道登山口—裏道—割谷の頭—不動谷国見（孫ちゃん岩でランチ）—国見尾根—登山口（車）湯ノ山温泉駅（解散）
費　用　参加費200円（車代割り勘）
地　図　2万5千＝御在所山
係　◎筒井克治
申込み　〒610—0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊マイカー山行
巨石とヤシオ巡りのバリエーションコース。お昼はゆっくりします。
＊電車参加の人はその旨をご明記ください。雨天中止

比良を歩く40
雄松山荘道から釈迦岳・カラ岳
（中級向き）
期　日　5月8日(日)　日帰り
集　合　JR近江舞子駅8時50分
コース　近江舞子駅—雄松山荘道—ワンゲル道出合—釈迦岳—カラ岳—北西尾根—オガサカ道分岐—北比良峠—ダケ道—大山口—イン谷口—比良駅（解散17時頃）
費　用　約1300円（京都から）
地　図　2万5千＝北小松・比良山
係　昭文社＝「比良山系」
申込み　◎秦　康夫
〒610—0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
シャクナゲの群生地を歩きます。昨年はさっぱりでしたが、今年はどうでしょう。雨天中止

鈴鹿を歩く215
御所平・舟石・かもしか高原
（健脚向き）
期　日　5月8日(日)　日帰り
集　合　黒滝集落田村谷林道広場8時30分
コース　広場（車）田村谷林道取付点—ヨコネ—御所平—水無し—舟石—かもしか高原—山女原—池ノ原集落跡—林道—黒滝（解散）
費　用　交通費各自
地　図　昭文社＝「御在所・霊仙・伊吹」
係　◎岩野　明　○山田昱三
○後藤康幸
申込み　〒610—0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊マイカー山行
御所平の新緑、グミの木平と小太郎谷源頭のアセビの新緑を楽しみます（25号40ページ参照）。雨天中止

○近畿百名山に登る（第82回）
大峰・大普賢岳（中級向き）
期　日　5月8日(日)　日帰り
集　合　近鉄大和上市駅8時30分
コース　上市駅（タクシー）和佐又山ヒュッテ—笙ノ窟尾根—大普賢岳—小普賢岳—女人結界—伯母谷峡—上谷分岐—大道（タクシー）上市駅（解散18時30分頃）
費　用　約5000円（上市駅からタクシー代）
地　図　昭文社＝「大峰山脈」
係　◎村田智俊　○安倉正勝
○呉比裕美
申込み　〒610—0121
城陽市寺田大畔10の10
村田智俊まで
＊定員25名
笙ノ窟尾根から大普賢岳に登り、伯母谷峡から大迫までくだるロングコース。雨天中止

火曜ハイク6
愛宕山シリーズ6
竜ヶ岳・愛宕山からツツジ尾根
（一般向き）
期　日　5月10日(火)　日帰り
集　合　清滝バス停9時00分
コース　清滝—首無地蔵—竜ヶ岳—愛宕山—ツツジ尾根—JR保津峡駅（解散16時30分頃）
費　用　交通費各自
地　図　2万5千＝京都北西部
係　◎仲谷礼司　○田中善雄
申込み　〒610—0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
竜ヶ岳の登りは少しきついですが、そこに咲くシャクナゲを見に行きます。雨天中止

ファミリーハイク58
但馬・鉢伏山（一般向き）
期　日　5月11日(水)　日帰り
集　合　JR新大阪駅1階正面口構内7時00分
コース　新大阪駅（バス）登山口—全国石楠花公園—鉢伏山—高丸—小代越—登山口（バス）小代温泉（バス）新大阪駅（解散）
費　用　約3500円（新大阪駅からバス代）
地　図　2万5千＝氷ノ山
係　◎木村太郎
申込み　〒565—0854
吹田市桃山台1の2のB12の209　木村太郎まで
＊定員20名（会員に限る）
美方高原のシャクナゲを訪ね、新緑のブナ林を登る。雨天中止

奥美濃・左門岳（中級向き）
期　日　5月14日(土)　日帰り
集　合　樽見鉄道樽見駅9時20分
コース　樽見駅（車）上大須ダム（車）林道終点—二股—西南尾根—左門岳—二股—林道終点（車）上大須ダム（解散）
費　用　交通費各自
地　図　2万5千＝平家岳・上大須
係　◎金谷　昭　○磯部　純
申込み　〒610—0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊マイカー山行
今まで一般登山者を寄せつけな

かったやぶ山でしたが、最近設けられた作業道を利用して登ります（90ページ参照）。＊橋見鉄道利用者は便乗をお願します。事前連絡されたい（☎075―581―7947）雨天中止

自然観察山行177
美濃・西台山からタンポ
（中級向き）
期　日　5月14日(土)　日帰り
集　合　JR大垣駅9時00分
コース　大垣駅（バス）のりこし峠―西台山―タンポ―西台山―のりこし峠（バス）大垣駅（解散）
費　用　約3500円（大垣駅からバス代等）
地　図　2万5千＝谷汲・橋見
係　◎鷲見守康
申込み　〒504―0828 各務原市蘇原村南町1の19の5　鷲見守康まで
＊定員20名
昨年中止したコースを再計画しました。小雨決行

湖北の山・己高山（一般向き）
期　日　5月14日(土)　日帰り
集　合　JR木ノ本駅9時10分
コース　木ノ本駅（タクシー）石道―己高山―石道（タクシー）木ノ本駅（解散）
費　用　交通費各自
地　図　2万5千＝近江川合
係　◎高島伸浩
申込み　〒610―0121 城陽市寺田大畔10の10 新ハイキング関西まで
雨天決行

湖西・三重嶽（やや健脚向き）
期　日　5月15日(日)　日帰り
集　合　JR京都駅八条口団体バスのりば7時20分
コース　京都駅（バス）角川ダム奥三叉路（あずまや）―登山口―南尾根―三重嶽―P855㍍―P674㍍―ワサ谷分岐―石田川ダム（バス）京都駅（解散19時頃）
費　用　約3500円（京都駅からバス代）
地　図　2万5千＝熊川
係　◎森脇真義　○磯野重治
申込み　〒610―0121 城陽市寺田大畔10の10 新ハイキング関西まで
＊定員20名（会員に限る）

高島市最高峰三重嶽に登ります。少しロングコースになりますが、春の花を楽しみながら歩きましょう。雨天中止

高見山地
坂本谷支流右股より三峰山
（健脚向き）
期　日　5月17日(火)　日帰り
集　合　①奥宇陀青少年旅行村駐車場10時00分／②（乗合希望者）近鉄桔梗が丘駅南口前9時00分
コース　駐車場―弓木谷―弓木のコル―坂本谷林道―坂本谷右股―三峰山―北尾根―弓木のコル―弓木谷―駐車場（解散）
費　用　交通費各自
地　図　2万5千＝菅野
係　◎田中賢治
申込み　〒518―0626 名張市桔梗が丘6の2の18　田中賢治まで
＊定員5名
＊マイカー山行（乗合希望者はハガキに明記のこと）
涼しい坂本谷の上流をたどり、三峰山へ直接登ります。奈良県側から三重県側へと三峰山を半周する変化に富んだコースです。やぶ漕ぎの備え必要。北尾根から元の弓木谷をくだります。雨天中止

花巡り山行15
但馬・氷ノ山と鉢伏山
（一般向き）
期　日　5月18日(水)～19日(木)　1泊2日
集　合　〈18日〉JR京都駅八条口団体バスのりば7時40分
コース　〈18日〉京都駅（バス）登山口―氷ノ山越―氷ノ山―神大ヒュッテ―東尾根避難小屋―東尾根登山口（バス）民宿（泊）〈19日〉民宿（バス）登山口―鞍部―高丸山―鉢伏山―林道出合―登山口（バス）京都駅（解散）
費　用　約15000円（宿泊・バス代等）
地　図　昭文社＝「氷ノ山」
係　◎田中　明
申込み　HPからメールのみ受付 http://hana04.hp.infoseek.co.jp
＊定員20名

小さな可憐なサイシンシロガネソウは花弁の底部分の紅色が特徴のようです。雨天決行

大峰・観音峰（中級向き）
期　日　5月19日(水)　日帰り
集　合　近鉄下市口駅9時10分
コース　下市口駅（バス）観音峰登山口―観音平―観音峰―三ツ塚―法力峠―洞川温泉（バス）下市口駅（解散17時20分頃）
費　用　約3500円（阿部野橋起点）
地　図　昭文社＝「大峰山脈」
係　◎西上利和　○井上吉紀晴
申込み　〒610―0121 城陽市寺田大畔10の10 新ハイキング関西まで
観音平展望台まではよく整備された登山道で、展望台からは壮観な大峰の山並が手の届くように間近に見えます。雨天中止

三重の山77
鈴鹿・七人山（一般向き）
期　日　5月21日(土)　日帰り
集　合　近鉄湯の山温泉駅9時00分
コース　湯の山温泉駅（車）武平峠―沢谷の乗越―（クラ谷）―七人山のコル―七人山―（往路）―武平峠（解散16時頃）
費　用　150円
地　図　2万5千＝御在所山
係　◎尾崎英五　○稲垣逸夫
申込み　〒519―0311 鈴鹿市大久保町2065 稲垣逸夫まで
＊マイカー山行
新緑がすばらしい。雨天決行

自然観察山行178
美濃・瓢ヶ岳から片知山
（中級向き）
期　日　5月21日(土)　日帰り
集　合　JR岐阜駅9時15分
コース　岐阜駅（バス）瓢ヶ岳北登山口―奥瓢ヶ岳―瓢ヶ岳―骨ヶ平―南岳―片知山―片知山片知渓谷登山口（バス）岐阜駅（解散）
費　用　約3500円（岐阜駅からバス代等）
地　図　2万5千＝苅安
係　◎鷲見守康
申込み　〒504―0828 各務原市蘇原村南町1の19の5　鷲見守康まで
＊定員20名
高賀三山の秀峰瓢ヶ岳を北から登り、南岳から片知山へと縦走します。小雨決行

○鈴鹿を歩く216
鎌ヶ岳・大洞ノ頭・白滝山
（健脚向き）
期　日　5月22日(日)　日帰り
集　合　国道477号線元越谷林道入口広場8時30分
コース　広場（車）武平峠―鎌ヶ岳―鎌尾根―大洞ノ頭―白滝山―元越谷林道―広場（解散）
費　用　交通費各自
地　図　昭文社＝「御在所・霊仙・伊吹」
係　◎岩野　明　○山田昱三
申込み　〒610―0121 城陽市寺田大畔10の10 新ハイキング関西まで
＊マイカー山行
鎌尾根から分岐して西に向かい、元越谷の出合まで続く長大で秘境の尾根を踏破します。雨天中止

平日ふれあいハイク52
湖西・武奈ヶ嶽（一般向き）
期　日　5月24日(火)　日帰り
集　合　JR京都駅八条口団体バスのりば7時15分
コース　京都駅（バス）角川―赤岩山―武奈ヶ嶽―P812―ダム（バス）京都駅（解散17時30分頃）
費　用　約3000円（バス代）
地　図　2万5千＝熊川
係　◎寺井恒夫
申込み　〒610―0121 城陽市寺田大畔10の10 新ハイキング関西まで
＊定員38名
三十三間山・三重嶽・琵琶湖・比良と大きな展望があります。雨天中止

北山ちょっと歩き67
醍醐・日野嶽から高塚山
（一般向き）
期　日　5月25日(水)　日帰り
集　合　京都地下鉄東西線石田駅2番出口8時30分
コース　石田駅―日野嶽―炭山―本宮ノ峰三角点―奥醍醐―上醍醐―高塚山―長尾天満宮（15時頃解散）
費　用　約800円（京都から）

地　図　2万5千＝京都東南部
係　◎呉山繁三
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
日野線から醍醐の山々を歩きます。二つの三角点を見て修験道の新緑を心ゆくまで楽しみます。雨天中止

ファミリーハイク59
越前・取立山（一般向き）
期　日　5月25日(水)　日帰り
集　合　JR新大阪駅1階正面口
構内7時00分
コース　新大阪駅（バス）いこいの森登山口－取立山－避難小屋－水芭蕉群生地－こつぶり山－登山口（バス）新大阪駅（解散）
費　用　約4000円（新大阪駅からバス代）
地　図　2万5千＝北谷
係　◎木村太郎
申込み　〒565－0854
吹田市桃山台1の2のB12の209　木村太郎まで
＊定員20名（会員に限る）
残雪かがやく白山連峰の展望台を訪ねます。雨天中止

週末ハイク67
比良・大岩谷から鳥谷山（一般向き）
期　日　5月28日(土)　日帰り
集　合　JR志賀駅8時45分
コース　志賀駅－荒川－中谷出合－大岩谷分岐－比良岳－烏谷山－荒川峠－志賀駅（解散）
費　用　交通費各自
地　図　昭文社＝「比良山系」
係　◎狩野東彦　○孟阪利明
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
葛川越へ続く大岩谷を遡行し、途中から比良岳東南稜へ上がってブナ林の新緑を楽しみます。比良岳から荒川峠の縦走路はシロヤシオが咲く頃です。雨天中止

展望の山4
奥美濃・蕪山と平家岳（健脚向き）
期　日　5月28日(土)～29日(日)
1泊2日
集　合　(28日)　JR西岐阜駅8時30分
コース　(28日)　西岐阜駅（車）蕪山登山口（車）坂取長宿（泊）
(29日)　長宿（車）新深山トンネル西登山口－巡視路－鉄塔No.28－美濃平家岳－平家岳－（往路）－登山口（車）西岐阜駅
費　用　交通費各自（車代－1500円、宿泊代9000円）
地　図　2万5千＝平家岳
係　◎山田明男
申込み　〒503－0535
海津市南濃町松山624の19
山田明男まで
＊定員14名
平家岳は岐阜側から登ります。遅い人は美濃平家岳で引き返しになります。＊29日平家岳だけの人は、新深山トンネル西登山口へ6時までに集合ください。雨天決行

奥美濃・薮麦粒山（中級向き）
期　日　6月4日(土)　日帰り
集　合　坂内村役場前8時30分
コース　村役場（車）ニシマタ谷出合－旧林道終点－五蛇池峠分岐－主稜線－薮麦粒山－主稜線－五蛇池峠分岐－旧林道終点－ニシマタ谷出合（解散）
費　用　交通費各自

地　図　2万5千＝美濃広瀬
係　◎金谷　昭
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊マイカー山行
奥美濃の鋭峰。展望と樹林の美しさを楽しみます。雨天中止

鈴鹿遊山9
湖北・伊吹古道（健脚向き）
期　日　6月4日(土)　日帰り
集　合　伊吹町上平寺交差点8時00分
コース　上平寺交差点（車）駐車地－伊吹神社－藤古川林道－上平寺越－伊吹山－弥高尾根－弥高寺－霧ヶ城跡－駐車地（解散）
費　用　参加費2000円（車代割り勘）
地　図　2万5千＝長浜
係　◎筒井克治
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊マイカー山行
歴史の道を歩いて伊吹山頂へ。山頂でのお昼はゆっくりします。
＊関ヶ原駅7時15分着で車便乗希

望の方はその旨をご明記ください。雨天中止

自然観察山行179
南信・尾高山と鬼面山（中級向き）
期　日　6月4日(土)～5日(日)
1泊2日
集　合　〈4日〉JR岐阜駅9時00分
コース　〈4日〉岐阜駅（バス）しらびそ峠－尾高山－しらびそ峠－しらびそ高原（泊）
〈5日〉しらびそ高原（バス）地蔵峠－鬼面山－虻川林道終点－林道登山口（バス）岐阜駅（解散）
＊帰路浴食予定
費　用　約26000円（岐阜駅からバス・宿泊代等）
地　図　2万5千＝大沢岳・上久堅・下市田
係　◎鷲見守康
申込み　〒504－0828
各務原市蘇原村南町1の19の5　鷲見守康まで
＊定員20名
＊4月28日まで

南アルプス南部主稜を仰ぐしらびそ峠から尾高山を歩き、翌日は伊那山脈の最高峰鬼面山を登ります。雨天決行（コース変更あり）

鈴鹿を歩く217
山人山・七人山（一般向き）
期　日　6月5日(日)　日帰り
集　合　武平峠西広場8時30分
コース　武平峠－郡界尾根－沢谷峠－イイナのコバ－人寄りのコバ－七人山－沢谷－武平峠（解散）
費　用　交通費各自
地　図　昭文社＝「御在所・雲仙・伊吹」
係　◎岩野　明　○山田晃三
○後藤康幸
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊マイカー山行
ブナの新緑を求めての樹林の山旅です。郡界尾根から雨乞岳・七人山をたどります。雨天中止

比良を歩く41
三舞谷道から武奈ヶ岳（中級向き）
期　日　6月5日(日)　日帰り
集　合　JR堅田駅バスのりば8時35分
コース　堅田駅（バス）梅ノ木－三舞谷道－ワサビ峠－武奈ヶ岳－細川越－広谷－大御鉢－ガリバー－青少年旅行村－鹿ヶ瀬道（バス）近江高島駅（解散17時頃）
費　用　約2700円（京都から）
地　図　2万5千＝北小松
係　昭文社＝「比良山系」
申込み　◎秦　康夫
〒610－0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
三舞谷道は荒れているので、徒渉・やぶ漕ぎにやや難渋するかも知れません。雨天中止

近畿百名山に登る（第83回）
鈴鹿・竜ヶ岳（やや健脚向き）
期　日　6月5日(日)　日帰り
集　合　JR草津駅7時50分
コース　草津駅（バス）宇賀渓駐車場－林道終点－ホタガ谷西尾根登山口－蛇谷分岐－岩場－縦走路－竜ヶ岳－遠足尾根－大日向三角点－宇賀渓駐車場（バス）草津駅（解散18時30分頃）
費　用　約3500円（草津駅からバス代）
地　図　昭文社＝「御在所・雲仙・伊吹」
係　◎村田智俊　○安倉正勝
○呉比裕美
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大畔10の10
村田智俊まで
＊定員20名
ササ原の竜ヶ岳へ登りやすいホタガ谷の西尾根をつかい、下山は遠足尾根から大日向三角点に寄ってくだります。＊マイカー参加の方はその旨を明記のうえ、宇賀渓駐車場に10時集合。雨天中止

火曜ハイク7
蛾眉野路
松尾山・嵐山から小倉山（一般向き）
期　日　6月7日(火)　日帰り
集　合　阪急嵐山駅9時00分
コース　嵐山駅－松尾山－嵐山－烏ヶ岳－北松尾山（昼食）－保津峡トロッコ駅－六丁峠－小倉山－嵐山亀山公園（解散16時頃）
費　用　交通費各自

地　図　2万5千＝京都西北部
係　◎仲谷礼司　○田中善雄
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで

桂川（嵐山）両岸の400㍍前後の山を歩きます。少し悪路があります。雨天中止

北部台高
木梶川源流から木梶山
（やや健脚向き）

期　日　6月7日(火)　日帰り
集　合　①高見トンネル東口（三重県側）駐車場9時00分／②（乗合希望者）近鉄橋原駅前（コンビニ前付近）8時10分
コース　各集合地（車）木梶川木原滝不動駐車場―木梶林道終点―木梶川源流―馬駆ヶ場―木梶山―北西尾根―木梶林道―駐車場（解散）
費　用　交通費各自
地　図　2万5千＝大豆生
係　◎田中賢治
申込み　〒518－0626
名張市桔梗が丘6の2の18　田中賢治まで

＊定員5名
＊マイカー山行（乗合希望者はハガキに明記のこと）

台高支脈の隠れた名峰、木梶山を木梶川から登る涼しいコースです。木梶川は林道歩きが長いのが難点ですが、源流では古い仕事道をたどるので、沢歩きの装備は必要ありません。やぶ漕ぎあり。下りは北西尾根。雨天中止

ファミリーハイク60
六甲・樫ヶ峰（初級向き）

期　日　6月8日(水)　日帰り
集　合　阪急逆瀬川駅西口バスのりば9時15分
コース　逆瀬川駅（バス）ゆずりは台―樫ヶ峰―馬ノ背岩―社家郷山―小笠畔―摂石ヶ原―エデンの園（バス）逆瀬川駅（解散）
費　用　約2000円（逆瀬川駅からバス代・食材費）
地　図　2万5千＝宝塚
係　◎木村太郎
申込み　〒565－0854
吹田市桃山台1の2のB12の209　木村太郎まで

雑木林の静かな山を歩き、逆瀬川上流の河原でバーベキューを楽しむ。＊食事材料（飲物を除く）は係で調達します。雨天中止

湖北の山・山田山（一般向き）

期　日　6月11日(土)　日帰り
集　合　小谷山登山口駐車場8時30分
コース　登山口―小谷山六坊跡―山田山―上山田―登山口（解散）
費　用　交通費各自
地　図　2万5千＝虎御前山
係　◎高島伸治
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊マイカー山行

雨天決行

展望の山5
奥美濃・能郷白山（健脚向き）

期　日　6月12日(日)　日帰り
集　合　JR穂積駅7時00分
コース　穂積駅（車）能郷谷―能郷白山―（往路）―能郷谷（車）穂積駅（解散）
費　用　交通費各自（車代1500円）
地　図　2万5千＝能郷白山
係　◎山田明男
申込み　〒503－0535
海津市南濃町松山624の19
山田明男まで
＊定員14名
＊マイカー参加の人はその旨ご記載ください

能郷谷から1等三角点の山頂を目指します。何が咲いているか楽しみです。雨天中止

花巡り山行16
湖西・赤坂山（一般向き）

期　日　6月12日(日)　日帰り
集　合　JRマキノ駅湖国バスのりば8時50分
コース　マキノ駅（バス）白谷―黒河峠登山口―三国山―明王岳―赤坂山―ブナの木平―マキノ登山口（バス）マキノ駅（解散）
費　用　約3500円（京都から）
地　図　2万5千＝海津・駄口
係　◎田中　明
申込み　HPからメールのみ受付
http://hana04.hp.infoseek.co.jp
＊定員10名

高山植物のキンコウカが咲いているとうれしい。もちろんササユ

リ・シライトソウ等にも会いたいですね。雨天中止

大峰・天和山から滝山
（健脚向き）

期　日　6月16日(水)　日帰り
集　合　近鉄下市口駅8時40分
コース　下市口駅（バス）和田発電所―第二鉄塔―川瀬峠―天和山―川瀬峠―滝山―和田発電所（バス）下市口駅（解散午後20分頃）
費　用　約4500円（阿部野橋起点）
地　図　昭文社＝「大峰山脈」
係　◎西上利和　○井上由紀所
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで

大峰・弥山から派生した前衛の山で、自然林の尾根歩きと山頂から八経ヶ岳や釈迦ヶ岳の雄姿が望めます。雨天中止

自然観察山行180
奥美濃・能郷白山（中級向き）

期　日　6月18日(土)　日帰り
集　合　JR大垣駅9時00分
コース　大垣駅（バス）温見峠―能郷白山―温見峠（バス）大垣駅（解散）
費　用　約3500円（大垣駅からバス代等）
地　図　2万5千＝能郷・能郷白山
係　◎鷲見守康
申込み　〒504－0828
各務原市蘇原村南町1の19の5　鷲見守康まで
＊定員20名

奥美濃の名峰能郷白山を温見峠から往復します。小雨決行

三重の山78
飯高・木梶三滝（やや健脚向き）

期　日　6月18日(土)　日帰り
集　合　飯高道の駅9時30分
コース　道の駅（車）木梶―白滝―不動滝―女滝―木梶（車）道の駅（解散16時頃）
費　用　150円
地　図　2万5千＝菅野・大豆生
係　◎尾崎英五　○稲垣逸夫
申込み　〒519－0311
鈴鹿市大久保町2065
稲垣逸夫まで
＊マイカー山行

雨量によって高見山登山の場合もあり得ます。雨天決行

○鈴鹿を歩く218
ハト峰・水晶岳（健脚向き）

期　日　6月19日(日)　日帰り
集　合　国道421号線杠葉尾神崎橋広場8時30分
コース　広場（車）神崎川林道広場―白滝谷分岐―ハト峰―金山―水晶岳―根ノ平峠―神崎川大滝―天狗滝―白滝谷分岐―神崎川林道（解散）
費　用　交通費各自
地　図　昭文社＝「御在所・霊仙・伊吹」
係　◎岩野　明　○山田景三
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊マイカー山行

神崎川から白滝谷を登り、ハト峰・水晶岳・根ノ平峠と稜線を歩き、神崎川をくだる新緑のロングコースです。雨天中止

ファミリーハイク61
大塔・清水ヶ峰（一般向き）

期　日　6月23日(水)　日帰り
集　合　JR新大阪駅1階正面口構内7時00分
コース　新大阪駅（バス）赤谷緑地―十坪平―清水ヶ峰―シャクヤク沢―赤谷緑地（バス）夢乃湯温泉（バス）新大阪駅（解散）
費　用　約3500円（新大阪駅からバス代）
地　図　2万5千＝上垣内
係　◎木村太郎
申込み　〒565－0854
吹田市桃山台1の2のB12の209　木村太郎まで
＊定員20名（会員に限る）

多様な植物が育つ奈良教大の美しい演習林に登る。雨天中止

花巡り山行17
南八ツ・横岳と赤岳（中級向き）

期　日　6月24日(金)夜～26日(日)前夜発1泊2日
集　合　（24日）JR京都駅八条口団体バスのりば22時30分
コース　（24日）京都駅（バス）（25日）美濃戸口―美濃戸―赤岳鉱泉―硫黄岳―横岳―赤岳展望荘（泊）（26日）小屋―赤岳―中岳―阿弥陀岳―御小屋山―美濃戸口（バス）京都

駅（解散）
費　用　約22000円（京都駅からバス代等）
地　図　昭文社＝「八ヶ岳」
係　◎田中　明
申込み　HPからメールのみ受付
http://hana04.hp.infoseek.co.jp
＊定員20名
ハイシーズンの混雑を避けた梅雨時ですが、それにもましてチョウノスケソウやツクモグサ等、高山植物の一番花の数々を思いっきり楽しみましょう。雨天決行

自然観察山行181
北信・戸隠山と奥裾花自然園
（健脚向き）
期　日　6月24日(金)夜～26日(日)
前夜発1泊2日
集　合　〈24日〉JR岐阜駅23時00分
コース　〈24日〉岐阜駅（バス）〈25日〉戸隠神社奥社入口―奥社―百間長屋―蟻ノ戸渡―八方睨―戸隠山―九頭龍山―一不動―戸隠キャンプ場（バス）越水宿（泊）〈26日〉越水宿（バス）奥裾花自然園（バス）岐阜駅（解散）
＊帰路洛食予定
費　用　約31000円（岐阜駅からバス・宿泊代等）
地　図　昭文社＝「妙高・戸隠」
係　◎鷲見守康
申込み　〒504―0828
各務原市蘇原村雨町1の19の5　鷲見守康まで
＊定員20名
＊4月28日まで
昨年中止の再計画。初めて初夏の戸隠を訪ねます。戸隠山は危険な岩場があり、岩場に自信のない方はご遠慮ください。雨天決行（コース変更あり）

鈴鹿百山71
谷山・霊仙山（健脚向き）
期　日　6月25日(土)　日帰り
集　合　JR醒ヶ井駅8時20分
コース　醒ヶ井駅（車）梓河内―柏原道合流―谷山―経塚山―霊仙三角点―（往復）―醒ヶ井駅（解散）
費　用　交通費各自（車代500円）
地　図　2万5千＝霊仙山
係　◎山田明男
申込み　〒503―0535
海津市南濃町松山624の19
山田明男まで
＊定員20名
＊マイカー参加の人はその旨ご記載ください
歩く人の途絶えた梓河内道をたどり、谷山から行けるところまで、経塚山までは行きたい。雨天中止

紀伊山地の参詣道を歩く4
⑦熊野三山から町石道を高野山
⑧高野山女人道と高野三山巡り
（中級向き）
期　日　6月25日(土)～26日(日)
1泊2日
集　合　〈25日〉南海九度山駅9時10分
コース　〈25日〉九度山駅―慈尊院―六本杉峠―古峠―笠木峠―矢立―大門―金剛峯寺―高野山宿坊（泊）〈26日〉宿坊―大門―ろくろ峠―円通律寺―弥勒峠―中ノ橋―摩尼峠―摩尼山―黒河峠―楊柳山―子撫峠―転軸山―不動坂口女人堂―弁天岳―大門（バス）高野山駅（解散16時頃）
費　用　約15000円（大阪から交通費・宿泊代等）
地　図　2万5千＝高野山・橋本
係　◎村田智俊　○安倉正勝
○呉比裕美
申込み　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
村田智俊まで
＊定員30名（会員に限る）
町石道を高野山に登り、翌日は高野山内の女人道を巡り、高野三山に登ります。雨天決行

北山ちょっと歩き68
頭巾山と野鹿の滝（一般向き）
期　日　6月29日(水)　日帰り
集　合　JR京都駅八条口団体バスのりば7時00分
コース　京都駅（バス）福居―頭巾山―野鹿の滝―野鹿林道―納田終ダム広場（バス）京都駅（解散18時頃）
費　用　約3000円（バス代）
地　図　昭文社＝「京都北山」
係　◎呉山繁三
申込み　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
頭巾山に登り、神秘的な野鹿の滝へくだります。雨天中止

山行報告
（1・2月号）
新ハイキングクラブ関西

播磨・天下台山
1月4日(火)　晴れ
（集合）JR相生駅9・30～35（バス）西登山口10・10～20―天下台山11・05～25―岩屋分岐12・00（昼食）13・40（バス）相生駅14・10（解散）
昼食前から前線の通過で強風が吹き、寒気が身に凍みる。住田コック長の芋煮が身も心も暖かくしてくれ、全員で感謝。おみやげに里芋を持ち帰ってもらう。
（参加者）馬籠忠男　島田亮子　宮本真幸　中島　隆　田中三恵子　岩田育士　高山　雄　田所真里子　岩城豊子　貫田久子　岡田恵美子　鍛示幸男　金谷　昭　小林　桂　小林博子　小池一郎　小田潤子　宮西和子　兼田幸子　加藤元彦　福隅　章　小秋優子　村井寿和　松本忠雄　船本裕巳子　○岡田　昇　○住田善隆　◎須磨岡　輯　（計28名）

飛騨・下呂御前山（鈴鹿遠山4）
1月4日(火)　くもり
（集合）JR岐阜駅6・57（車）下呂駅9・37（タクシー）大洞登山口10・00―白樺平11・30―下呂御前山12・15（昼食）14・00―登山口15・15～30―下呂温泉大鳥登16・20（入浴）17・00―下呂駅17・36（電車）岐阜駅19・38（解散）
顔を揃えたのがムーンライト長良の車内、乗り越して大垣経由岐阜駅に再び揃う。一本遅れの車内で古い山友に出会ったのは怪我の功名だろう。積雪で登山口手前から歩く。霧雨の登りも白樺平より視界が良くなり、雪を楽しんで山頂へ。ツェルトで風よけ、新年会はゴチで盛り上がった。下呂露天風呂に入り、ホカホカの身体で帰りの車内も楽しんだ初登山だった。
（参加者）池田繁美　釣場たか子　吉村　昭　永戸鉄治　南　智恵子　多胡節子　加藤早苗　柴田小夜子　落合ひろ子　◎筒井克治（計10名）

筆捨山・花の木・羽黒山
（鈴鹿百山65）
1月4日(水)　くもり時々雨
（集合）JR関駅8・50（車）町駐車場9・10―観音山9・35―遊歩道入口9・50―羽黒山分岐10・20―筆捨山10・50―花の木11・50（昼食）12・25―小野川林道12・40―羽黒山分岐12・50―羽黒山13・45―羽黒神社14・10―正法寺山荘跡14・30―駐車場15・00～15（解散）
一時小雨が降る天候だったが一廻りでき、低いながらもおもしろい場所を歩けたし、半数以上の方が観音山も歩いた。
（参加者）山田妙子　伊藤恵美子　土井光正　安藤ゆう　成瀬みち子　奥野民憲　奥野富美　長坂佐知子　栗橋崇吉　栗橋君子　山野志保江　緒方由子　木下朝子　岡本美千子　小林　修　白木良弘　白木やす子　大西新郎　伊藤則男　北村つねみ　栗本敏夫　西村文男　岡平くみ子　伊丹紀子　炭田明美　宮路ちへ子　森　晴代　森　美香子　久保田順一　石田眞由美　○高原芳彦　◎山田明男（計32名）

京都北山・桟敷ケ岳
（ファミリーハイク50）
1月6日(水)　くもりのち雨
（集合）京阪出町柳駅9・30～35（バス）岩屋橋10・35～40―志明院11・05～10―薬師峠11・45～50―岩茸山登り口13・15（昼食）13・55―岩茸山ピーク14・05―薬師峠15・05～10―岩屋橋16・15～50（解散）
予想を超える膝上までの新雪をラッセルして歩く。岩茸山斜面の捲き道を進み、桟敷ヶ岳登頂まで残り1時間程を要する頃合で昼食にした。天候が崩れ、雪の状態から下山は暗くなると判断し、登頂をあきらめて引き返した。
（参加者）星根文子　山中あさみ　藤本桂吉　吉篠孝次　道平きわみ　市野博文　松井明忠　中澤ちず子　岩本彩子　木下朝子　金藤千恵子　本間昭恵　村上嘉子　山根太恭子　古川正子　渡部和美　田所真里子　後藤純子　隣　嘉子　氷見真砂子　堀内預智　小栗大直　志水明美　山根弘美　本間　隆　巻田　晃　小林　稔　須藤浩司　井上由紀晴　井上聡美　吉野栄子　長谷英子　上田直代　中浜泰子　成川みさお　小川晴美　中川光郎　○西條良彦　◎木村太郎　（計39名）

群馬・鹿俣山と玉原高原
（自然観察山行164）
1月8日(土)夜～10日(冬)

◎鷲見守康
＊最少催行人数に達しないため中止しました。

阿弥陀ケ峰（鈴鹿を歩く207）

1月9日(日)　吹雪

（集合）上丹生いぼとり地蔵広場8・30—浄水場登り口8・50—P664↗11・00—阿弥陀ケ峰12・00（昼食）13・00—P664↘13・40—浄水場15・00—広場15・25（解散）

浄水場から登り尾根にのると吹雪に変わった。登るにつれ雪は深くなり、猛吹雪の阿弥陀ケ峰は寒い。鞍部におりて焚火を囲んで昼食、やっと落ち着いた。吹雪は益々激しくなり、同じルートを引き返した。本格的な吹雪の冬山を十二分に楽しんだ。

（参加者）白木良弘　白木やす子
山田妙子　大西格郎　池田繁美
原　光一　原　幸子　栗本敏夫
永戸鉄治　大石将美　成瀬みち子
吉村　昭　緒方由子　石田眞由美
宮野哲郎　宮野紘子　奥野太一郎
杉山能久　一芝義雄　一芝美知子
武村千鶴　高原芳彦　伊藤重美子
川田洋子　齋田勝利　網木美恵子
今井武司　○山田景三

○後藤康幸　◎岩野　明（計30名）

北播丹波・西光寺山

1月9日(日)　晴れ

（集合）JR明石駅8・50（バス）双葉小学校前登山口10・10—こぐり岩10・50—西光寺山11・52（昼食）12・35—八畝13・05—寺跡13・15—峠13・25—寺坂分岐休憩所13・50（ぜんざい）14・45—西光寺池墓地15・00（バス）明石駅16・25（解散）

静かに舞い降る雪は太陽の光を浴びてキラキラと輝く。こぐり岩では勇気ある女性が挑戦、今年はきっと良い1年が過ごせるのでは。こぐり岩を過ぎるとぽちぽちと雪が出始めた。下山は少し冒険気味に寺跡経由で今田町側へ。登山口の休憩所ではみんなでぜんざいを楽しんだ。嬉しいことに今回のキャンセルはゼロだった。

（参加者）塩尻香織　森本　勝
森本淳子　角田一江　吉條孝次
小谷和子　岩鶴健司　森　瑞代
布施清美　島田亮子　首藤育子
松村雅子　福隅　章　馬籠忠男
狩野東彦　中島　隆　前田喜久子
高山　雄　山本武臣　山本令子
河合敏行　フリッツ知恵子

○岡田　昇　◎古賀慶二（計24名）

湖東・金勝アルプス

鶏冠山から天狗岩

1月9日(日)　晴れ

（集合）JR草津駅9・15～30（バス）上桐生10・00～20—鶏冠山11・10～20—北峰縦走路落ヶ滝分岐11・40—天狗岩12・20（昼食）13・10—耳岩分岐13・20—水鳥谷分岐13・50—一丈野野営場14・30—オランダ堰堤14・45—上桐生14・50（解散）15・00（バス）草津駅15・30

鶏冠山は今年の十二支の山で登山者が多かった。北谷林道から鶏冠山への直登をこなし、山頂での展望を楽しんでから北峰縦走路を天狗岩へ。天狗岩も大勢が憩っているので桶道に入って昼食。耳岩からは、あまり歩かれていない天狗岩を展望する尾根コースを一丈野野営場へくだった。

（参加者）藤本桂吉　若松　寛
若松朝子　市野博文　河本美千子
沖　伸　繁田広美　岡本美千子
宮下淳一　上田直代　宮路ちへ子
時光直二　岡田豊治　武部美美子
山科邦彦　増田　正　増田美也子
伊藤則男　川島勝美　宍戸喜久江
本間　隆　本間黎子　森　美香子
和田純子　渡部和美　萩野美紀恵
大西幸孝　磯野重治　斉藤よし子
林　信男　山高義治　山高多恵子
井手利美　妹尾一正　渡辺美代子
市田政子　山根弘美　山岸勝雄
前田幸子　多賀久子　和田直樹
井上恭子　吉野栄子　松本　博
上阪知子　竹田善英　中嶋日出男
松本勝子　中川光郎　○真比裕美
○安倉章勝　◎村田智俊（計52名）

鈴鹿・那須ケ原山から油日岳

1月16日(日)　晴れ

（集合）JR京都駅7・20（バス）参詣橋9・00～05—坂下峠10・00—唐木山11・05—那須ヶ原山12・20（昼食）13・05—三国岳14・25～30—油日岳15・15～30（解散）—JR油日駅17・15（電車）

気温が高く天気は良かったが北風が強く、寒い山行になった。

（参加者）岩鶴健司　武部美美子
金森節子　仲谷礼司　吉條孝次
布施清美　岩本彩子　川田洋子
宮野哲郎　宮野紘子　中村佳津子
佐野信江　西村文男　中島　隆
平田輝美　松村雅子　福井清之
繁田広美　○森脇貞義

○磯野重治　◎中西信行（計31名）

松尾寺山・八葉山

（鈴鹿百山66）

1月16日(日)　雨のち晴れ

（集合）JR醒ヶ井駅8・20（車）いぼとり地蔵8・40—醒ヶ井養鱒場8・55—松尾寺入口9・40—地蔵峠10・05—八葉山11・00—地蔵峠11・40（昼食）12・20—松尾寺山12・30—松尾寺12・45—下丹生13・25—いぼとり地蔵14・15（解散）

雨は朝方から降っていたようだが10時にはやんで二山を廻り、昔の繁栄を思わせる多くの石仏と、お寺までの丁石が確認できた。

（参加者）山田妙子　伊藤恵美子
林　正義　堀江房磨　山野志保江
栗栖忠吉　栗栖君子　森　美香子
緒方由子　大西格郎　石倉眞佐子
土井光正　沖　伸　津田周子
金谷　昭　栗本敏夫　前田悦子
平塚明美　北村　稔　北村つねみ
後藤康幸　武村千鶴　加納由紀子
成瀬忠市　小松志信　○高原芳彦
◎山田明男　（計27名）

伊勢・朝熊ケ岳

（ファミリーハイク51）

1月19日(水)　晴れ

（集合）JR新大阪駅7・00（バス）であいの広場10・10～15—ケーブル軌道跡10・40～45—朝熊峠11・35～40—朝熊ヶ岳12・00（昼食）12・45—山上公苑13・10～20—金剛証寺13・30—朝熊峠14・05～10—ケーブル軌道跡14・40—であいの広場15・05～15（バス）伊勢内宮駐車場15・35（参拝）16・20（バス）新大阪駅19・30（解散）

伊勢の山は季節風が吹き荒れることなく、山頂からは霞がかかり遠望がきかなかった。山上公苑の展望台からは伊勢湾と鳥羽湾に浮かぶ島々が広がり、春の日の夢のような景観を楽しめた。下山後おかげ横丁に立ち寄り、おみやげを手にして帰途についた。

（参加者）尾崎光子　田中　明
岩村春子　星根文子　砂原恵美子
妹尾一正　沖　伸　千葉千枝子
市野博文　松村雅子　山中あさみ
渡部和美　本間昭恵　宮野紘子
岩本彩子　大谷章子　中澤ちず子
木下朝子　平田輝美　金藤千恵子
秋葉正人　○西條良彦
◎木村太郎　（計23名）

美濃・貝月山

（自然観察山行165）

1月22日(土)　晴れ

（集合）JR大垣駅9・00（バス）揖斐高原スキー場10・50～11・00—貝月山登山口11・55～12・05—山頂手前ピーク13・25（昼食）14・15—登山口15・00—キャンプ場15・10～20—スキー場15・35～45（バス）池田温泉16・50（入浴）17・30（バス）大垣駅18・10（解散）

揖斐高原は大量の雪。雲はあるものの青空も広がり、登頂への期待が膨らんだ。男女混成のラッセル隊で奮闘したが、残念ながら山頂手前のピークで時間切れとなった。

（参加者）金森節子　北村つねみ
北村　正　北村　稍　栗栖宗吉
栗栖君子　佐々木三千代
下村啓子　稲本　寿　竹内喜久子
原　幸子　堀江房磨　武部美美子
松見　昭　光川悌史　光川二美子
宮城勝江　森　美香子
○鳥居信吾　◎鷲見守康（計20名）

南勢・島ケ頂（三重の山75）

1月22日(土)　晴れ

（集合）伊勢自動車道津城インター前コンビニ駐車場8・00（車）五ヶ所浦（車）相賀浦（車）大江（車）道行9・00—小峠9・40—島ヶ頂10・45（昼食）11・30—赤石鼻への分岐—塩竈浜12・15～13・00—小峠13・35—道行14・00（解散）

海を見ながら登り、海を見ながらくだる。頂上からの展望も抜群。塩竈浜の美しさにも脱帽。

（参加者）平　龍一　平　幸子
林　一夫　村田紀生　石田真由美
高橋正人　新町幸夫　岡本美千子
○稲垣逸夫　◎尾崎英五（計10名）

樹氷の綿向山

（鈴鹿を歩く208）

1月23日(日)　くもり

（集合）西明寺8・40（車）水木林道途中9・00—奥の平10・00—三合目10・40—五合目11・10—行者コバ11・30—綿向山12・10（昼食）13・00—北峰往復13・20—五合目14・00—奥の平14・50—表登山道入口16・00（解散）

水木林道の雪が深く途中に車を放置して歩く。奥の平は特に雪が深く交代でラッセル。五合目の新小屋完成にはびっくり。山頂からは御嶽・乗鞍岳・白山までも遠望できて大感激。北峰の雪原までピストン、竜王山はカットして下山。

奥の平への下りは雪にもぐりながら、存分に雪山を堪能した。
（参加者）木下朝子　奥野太一郎　高橋芳彦　大石村美　一芝義雄　山野志保江　宮野哲郎　宮野祐子　伊藤喜久男　谷　久雄　岩本彩子　小林　修　綱木美恵子　炭田明美　櫻田勝利　谷　守　杉山能久　○後藤康幸　◎山田昌三（計29名）

愛宕山シリーズ2
三頭山・地蔵山・愛宕から清滝

（火曜ハイク2）

1月25日(火)　くもり
（集合）JR八木駅8・30（バス）どんどん橋9・08～24―星峠9・40～45―三頭山11・03～20―芦見峠11・50～55―P856付12・45（昼食）13・20―地蔵山13・37～43―地蔵の辻14・30～38―（大杉谷）―梨の木林道出会15・55～16・08（解散）―清滝バス停
朝からの小雨は出発時にやむ。雪は例年に比べて少ないうえに、夕べの雨で雪質が少し悪くなっていた。それでも、各山頂には雪が残っていて、地蔵山裏側で雪を踏みしめての昼食も楽しめたし、雪山行の雰囲気も味わえた。雪の中のロングコースに不安を感じながらの人もおられたようだが、全員完歩。笑顔が見られた。人数が多かったので臨時バスを利用し、下山も一部コース変更した。
（参加者）田中　明　栗栖崇吉　栗栖君子　木下朝子　木村　豊　多田陽子　小林　桂　市田政子　小栗大直　真田久子　大須賀　実　山科邦彦　本間　隆　石倉真佐子　船越和明　須藤浩子　後藤純子　松井明忠　西條良彦　藤野つるみ　西村三枝　加藤浩二　砂原恵美子　林　弘毅　岩村春子　佐々木輝子　村本俊弘　西　悦子　堀江八重子　入江武史　小松志信　加藤元彦　和田直樹　中川節子　山岸勝雄　村井寿和　緒方由子　妹尾一正　角田一江　炭田明美　山根弘美　渡部和美　小谷和子　伊東ナナ子　兼田幸子　谷　守　石原君子　粟岡克子　大東　哲　松上美代子　秦　康夫　豊村雅子　山本博子　○沖　伸　○長尾一令　○山縣勝美　○加納由紀子　○田中善雄　◎仲谷礼司（計59名）

京都東山・稲荷山から八坂神社

（北山ちょっと歩き63）

1月26日(木)　くもり
（集合）JR稲荷駅9・00～10―奥の院9・20―大岩神社9・50～10・00―稲荷山三角点10・10―テニスコート10・50―五条坂11・35―清水寺11・50（昼食）12・50―将軍塚13・30―知恩院13・50―八坂神社14・20～30（解散）
有名な神社と寺院を四社つないで福をたのんで里山を歩いた。清水山三角点の見学を忘れていて残念だった。
（参加者）田中　明　山根木恭子　市野博文　本間　隆　本間黎子　木本恭子　井上聡美　井上由紀晴　中村静香　山縣　隆　松井トキ子　星根文子　小田潤子　野々山保夫　岡田里子　辻　富子　野々山明美　中村英雄　小林博子　吉條孝次　柳川常雄　入江武史　隣　嘉子　山岸勝雄　宮崎紀止　原　みとえ　横江　進　岡　葵子　中上紀代子　小川晴美　岸本笛美　中嶋日出男　下北征代　岩本彩子　赤松しげみ　諏訪祐子　星野正弘　大槻喜代子　諏訪進一　秦　康夫　秦　美代子　中村　保　○金谷　昭　○石原君子　○谷　守　○遠部　純　◎眞山繁三（計47名）

敦賀の山・鉢伏山

1月29日(土)　晴れ
（集合）JR敦賀駅9・30（タクシー）新保登山口10・15―第一鉄塔11・00―第二鉄塔11・45―鉢伏山12・50（昼食）14・00―第二鉄塔14・45―新保登山口15・30（解散）
快晴、無風、真っ青な空に真っ白の雪。思う存分雪山を楽しんだ。
（参加者）吉村　昭　光川二美子　金森節子　石原君子　石倉真佐子　谷　守　金谷　昭　宍戸喜久江　中山　勇　木戸雪江　萩野美紀恵　高島洋子　◎高島伸浩（計13名）

比叡山・無動寺道から雲母坂

（平日ふれあいハイク49）

2月1日(火)　晴れのちくもり
（集合）JR比叡山坂本駅8・35～45―無動寺道入口9・15―紀貫之墓10・40―坂本ケーブル山上駅11・15―根本中堂休憩所11・25（昼食）12・10―大比叡三角点12・50―八瀬ケーブル山上駅13・30―雲母坂―叡電修学院駅15・15（解散）
九州・四国も日本中が雪の予報だったが、山頂駐車場は晴れていて比良連峰が真っ白。また琵琶湖の向こうには伊吹山も見えるなど展望は良好だった。
（参加者）吉條孝次　市野博文　栗栖崇吉　栗栖君子　木本恭子　若松　寛　若松朝子　塚本忠次　中川光郎　榊　貶司　榊　美栄子　岩村春子　中村英雄　砂原恵美子　田中　明　松尾敏子　加藤元彦　西　悦子　小栗大直　小川晴美　仲谷礼司　木村　豊　中上紀代子　山岸勝雄　橋本　薫　山根弘美　豊村雅子　和田直樹　山盛加奈子　本間　隆　本間黎子　水本加津榮　松本忠雄　安良岡敏子　谷　守　田中善雄　石原君子　○川上久堅　◎寺井恒夫（計39名）

西播・的場山

（ファミリーハイク52）

2月3日(木)　晴れ時々くもり
（集合）JR新大阪駅8・00（バス）龍野公園10・05～15―白鷺山10・30―野見宿禰神社11・05～10―的場山11・45（昼食）12・30―両見峠13・00―鶏籠山13・20―龍野城13・45～14・05―醤油資料館14・10～30―片しぼ竹林14・40～50―龍野公園15・00～10（バス）あかね湯15・20（入浴）16・30（バス）新大阪駅18・30（解散）
童謡の曲を奏でる白鷺山で童心に浸り、的場山で小京都の風景と瀬戸海の眺めを楽しむ。鶏籠山から龍野城へくだり、せっかくなので城下町を散策した。各地から雪便りが届くが、龍野の地は風花が少し舞うだけで陽だまりに包まれた。
（参加者）吉條孝次　中澤ちず子　渡部和美　星根文子　藤本桂吉　西條良彦　市野博文　妹尾一正　松井明忠　岩城豊子　山中あさみ　山根弘美　大谷章子　成川みさお　上田久子　本間昭恵　石倉真佐子　村上嘉子　保田　正　濱本美和恵　松田　久　長沢佑美　道平きわみ　小田潤子　中村静香　林　千賀子　岩本彩子　加藤浩二　小河美奈子　小林博子　上田直代　河本美千子　河合晃行　○秋葉正人　◎木村太郎（計35名）

静ケ岳・竜ケ岳（鈴鹿連山7）

2月5日(土)　くもり
（集合）宇賀渓落合橋8・00―クラ直下11・00―県境・静御前11・30（昼食）12・30―クラ13・00―大日向14・30（小憩）15・00―宇賀渓15・30（ミーティング）16・00（解散）
あいにくの細雪が降る天気だ。柔雪で深いだろう、ラッセルは連続で休憩は後ろに下がってとる。気合いを入れて雪への挑戦。稜線では風雪強くヨロメキながら静御前窪へ、巨大なセッピが迎えてくれた。寒い中での昼食後、静ヶ岳を前にして退却する。遠足尾根を早めの帰りとなった。
（参加者）池田繁美　奥野民恵　奥野富美　大石将美　岡平くみ子　後藤康幸　谷　久雄　伊藤喜久男　武村千鶴　伊東弘隆　池田隆一　今岡民代　永戸鉄治　的場たか子　梶川軍治　山田　猛　◎岡井克治（計17名）

京都西山・天王山から善峰寺

（週末ハイク66）

2月5日(土)　くもり時々晴れ
（集合）JR山崎駅9・05―宝積寺9・15―天王山9・45～50―十方山10・25～30―浄土谷・乗願寺10・45～11・00―柳谷11・15―京青の森11・45（昼食）12・40―大沢越峠12・55―釈迦岳13・35～40―杉谷別れ鉄塔広場13・50～14・00―ポンポン山14・15～20―三鈷寺15・20～30―光明寺16・25（バス・解散）
天王山のハイキングコースを小倉山手前から南西尾根に入り、アルピニストあこがれの世界の山々の方位板が建つ十方山へ到着。水無瀬と浄土谷を結ぶ林道へくだり、乗願寺で大仏参拝とトイレ休憩をとった。柳谷からは少し荒れた谷沿いの仕事道を歩いて京青の森へ。ポンポン山から善峰寺へくだり、入山無料の三鈷寺で白梅の香りと京都盆地の景色を楽しんだ。後はひたすら舗装道路を歩きバス便がある光明寺で解散した。
（参加者）吉條孝次　沖　伸　木村　豊　繁田広美　馬籠忠男　蓮井洋子　船越利明　井上由紀晴　後藤純子　森　瑞代　堀江八重子　田中　明　小川晴美　山添登志子　山岸勝雄　増田　正　増田美也子　仲谷礼司　小林　桂　水本加津榮　志水明美　萩野暢子　竹内正子　青木一雄　吉野栄子　岸本笛美　小松志信　隣　嘉子　中川光郎　山本博子　◎狩野東彦（計31名）

美濃・湧谷山

（自然観察山行166）

2月5日(土)　晴れ
（集合）JR大垣駅9・00（バス）

遊ランド坂内スキー場10・10（リフト）リフト終点地10・30—丁字山13・10（昼食）14・00—リフト終点地15・30—スキー場15・50～16・00（バス）池田温泉16・45（入浴）17・30（バス）大垣駅18・00（解散）

今冬は、長期予報では暖冬ということだったが、美濃の山には大量の積雪があった。急斜面の連続だったが、先行パーティ（新ハイ会員ら）のラッセルに助けられて前進。しかし、時間切れのため湧谷山手前の丁字山で引き返した。

（参加者）栗岡克子　荻野美紀恵　岡本佳子　金森節子　加納由紀子　栗栖崇吉　栗栖君子　下村啓子　長尾一令　西田俊治　砂原恵美子　堀江房磨　牧　和夫　三井紘一　宮本真幸　宮本悦子　森　美香子　○島居信吾　◎鷲見守康（計19名）

湖東・長命寺から奥島山

2月6日(日)　くもり

（集合）JR近江八幡駅10・20～22（バス）長命寺下10・45～55—長命寺11・10～20—津田山三角点12・00—巨岩広場12・10（昼食）12・35—林道分岐12・50—国民休暇村東館13・50（入浴）15・26（バス）近江八幡駅16・05（解散）

急な石段を長命寺に登り、思ったより展望のない奥島山の稜線を歩いた。昼食をとった巨岩広場からは琵琶湖を望み、その奥には冠雪の湖北の山々が美しく見えた。予定通り入浴できる14時前に国民休暇村へくだり、温泉で汗を流した。

（参加者）星根文子　石倉眞佐子　市野博文　東村由美　宍戸喜久江　山岸勝雄　中村英雄　中村恵美子　磯野重治　林　信男　小椋きぬ子　上阪知子　巻田　晃　武部芙美子　本間　隆　本間黎子　中嶋日出男　上田久子　福隅　章　井林寿奈子　杉本　高　渡部和美　佐野信江　小池一郎　多数久子　川北恵美子　小谷相子　前川久枝　○呉氏裕美　○安倉正勝　◎村田智俊（計33名）

三河・猿投山（展望の山1）

2月6日(日)　晴れ

（集合）愛知環状鉄道山口駅9・00—海上の森四つ沢9・15—図根点9・20—物見山10・10—赤猿峠11・20—三角点12・15—広場12・25（昼食）13・00—猿投山山頂（東宮）13・15—西宮13・45—林道経由物見山15・35—瀬戸大正池16・00—四つ沢16・15—山口駅16・30（解散）

先日の雪が残り歩きにくかった。帰りのコースを当初予定から変えて東宮・西宮を廻ったので45分余分にかかり、距離も2㌔のびて充実した山歩きとなった。

（参加者）山田妙子　伊藤重美子　馬場桂子　竹内正子　砂原重美子　栗栖崇吉　栗栖君子　南　智恵子　春見重美　竹田善英　生越重美子　若林文夫　三井紘一　村田紀生　中神恵子　◎山田明男（計16名）

能登ケ峰（鈴鹿を歩く209）

2月6日(日)　くもり

（集合）大河原「かもしか荘」8・20（車）鮎河8・30—林道登山口9・00—能登ヶ峰10・05—鹿の楽園11・00—鞍部11・20（昼食）12・10—P758ピ13・00—林道14・00—鮎河14・50（解散）

登るにつれ雪は深くなり、能登ヶ峰の三角点は深い雪の中。霧氷の雪原から鹿の楽園に着くとすごい、アセビの丘はすばらしい雪既の殿堂に変わっていた。鞍部の雪原で焚火を囲んで昼食。P758ピからの下りは雪で道が消えていたが何とか林道におりることができた。真冬の鹿の楽園の絶景は天下一品、心に残る冬山となった。

（参加者）高原芳彦　奥野太一郎　栗本敏夫　北村　稔　北村つねみ　武村千鶴　炭田明美　金谷　昭　市田政子　緒方由子　永戸鉄治　樫田勝利　一芝義雄　一芝美知子　小林　修　今井武司　石田眞由美　岩本彩子　加藤國計　網木美恵子　谷　守　堀　寿江　佐古田文子　杉山能久　○後藤康幸　○山田景三　◎岩野　明（計19名）

奈良・日張山から烏帽子岳

2月10日(木)　小雨のちくもり

（集合）近鉄榛原駅9・00～15（バス）宇賀志9・40—ひばり山参道—青蓮寺10・40—日張山11・10—一谷峠12・10（昼食）12・40—烏帽子岳13・50—宗橋14・40—松井天神社前15・50（バス）榛原駅16・25（解散）

一谷峠からは低山ながらも急登や急坂の連続で、そのうえ小雨と霧で厳しかったが、烏帽子岳に着くと安堵感と達成感があった。

（参加者）星根文子　山中あさみ　上西信子　吉條孝次　宮路ちへ子　木村　豊　荒木光雄　山根木恭子　山縣　隆　山縣勝美　塚本忠次

宮西和子　尾崎光子　竹田勝英　堀内預智　辻垣詞子　石倉眞佐子　藤本桂吉　緒方由子　中島　隆　岡田芳員　奈良邦子　若林文夫　渡部和美　木下朝子　森田久子　松村雅子　金谷　昭　西　悦子　楠部和代　○井上由紀晴　◎西上利和（計32名）

美濃・池田山

（自然観察山行167）

2月12日(土)　晴れのちくもり

（集合）JR大垣駅9・00（バス）薮間ヶ渓9・25—中腹東屋11・05～15—池田の森11・40～50—池田山12・40（昼食）13・25—池田の森14・15—薮間ヶ渓16・00（バス）池田温泉16・10（入浴）17・00（バス）大垣駅17・20（解散）

池田の森まで雪は無く、天候に恵まれて日溜まりハイキング。池田の森からスノーシューなどを履き、スノーハイキング。恵那山・南ア・中央ア・御嶽などの雪嶺を遠望した。

（参加者）今井淑雄　荻野美紀恵　金森節子　平田輝美　竹内喜久子　堀江房磨　佐々木三千代　堀江八重子　森　美香子　○栗栖崇吉　◎鷲見守康（計11名）

愛宕山シリーズ3

大杉谷左岸道から八丁尾根（火曜ハイク3）

2月15日(火)　◎伊谷礼司

＊雨天のため中止しました。

台高・三峰山（ファミリーハイク53）

2月16日(水)　◎木村太郎

＊雨天のため中止しました。

紀伊路2

③得生寺から糸我峠

④井関から鹿ケ瀬峠越

（紀伊山地の参詣道を歩く2）

2月19日(土)～20日(日)　1泊2日

（19日　くもりのち雨）（集合）近鉄上本町駅8・00（バス）宮原橋渡し場北詰10・00～10—得生寺10・25～30—くまの古道資料館10・35（見学）10・50—糸我峠11・00—糸我峠11・30（昼食）12・00—逆川王子12・35～40—湯浅町内「立石」13・30—津兼王子14・10—河瀬橋14・30（バス）二川温泉15・30（泊）

（20日　晴れ）二川温泉8・10（バス）河瀬橋・河瀬王子9・00—鹿ヶ瀬峠10・10～20—題目板碑前休憩所10・50～11・00—四ツ石聖蹟地西原谷皇太神社11・30（昼食）12・00—内ノ畑王子12・35—高野茶屋王子・内原王子・高野茶屋12・50～13・00—善第王子王子13・30～45—愛徳山王子14・10～20—道成寺14・30（見学）15・00（バス）なんば駅16・40（解散）

得生寺からすぐの「くまの古道資料館」へ立ち寄り、往昔の「熊野詣で」をしのんだ。糸我峠越えから湯浅の町並を抜けて河瀬橋に着くと雨になった。二川温泉で楽しく交流し、翌日は石畳道の続く鹿ヶ瀬峠を越えて黒竹林のなかを日高町から御坊市へ歩いた。愛徳山王子には梅林があって一面の白い花を楽しんだ。今回の最終地は安珍・清姫伝説の道成寺。みやげを買って広い境内を見学した。

（参加者）岩鍋健司　岡崎知子　伊東ナナ子　冨松雅子　河原美代子　金森節子　板井克久　小河美奈子　田中　明　中川光郎　道平きわみ　佐野信江　和田鶴子　野末あや子　若松　寛　若松朝子　中川節子　下村啓子　川田洋子　森　美香子　宮野紘子　馬籠忠男　森本　勝　森本浄子　藤原栄寿　西原辰夫　○呉氏裕美　◎村田智俊（計28名）

蛇谷ケ峰（比良を歩く37）

2月20日(日)　小雪

（集合）JR近江高島駅8・55～9・00（バス）畑9・20～40—林道登山口10・00—徒渉地点10・25～35—ボボフダ峠11・02～10—蛇谷ヶ峰12・25—探勝道分岐8・17ピ12・45（昼食）13・30—造林公社営林地看板13・50—富坂口15・40（解散）～16・23（バス）近江高島駅16・40

今年の比良は雪が深い。登りのどのあたりから輪カンが必要かと思案したが、登山道をはずさない限り、新雪の下の雪は固く、結局蛇谷ヶ峰山頂までなんとかツボ足で行けたので、時間が大いにセーブできた。山頂からの下りは、輪カンが必要な雪の状態だったが面倒なので、足をとられながらも無理して探勝道分岐まで降りた。昼食後、全員輪カンを装着。雪まみれになりながらの富坂尾根くだりは楽しかった。

（参加者）長尾一令　狩野東彦　礒部　茂　谷川俊一　蓮井洋子　高橋舜治　林　正義　仲谷礼司　大森康行　武部　剛　武部芙美子　中島　隆　小池一郎　松上美代子　瓜坂利明　園田憲章　松本勝子

山科邦彦　牧　和夫　市井ユリエ
山口敏明　山本京子　久保田玲子
松村雅子　小山誠次　○宮下淳一
○田中善雄　◎秦　康夫（計28名）

霊仙山西南尾根

（鈴鹿を歩く210）

2月20日(日)　くもり時々雪
（集合）甲頭倉入口広場8・15（車）今畑8・30—汗ふき峠9・45—見晴台10・30—おさる岩11・00—霊仙山11・45（昼食）12・30—最高峰12・40—南霊仙13・30—近江展望台13・45—笹峠14・20—今畑15・25（解散）
広大な山頂部の雪原はアイスバーンで、ガスと強風と樹氷の花が続き、霊仙山はホワイトアウトで何も見えない。雪庇の下での昼食も寒く冷たい。しかし、皆元気でノーマルヒルでヒップスキーを楽しむ。西南尾根も深いガスと強風、そして樹氷がどこまでも続き、今までにない厳しい幻想の冬山を体験。セツブンソウとフクジュソウの花も愛でることができ、思い出の山行となった。
（参加者）高原芳彦　奥野太一郎
栗木敏夫　北村　稔　北村つねみ
武村千鶴　永戸鉄治　樫田勝利
小林　修　宮野哲郎　大西節郎
加藤國計　一芝義雄　一芝美知子
井上　光　大石村美　石田眞由美
谷　守　杉山能久　熊田千夜子
原　光一　原　幸子　粟岡克子
堀　寿江　水谷俊之　○後藤康幸
○山田景三　◎岩野　明（計28名）

左大文字・衣笠山・御室山

（北山ちょっと歩き64）

2月23日(水)　晴れ
（集合）JR京都駅8・50（バス）金閣寺前9・50—左大文字10・35—衣笠山11・35—一条・宇多天皇陵12・20—広場12・25（昼食）13・50—八十八ヶ所52番14・10—43番14・35—1番15・00—五知不動蓮華寺15・15～25（解散）
今回の里山は、大勢の参加者があり、歴史ある所を楽しく歩いた。左大文字火床から名天皇陵へ。および仁和寺御室八十八ヶ所から五知不動蓮華寺で解散した。
（参加者）栗栖崇吉　栗栖君子
冨田満子　小林　桂　東村由美
後藤純子　塚本忠次　田中　明
仲谷礼司　志水明美　辻垣絢子
市野博文　上田久子　石倉真佐子
豊村雅子　木本恭子　松上美代子
渡辺淑子　本間　隆　木下朝子
中村美雄　若林和人　宮崎紀正
横江　進　宮野祐子　堀江八重子
金谷　昭　入江武史　野々山保夫
岡田里子　岩村春子　岩村喜代子
山口雅江　山口勝行　大嶽喜代子
小川晴美　伊藤正延　藤本桂吉
岸本節美　妹尾一正　松井トキ子
磯部　純　中川光郎　小野しげ子
山内裕代　角田一江　石田眞由美
谷　守　小谷和子　今中三恵子
中村　保　和田直樹　原　みとえ
石原君子　星野正弘　野里マツヨ
西村三枝　渡辺草月　細井和子
森　和久　酒見祥子　中嶋日出男
山縣勝美　児島愛子　中上紀代子
岩本彩子　松本忠雄　山盛加奈子
山縣　勝　秦　康夫　秦　美代子
◎真山繁三　（計72名）

北アルプス

西穂丸山と鍋平高原

（自然観察山行168）

2月25日(金)夜～27日(日)
前夜発1泊2日
〈25日　くもり時々晴れ〉（集合）JR岐阜駅23・00（バス）
〈26日　晴れのちくもり〉中尾温泉3・15（仮眠・朝食）7・50（バス）新穂高口駅8・10～30（ロープウェイ）西穂高口駅9・10—西穂高登山口9・15—西穂山荘11・10（昼食）11・40—西穂丸山12・05～15—西穂山荘12・40～13・00—西穂高登山口14・05—西穂高口駅14・15～15・00（ロープウェイ）新穂高駅15・25（バス）中尾温泉15・45（泊）
〈27日　晴れ〉中尾温泉7・40（バス）新穂高駅8・00～30（ロープウェイ）鍋平高原駅8・50—鍋平高原スノーハイク—鍋平高原駅10・45（ロープウェイ）新穂高駅11・00（バス）ジョイフル朴ノ木11・45（入浴・昼食）13・40（バス）岐阜駅18・10（解散）
冬型の気圧配置が強まり、本格的な降雪という天気予報だったが、なんとか天候が味方し、パウダースノーの積雪を蹴って滑落危険の斜面を登り切り、予定通り西穂丸山に立つことができた。雪嶺の槍・穂高も望む幸運に大満足のスノーハイキングだった。
（参加者）伊藤　直　井林寿奈子
栗栖崇吉　栗栖君子　荻野美紀恵
加納由紀子　砂原重美子
中村静香　長尾一令　中上紀代子
宮本真幸　宮本悦子　林　えい子
原　幸子　森　美香子
○鳥居信吾　◎鷲見守康（計17名）

湖北・小谷山

2月26日(土)　晴れ時々くもり
（集合）小谷山登山口駐車場9・00—本丸跡10・00—小谷山10・45（昼食）11・55—山崎丸—清水神社12・35—小谷山駐車場13・00（解散）
カンジキを履いて雪の上を歩くつもりがカンジキの出番はなかった。悪天の予報もはずれ、青空の下で真っ白な伊吹山を見て昼食となった。
（参加者）吉村　昭　光川二美子
木下朝子　緒方由子　市田政子
谷　守　白木良弘　白木やす子
炭田明美　池田繁美　竹越富美江
小林　修　高島洋子
◎高島伸治　（計14名）

湖西・寒風山から赤坂山

2月27日(日)　くもり時々雪
（集合）JR京都駅7・20～8・00（バス）マキノ高原10・00—第二リフト10・13—尾根取付点10・47—寒風山12・40（昼食）13・25—マキノ高原15・00（バス）京都駅17・00（解散）
寒風山は前26日の冬型で50㎝以上の積雪。第二リフトから尾根取付点まではトレースが無く時間がかかった。以降はトレースがあり寒風山まで楽させてもらった。途中から伊吹山や金糞山が白く光っていた。寒風山で昼食にしたが、急に雪が降ってきたので先行のパーティにラッセルのお礼を述べ下山した。
（参加者）蓮井洋子　武部芙美子
布施清美　多賀久子　多賀周二
狩野東彦　堀江房慶　川田洋子
宮野哲郎　宮野祐子　村田はる江
児島愛子　岩本彩子　山科邦彦
山縣勝美　中川節子　三井紘一
○中西信行　◎森脇真義（計19名）

霊仙山（鈴鹿百山66）

2月27日(日)　晴れ
（集合）JR醒ヶ井駅8・20（車）樽ヶ畑手前登山口8・55—五合目見晴台9・55—霊仙山三角点11・10（昼食）12・50—見晴台13・30—登山口14・30（車）醒ヶ井駅15・10（解散）
何度も登っている人でも最高というほどの天候と霧氷と良い条件に恵まれ、山頂では尻滑りを堪能した。
（参加者）山田妙子　佐古田文子
笹岡庄蔵　佐藤文枝　伊藤恵美子
林　正義　竹内正子　岡平くみ子
下村啓子　沖　伸　今井みよ子
吉田峰子　栗本敏夫　長坂佐知子
吉村　昭　藤本敏雄　南　智恵子
鈴木　浩　鈴木友子　○高原芳彦
◎山田明男　（計21名）

奈良・鳥見山から貝ケ平山

2月27日(日)　くもり時々晴れ
（集合）近鉄榛原駅9・10～20—鳥見山公園10・30～55—見晴台11・00（昼食）11・40—鳥見山12・00—貝ヶ平山13・00—青龍寺13・40～14・00—小鹿野—榛原駅14・40（解散）
鳥見山公園内を散策し、見晴台で眺望を楽しみながら昼食にしたが、風があり寒かった。鳥見山から貝ヶ平山への尾根道はうっすらと雪が積もっていた。リーダー村田は風邪気味で体調が悪く、貝ヶ平山登頂をあきらめ直下で待っていた。青龍寺に早く下山したのでゆっくり休憩し、山越えの里道を伝って榛原駅まで歩いて帰った。
（参加者）松村雅子　山中あさみ
大西幸孝　塚本忠次　斉藤よし子
市野博文　増田　正　増田美也子
福井清之　井上恭子　内海　緑
山岸勝雄　澤田高治　岡本美子子
妹尾一正　福隅　章　高岡富美子
林　信男　渡部和美　川北恵美子
山口豊弘　山本博子　○呉比裕美
○安倉正勝　◎村田智俊（計25名）

（1・2月の参加者　延970名）

山村茂樹著（新ハイキング関西会員）

蟻さんの熊野紀行シリーズ　Ⅰ～Ⅲ

Ⅰ **紀伊路・中辺路を行く**（既刊）

A５判・230ページ　1,800円＋税

Ⅱ **新大辺路を行く**（既刊）

A５判・228ページ　1,900円＋税

Ⅲ **高野・小辺路を行く**（最新刊）

A５判・280ページ　2,000円＋税

好評発売中

大阪堺から古道を歩いて熊野本宮大社に到着する。昔からの古道を探し、峠を越え、海を見ながら、熊野古道を歩いた紀行文の三部作。
王子と社寺、道標石標・石仏を訪ね、ゆかりの歴史や文学も紹介する。熊野古道歩きの多くの参考資料をも集めた本格的な紀行本。
今回、世界遺産に登録された熊野古道を、本書を読んで、じっくり歩いてみませんか。

発行　ナカニシヤ出版

編集　新ハイキング関西

新ハイキングクラブ関西 入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西の山」（隔月刊・年6号発行）の定期購読者を中心にしたハイキングの集いです。

この雑誌は紀行文やコースガイドなどで、関西のハイキングコースや山の情報を発信しています。山の知識を深め、健康な身体をつくり、自然のなかを歩く喜びをともに広めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和25年発足以来、東京を中心に55年間余、好評のうちに活動しています。関西は平成3年発足で14年目に入りますが、すでに多数の会員で活動しています。

会員は当会の山行例会に優先して参加できます。この山行例会を通じて楽しい山歩きを、多くの仲間たちと味わいませんか。

リーダー（係）はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。

会員には「新ハイキング関西の山」を毎号お届けします。

四季の自然に触れながら山を歩き、若々しい心と健康をいつまでも持続するのはすばらしいことです。これから始めてみたい人、すでにベテランの人もみなさんご入会いただけます。

入会金　500円（バッジ代）
年会費　3000円（雑誌）（送料共）

入会の申し込み（随時）はこの雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。氏名（ふりがな）及び第何号からの送本かを忘れずにご記入ください。

なお、定期購読をご希望される方も会員になっていただきますと、毎号確実にお手元に届きますので便利です。

切手530円分をお送りになれば、「新ハイキング関西の山」最新号を1冊送ります。

○山行リーダー募集

リーダーは2ヶ月に一～二回程度の山行例会を計画・実施していただきます。

無償の奉仕ですが、やりがいもあり、楽しいものです。経験のある方や、やってみたいと思われる方は、新ハイキング関西までご連絡ください。マニュアル「リーダー必携」をご参考に送ります。

○新入会員（定期購読者）紹介

新しいお仲間のみなさんです。会員番号5049番から5072番まで（敬称略）。

【愛知】川崎達也
【三重】伊東弘隆　岡平くみ子
【滋賀】北村正美
【京都】西村三枝　青木　彰
小泉大直　田中保信
横江　迪　津川　実
中里太郎　伊藤　晋
【奈良】高　政幸　鍵山幸雄
【大阪】大国陽子　冨田雅也
熊村幸枝　藤原くに代
中辻博教　益田　武
秋田　弘　三好克見
【兵庫】三好恵子　上住忠雄
（24名）

訂正とお詫び

81号（陽春）44～51ページ「インカ古道（トレール）を歩く」の付近図や文中に数箇所にわたって誤りがありましたので深くお詫びします。

①45ページ上段2行目「サクサイマン」は「サクサイウ・アマン」が正しい。

②47ページ付近図中「パカヨマ川キャンプ場」は「パカマヨ川キャンプ場」が正しく、同ページ文中下段14行目も同様。「アグアス・カリエステス」は「アグアス・カリエンテス」が正しい。「ワイナピチュ峰」は「ワイナピチュ」が正しく、文中49ページ下段22行目・50ページ中段13行目・同ページ下段11行目、13行目も同様。ちなみに、文中のワイナピチュはケチュア語で「若い峰」、マチュピチュは「老いたる峰」。

③48ページ上段22行目「メルサーサ（魚）」は「メルルーサ（魚）」が正しい。

④50ページ中段1行目「ビルガバンバ」は「ビルカバンバ」が正しい。

⑤51ページ中段14行目「フォルクローレ（アンデスの民衆の歌）」は「……（広く民俗音楽）」とします。

⑥51ページ下段24行目「インカ・ベールの旅は、」は「インカ古道の旅は、」に訂正します。

81号（陽春）83ページ一段22行目「美濃や飛騨の……」は「美濃や飛騨の……」が正しい。

（編集室）